

課 長	技術総括	課長補佐	課 員	担 当

特 記 仕 様 書 （解体工事）

I 工 事 概 要

1. 工 事 名 騰波ノ江幼稚園園舎解体及び駐車場整備工事
2. 工事場所 下妻市若柳地内
3. 敷地面積 1,045.00 m²
4. 建設工事その他概要（建物名称、構造、階数、建築面積、延べ面積、各階床面積、等）
 - (1) 工事範囲 「(2)建物概要」すべて
 - (2) 建物概要
(全体)

建物名称	園舎
構 造	RC 造 一部 S 造
階 数	地上 1 階
建築面積	315.00 m ²
延べ面積	283.80 m ²

5. 別途工事
 - ・なし

(H14. 05. 30 作成)	(H27. 05. 15 改定)	(R03. 04. 30 改定)
(H15. 06. 01 改定)	(H28. 04. 25 改定)	(R04. 05. 15 改定)
(H17. 10. 01 改定)	(H29. 04. 25 改定)	(R05. 05. 15 改定)
(H19. 07. 01 改定)	(H30. 04. 25 改定)	(R06. 05. 15 改定)
(H25. 05. 15 改定)	(H31. 04. 25 改定)	(R07. 05. 15 改定)
(H26. 05. 15 改定)	(R02. 04. 30 改定)	

Ⅱ 解体工事仕様

1. 共通事項

(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下部仕様書等のうち、☐を付けたものを適用する。

☐ 建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）（以下、「解体共通仕様書」という。）

☐ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下、「標準仕様書」という。）

☐ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）

・ 公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版）（以下、「木造標準仕様書」という。）

2. 特記事項

(1) 項目は、番号に☐印の付いたものを適用する。

特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。

◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。

(2) 特記事項に記載の＜ ＞内表示番号は、解体共通仕様書の該当項目、当該図又は当該表を示す。

(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の該当項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標準仕様書の該当項目、当該図又は当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項															
1 共通事項	1 リサイクルの優先順位	(1)発生抑制の徹底 (2)現場分別の徹底 (3)再使用の徹底 (4)再資源化・再生資材利用の徹底 (5)適正処理の徹底 (再資源化に係る作成書類は、付記事項の6を参照)															
	2 石綿含有建材の調査	[1.5.1] 調査 ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料（ ） ※分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法 <table><tr><th>材料名</th><th>定性分析方法</th><th>定量分析方法</th></tr><tr><td></td><td>(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)</td><td>(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)</td></tr><tr><td></td><td>・ (箇所)</td><td>・ (箇所)</td></tr><tr><td></td><td>・ (箇所)</td><td>・ (箇所)</td></tr><tr><td></td><td>・ (箇所)</td><td>・ (箇所)</td></tr></table> サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 ・ 図示による ・	材料名	定性分析方法	定量分析方法		(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)		・ (箇所)	・ (箇所)		・ (箇所)	・ (箇所)		・ (箇所)	・ (箇所)
	材料名	定性分析方法	定量分析方法														
		(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)														
		・ (箇所)	・ (箇所)														
	・ (箇所)	・ (箇所)															
	・ (箇所)	・ (箇所)															
3 施工数量調査	<1.5.2> ・ 行う 調査範囲 ※図示による 調査方法 ※図示による ・ 行わない																
4 技能士	<1.6.2> <table><tr><th>工事項目</th><th>技能検定職種</th><th>技能検定作業</th></tr><tr><td>仮設工事</td><td>とび</td><td>・ とび作業</td></tr></table>	工事項目	技能検定職種	技能検定作業	仮設工事	とび	・ とび作業										
工事項目	技能検定職種	技能検定作業															
仮設工事	とび	・ とび作業															
5 契約直後・施工中の提出書類	契約書、解体共通仕様書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、契約時又は施工中に以下の書類を監督員に提出する。 契約直後に提出する書類 ・ コリンズへの登録が確認できる書類（付記事項2参照） ※火災保険等（法定外の労災保険を含む）に加入したことを証明できる書類 ・ 建設業退職金共済制度の掛金収納書提出用台紙（様式第033号） ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数 施工中に提出する書類 ※施工体制台帳の写し ※施工体系図の写し ・ コリンズへの変更・訂正登録が確認できる書類（付記事項2参照） ※産業廃棄物処理関係書類（産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し、産業廃棄物処理委託契約書及び許可書の写し等） ※産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写し ・ 建設副産物実態調査に関する出力調査票 ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数																

章	項 目	特 記 事 項																				
	6 完成時の提出書類	<div>(1.7.1～1.7.3) (表 1.7.1)</div> <div>契約書、解体共通仕様書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、完成時に以下の書類を監督員に提出する。</div> <div>※完成図</div> <div>※作成する</div> <div>提出書類及び部数</div> <div><div><div>・ 原図 (・ A1 ・ A2 ・ A3)</div><div>※製本 (・ A1 ・ A2 ※A3)</div><div>※CAD データ (JWW 形式)</div></div><div><div>部数</div><div>部数</div><div>部数</div></div><div><div>1 部</div><div>1 部</div><div>CD-R (1 枚)</div></div></div> <div>・ 作成しない</div> <div>※写真</div> <table><tr><th>適用</th><th>内容</th><th>枚数</th><th>提出方式</th><th>部数</th></tr><tr><td>※</td><td>工事写真</td><td>適宜</td><td>電子データ (JPEG 形式)</td><td>CD-R (1 枚)</td></tr><tr><td>※</td><td>完成写真 (支払用 : 内外観)</td><td>各 2 枚以上</td><td>A4 版</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・</td><td>完成写真</td><td>適宜</td><td>・ カラー印画紙 ・ コピー用紙 ・ 電子データ</td><td>・ 1 部 ・ CD-R</td></tr></table> <div>カラー印画紙及びコピー用紙は黒表紙金文字入りでサイズはH320 X W300 程度とする</div> <div>完成写真 (カラー印画紙及びコピー用紙) の撮影業者</div> <div>※建築完成写真の撮影実績のある者で、監督員が承諾する撮影業者</div> <div>※保全に関する資料 部数 ※ 1 部</div> <div>・ コリンズへの完成登録が確認できる書類 (付記事項の 2 を参照)</div> <div>・ 建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表 (様式第 031 号)</div> <div>※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数</div>	適用	内容	枚数	提出方式	部数	※	工事写真	適宜	電子データ (JPEG 形式)	CD-R (1 枚)	※	完成写真 (支払用 : 内外観)	各 2 枚以上	A4 版	1 部	・	完成写真	適宜	・ カラー印画紙 ・ コピー用紙 ・ 電子データ	・ 1 部 ・ CD-R
適用	内容	枚数	提出方式	部数																		
※	工事写真	適宜	電子データ (JPEG 形式)	CD-R (1 枚)																		
※	完成写真 (支払用 : 内外観)	各 2 枚以上	A4 版	1 部																		
・	完成写真	適宜	・ カラー印画紙 ・ コピー用紙 ・ 電子データ	・ 1 部 ・ CD-R																		
	7 埋蔵文化財	<div>※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</div> <div>※掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、教育庁文化課担当と協議を行うこと。</div> <div>※掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</div>																				

章	項 目	特 記 事 項																								
2 仮設工事	1 足場等	<p>足場を設ける場合には、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省平成 21 年 4 月 24 日）の「（別紙）手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中棧及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。</p> <p>なお、「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙 1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における 2 の（2）手すり据置き方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行う。</p>																								
	2 騒音・粉じん等の対策	<p style="text-align: right;">＜2.2.1＞</p> <p>※防音パネル（足場等の設置範囲及び高さ ※図示による ・ ）</p> <p>・ 防音シート</p> <p>・</p>																								
	3 監督員事務所	<p style="text-align: right;">＜2.3.1＞</p> <p>・ 設ける</p> <p>規模： m²程度</p> <p>仕上げる程度： 程度</p> <p>備え付ける備品：</p> <table><tr><td>・ 机 脚</td><td>・ 椅子 脚</td><td>・ ロッカー 台</td><td>・ 書棚 台</td></tr><tr><td>・ ホワイトボード</td><td>・ 製図板</td><td>・ 掛時計</td><td>・ 寒暖計</td></tr><tr><td>・ ゴム長靴</td><td>・ 雨合羽</td><td>・ 保護帽</td><td>・ 懐中電灯</td></tr><tr><td>・ 安全帯</td><td>・ 受注者加入電話の子機</td><td></td><td>・ 暖冷房機</td></tr><tr><td>・ 消火器</td><td>・ 湯沸器</td><td>・ 掃除具</td><td></td></tr><tr><td>・ その他（</td><td></td><td></td><td>）</td></tr></table> <p>※設けない</p>	・ 机 脚	・ 椅子 脚	・ ロッカー 台	・ 書棚 台	・ ホワイトボード	・ 製図板	・ 掛時計	・ 寒暖計	・ ゴム長靴	・ 雨合羽	・ 保護帽	・ 懐中電灯	・ 安全帯	・ 受注者加入電話の子機		・ 暖冷房機	・ 消火器	・ 湯沸器	・ 掃除具		・ その他（			）
	・ 机 脚	・ 椅子 脚	・ ロッカー 台	・ 書棚 台																						
	・ ホワイトボード	・ 製図板	・ 掛時計	・ 寒暖計																						
	・ ゴム長靴	・ 雨合羽	・ 保護帽	・ 懐中電灯																						
・ 安全帯	・ 受注者加入電話の子機		・ 暖冷房機																							
・ 消火器	・ 湯沸器	・ 掃除具																								
・ その他（			）																							
4 工事用水	<p>構内既存の施設</p> <p>・ なし</p> <p>※あり （※利用できる（有償） ・ 利用できない）</p>																									
5 工事電力	<p>構内既存の施設</p> <p>・ なし</p> <p>※あり （※利用できる（有償） ・ 利用できない）</p>																									
6 工事看板	<p style="text-align: right;">＜2.3.1＞</p> <p>※設置する</p> <p>設置の場所（ ・ ）</p> <p>記載事項（※工事番号 ※工事名称 ※発注者 ※設計者 ※監理者 ※工期 ※施工者）</p> <p>大きさ（※H900mm×W1800mm 程度 ・ ）</p> <p>・ 設置しない</p>																									
7 散水設備	<p>場内から土ほこり等が発生しないように散水等を行う。</p> <p>排水先等も事前に検討し、周辺へ悪影響のないようにする。</p>																									

章	項 目	特 記 事 項											
3 解体施工	1 浄化槽、排水槽等	<3. 2. 1> 汚水、汚物等の回収、洗浄、消毒等の措置 ・ 行う ・ 行わない											
	2 杭の処理	<3. 9. 2> 杭の処理 ※行う ・ 行わない 杭の解体工法 ※引抜き工法 引抜いた杭の処理（※図示による ・ ） ・ 破砕による解体											
	3 樹木等	<3. 11. 1> 樹木の伐採伐根及び移植 ※行う（※図示による ・ ）											
	4 地下埋設物及び埋設配管	<3. 12. 1> 地下埋設物及び埋設配管の解体 ※行う（※図示による ・ ）											
	5 設備機器等	<3. 2. 1> 解体事前処理（油類タンク） ・ 機械設備図による ・ 下記による ・ 解体に先立ち、燃料配管、燃料槽、燃料小出槽等に残油がないことを確認する。必要に応じて残油を抜き取り、燃料を土壤に流失させないように注意する。 ・ 燃料槽、燃料小出槽は、洗浄のうえ中和処理を行う。 解体事前処理（冷媒） 冷媒を屋外機にポンプダウンした後撤去を行う機器 ・ 機械設備図による ・ 冷媒を回収した後撤去を行う機器 ・ 機械設備図による ・ ・											
	6 照明設備等	<3. 10. 1> 電柱の撤去 ・ 行う（※図示による ・ ） ・ 行わない 外灯の撤去 ・ 行う（※図示による ・ ） ・ 行わない											
	7 建設発生土の処理	※構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し 構外搬出の場合は、原則として 50km 範囲内の他の建設工事へ搬出するものとする。 なお、他の工事との受け入れ時期及び土質等の調整が困難である場合は、別の処分場（ストックヤードを含む）に搬出することを妨げない。 ※建設発生土の再利用 <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・ 現場内利用</td><td>仮置き場所住所（ ） 借地 ・ 有り ・ 無し</td></tr><tr><td>・ 工事間流用</td><td>相手工事番号及び名称（ ） 住所（ ）</td></tr><tr><td>・ 捨土（公共用地）</td><td>管理者名（ ） 住所（ ）</td></tr><tr><td>※ストックヤード</td><td>ストックヤードの名称（ ） 住所（監督員の指示による。 ）</td></tr><tr><td>・ 未確定</td><td>相手工事番号及びの名称（ ）（予定） 住所（ ）</td></tr></table>	処理方法	搬出先	・ 現場内利用	仮置き場所住所（ ） 借地 ・ 有り ・ 無し	・ 工事間流用	相手工事番号及び名称（ ） 住所（ ）	・ 捨土（公共用地）	管理者名（ ） 住所（ ）	※ストックヤード	ストックヤードの名称（ ） 住所（監督員の指示による。 ）	・ 未確定
処理方法	搬出先												
・ 現場内利用	仮置き場所住所（ ） 借地 ・ 有り ・ 無し												
・ 工事間流用	相手工事番号及び名称（ ） 住所（ ）												
・ 捨土（公共用地）	管理者名（ ） 住所（ ）												
※ストックヤード	ストックヤードの名称（ ） 住所（監督員の指示による。 ）												
・ 未確定	相手工事番号及びの名称（ ）（予定） 住所（ ）												

章	項 目	特 記 事 項						
		<p>土質 ・ ローム ・ シルト ・ 砂質土 ・ レキ質土 ・ 土量 223 m³ (地山換算土量) 片道運搬距離 10 km 条件 (昼夜間の別、大型車規制、伝票の使用、法律・条例等) ・</p> <p>現場内利用を行う場合、現場外に仮置き場を設けて時期調整を行い、周辺環境に配慮し必要な措置を講じること。 工事間流用を行う場合、相手工事の受注者と綿密に協議を行うこと。 工事間流用、捨土の場合、搬出手続き等は監督員の指示による。 ストックヤードに搬出する場合は、付記事項の3を参照。</p>						
8	建設汚泥	<p>※工事現場から 50km 範囲内に再資源化施設があるときは、原則として再資源化施設に搬出するものとする。 なお、工事現場から 50km 以内に再資源化施設がない場合においては、焼却施設、脱水施設や乾燥施設に搬出し減量化を行うものとする。</p> <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・再資源化施設</td><td>施設名称 () 施設住所 ()</td></tr><tr><td>・他工事に搬出 (個別指定制度)</td><td>利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()</td></tr></table> <p>搬出量 m³ (地山換算数量) 片道運搬距離 km 搬出条件 (昼夜間の別、大型車規制、伝票の使用、法令・条例、改良の度合等) ・</p> <p>上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。 他工事に搬出する場合、処理施設の設置、個別指定制度の指定を受ける手続きが必要となるため、事前に監督員と十分に協議し、環境部局等に関係法令の手続きを行うこと。</p>	処理方法	搬出先	・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()	・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()
処理方法	搬出先							
・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()							
・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()							
9	解体後の整地	<p style="text-align: right;"><3.13.1></p> <p>解体後の埋戻し及び盛土 ※行う 整地高さ ・現状 GL ※図示による (駐車場整備計画図参照) 埋戻し及び盛土の材料 ・山砂の類 ・他現場の建設発生土の中の良質土 ・再生コンクリート砂 埋戻し及び盛土に当たっては、各層 30cm 程度毎に締め固めること。 ・行わない 表層の砂利敷き (22.9.2) ※行わない ・行う (・砂利敷き B 種 ・)</p>						

章	項 目	特 記 事 項
4 建設廃棄物の処理	1 一般事項	<p>※コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊 コンクリート塊又はアスファルト・コンクリート塊を搬出する場合は、原則として再資源化施設に搬出する。 なお「建設リサイクル法」の対象建設工事である場合は、距離に関係なく再資源化施設に搬出する。</p> <p>※建設発生木材 建設発生木材を搬出する場合は、原則として再資源化施設に搬出する。 なお「建設リサイクル法」の対象建設工事である場合、工事現場から 50km 範囲内に再資源化施設がある場合は、再資源化施設に搬出するものとし、施設処理能力等により搬入困難な場合や範囲内に再資源化施設がない場合は、焼却施設などへ搬出し減量化を行う。</p> <p>※金属くず 鉄筋くず、金属加工くず、ボルト類、電線、番線、分電盤、端子盤、電線管類等にあつては、原則として有価物として搬出する。 有価物として搬出できないものについては、産業廃棄物として再資源化施設に搬出する。</p> <p>※伐採、伐根材 伐採、伐根材を搬出する場合は、原則として再資源化施設に搬出する。 なお、再資源化施設がない場合や処理能力が不足しているなど特別な事情がある場合は焼却施設に搬出する。</p> <p>※刈り草、剪定枝 刈り草、剪定枝に関しては、原則として現場内での再生利用、その他の有効利用又は再資源化施設に搬出する。 なお、再資源化施設が現場より 40km 範囲以内でない場合や処理能力が不足しているなど特別な事情がある場合は、焼却施設に搬出する。</p>

章	項 目	特 記 事 項			
2	再資源化等 (再資源化及び縮減)	<4.4.1>			
		建設廃棄物の種類	再資源化等をする施設	数量	備考
		・コンクリート	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・コンクリート及び鉄から成る建設資材	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・木材	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	※再資源化
		・アスファルトコンクリート	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・金属類	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	※有価物として搬出できないものに限る
		・建設汚泥	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・小型二次電池	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・蛍光灯及びHIDランプ	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・硬質塩化ビニル管及び継手	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
		・ガラス	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
・木材 (縮減)	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	※縮減		
・					
・					
※鉄筋くず、金属加工くず、ボルト類、電線、番線、分電盤、端子盤、電線管類等 ※有価物として搬出できる物にあっては、有価物として搬出する。 ・ 上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。					
3	再資源化し、現場で利用する建設廃棄物	<4.4.1>			
	廃棄物の種類	数量	備考		
4	産業廃棄物広域認定制度の活用	<4.4.2>			
	廃棄物の種類	数量	備考		

章	項 目	特 記 事 項																											
	<div>5</div> <div>最終処分する建設廃棄物</div>	<div style="text-align: right;"><4.4.3></div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>廃棄物の種類</th><th>最終処分場</th><th>数量</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。</p>				廃棄物の種類	最終処分場	数量	備考		名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・			名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・			名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・			名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・			名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
廃棄物の種類	最終処分場	数量	備考																										
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	<div>6</div> <div>処理に注意を要する建設廃棄物</div>	<div style="text-align: right;"><4.5.1></div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>廃棄物の種類</th><th>処分場、処分施設</th><th>数量</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・石綿含有せっこうボード</td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td>・ひ素・カドミウム含有せっこうボード</td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td>・上記以外のせっこうボード</td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td>・CCA 処理木材</td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> 名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km </td><td>・</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。</p>				廃棄物の種類	処分場、処分施設	数量	備考	・石綿含有せっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・		・ひ素・カドミウム含有せっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・		・上記以外のせっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・		・CCA 処理木材	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・			名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・	
廃棄物の種類	処分場、処分施設	数量	備考																										
・石綿含有せっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
・ひ素・カドミウム含有せっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
・上記以外のせっこうボード	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
・CCA 処理木材	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											
	名称 () 住所 () 片道運搬距離 () km	・																											

章	項 目	特 記 事 項																																			
5 特別管理産業廃棄物の処理	1 施工調査	<div><5.1.2></div> <p>※特別管理産業廃棄物の調査を次により行う。</p> <p>(1) 特別管理産業廃棄物の使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。</p> <p>(2) 特別管理産業廃棄物に応じた、収集運搬業者、処分業者、回収業者、産業廃棄物処理施設、処分条件等を調査する。</p> <p>(3) 調査結果は調書にまとめ、監督員に提出する。</p>																																			
	2 分析調査	<div><5.1.2></div> <table><tr><th>分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類</th><th>採取する部位・箇所数</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）</td><td>部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所</td><td></td></tr><tr><td>・ PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）</td><td>部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所</td><td></td></tr></table> <div><5.4.1></div> <p>・ PCB 含有シーリング分析調査</p> <p> ・ 第一次判定</p> <p> 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の可否を判定する。</p> <p> 採取箇所数 計 箇所</p> <p> 採取箇所 ※図示による ・</p> <p> ・ 第二次判定</p> <p> 専門分析機関にて PCB 含有量の分析を行う。</p> <p> 採取箇所数 計 箇所</p> <div><5.4.1></div> <p>・ PCB を含む機器の微量 PCB の分析調査</p> <p> ・</p> <p>・ 絶縁油の PCB 含有量の分析調査</p> <p> ・ 「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法（平成 4 年 7 月 3 日 厚生省告示第 192 号）」又は「絶縁油中の微量 PCB に関する簡易測定法マニュアル（環境省）」により行う。</p> <div><5.4.1></div> <p>・ ダイオキシン類のサンプリング調査</p> <p> ・ 「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱（平成 13 年 4 月 25 日 付 基発第 401 号）」により行う。</p>	分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類	採取する部位・箇所数	備考	・ PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所		・ PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所		・	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所		・	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所																					
	分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類	採取する部位・箇所数	備考																																		
・ PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所																																				
・ PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所																																				
・	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所																																				
・	部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所																																				
3 特別管理産業廃棄物の処理	<div><5.4.1></div> <table><tr><th>特別管理産業破棄物の種類</th><th>仕様</th><th>数量</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 廃石綿等</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ PCB を含む機器類</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ PCB 含有シーリング材</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 廃油</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 廃酸/廃アルカリ</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ダイオキシン類</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	特別管理産業破棄物の種類	仕様	数量	備考	・ 廃石綿等				・ PCB を含む機器類				・ PCB 含有シーリング材				・ 廃油				・ 廃酸/廃アルカリ				・ ダイオキシン類											
特別管理産業破棄物の種類	仕様	数量	備考																																		
・ 廃石綿等																																					
・ PCB を含む機器類																																					
・ PCB 含有シーリング材																																					
・ 廃油																																					
・ 廃酸/廃アルカリ																																					
・ ダイオキシン類																																					

章	項 目	特 記 事 項
	4 PCB を含む 機器類	引渡しを要する機器類 ・ ＜5. 4. 1＞
	5 PCB 含有 シーリング材	・ 除去処理工事 除去範囲 ※図示による 除去方法 ・「標準施工要領書（日本シーリング工事業協同組合連合会／日本シーリング 材工業会）」による ＜5. 4. 1＞
	6 ダイオキシン 類	廃棄物の焼却施設の解体 解体方法 ・ 処分方法 ・ ＜5. 4. 1＞

章

6

石綿含有建材の除去及び処理

項目

1

石綿含有建材の除去工事

特記事項

<6.1.3>

※石綿粉じん濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用	測定 名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計 点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	・計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	・計 点
・	測定 4		セキュリティゾーン入口	・計 点
・	測定 5		集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速 1m/s 以下の位置 ・計 点
・	測定 6		処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界	・計 点
・	測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・計 点
・	測定 8	処理作業後 (シート撤去後 1 週 間以降)	処理作業室内	・計 点
・	測定 9		調査作業室外部の付近	・計 点

測定方法

・ 自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・ 測定 4 ・ 測定 5	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-1 に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ 直径 (mm)	試料の吸引 流量 (L/min)	試料の吸引 時間 (min)
・ 測定 4 ・ 測定 5 ・	25	5	30
・ 測定 ・	47	10	120
・ 測定 ・	47	10	240
・ 測定 ・			

章	項 目	特 記 事 項
	2 石綿含有建材の処理	<p><6.3.1～6.3.3><6.4.1～6.4.4><6.5.1～6.5.4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石綿含有吹付け材の除去 <ul style="list-style-type: none"> 除去対象範囲 ・ 図示による ・ 除去工法 ※解体工事共通仕様書 6.3.2 による ・ 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 <ul style="list-style-type: none"> ※湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設） ・石綿含有保温材等（石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む）の除去 <ul style="list-style-type: none"> 除去対象範囲 ・ 図示による ・ 除去工法 ・ 手ばらし ・ 破碎して除去 除去した石綿含有保温材等の飛散防止措置 <ul style="list-style-type: none"> ※湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設） ・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外）の除去 <ul style="list-style-type: none"> 除去対象範囲 ・ 図示による ・ 除去した石綿含有成形板の処分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石綿含有せっこうボード <ul style="list-style-type: none"> ※埋立処分（管理型最終処分場） ・ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設） ・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種）の除去 <ul style="list-style-type: none"> 除去対象範囲 ・ 図示による ・ 隔離養生（負圧不要）方法 ・ ビニールシート等による養生を行う ・ 足場 ・ 図示による 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設） ・石綿含有建築用仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去 <ul style="list-style-type: none"> 除去対象範囲 ・ 図示による ・ 着工前の試験施工 ※行う ・ 行わない 除去工法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 ・ 集じん装置併用手工具ケレン工法 ・ 集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa 以下、30～50MPa 程度） ・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa 以上） ・ 剥離剤併用超音波ケレン工法 ・ 剥離剤併用手工具ケレン工法 ・ 剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa 程度） ・ 剥離剤併用超高圧水洗工法（100MPa 以上） ・ 超音波ケレン工法（HEPA フィルター付き掃除機併用） 除去した石綿含有建築用仕上塗材の処分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設）

章	項 目	特 記 事 項
	<div>3</div> リフラクトリーセラミックファイバーの処理	<div>除去処理対象物</div> <div>除去対象範囲</div> <div>除去方法</div> <div>処分</div> <div>・</div> <div>・図示による</div> <div>・</div> <div>・図示による</div> <div>・</div> <div>・埋立処分（安定型最終処分場）</div> <div>・</div>

章	項 目	特 記 事 項		
7 特殊な建設副産物の処理	1 施工調査	<7.1.3>		
		分析調査を行う特殊な建設副産物の種類	採取する部位・箇所等	備考
			部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所	
			部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所	
			部位 ・ 図示による ・ 箇所数： 箇所	
	2 回収及び処分	<7.3.1>		
		回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類	備考	
		・ フロン		
		・ 建材用断熱材フロン		
		・ ハロン		
		・ イオン化式感知器		
		・ 六ふっ化硫黄（SF6）ガス		
		・ PFOS（ペルフルオロ（オクタン-1-スルホン酸））		
		・ 特定化学物質（ ）		
		・ その他の特殊な建設副産物（ ）		
		回収又は処分		
		・ 機械設備図による ・		

章	項 目	特 記 事 項
8 周辺建築物等調査	1 周辺建築物等調査	<p>調査 調査は一般的事項調査、事前調査及び事後調査に区分して行うものとする。</p> <p>(一般的事項調査)</p> <p>1 事前調査の実施に当たっては、調査区域内に存する建物等につき、建物の所有者ごとに次の各号の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 建物の敷地ごとに建物等（主たる工作物）の敷地内の位置関係 二 建物ごとに実測による間取り平面及び立面 三 建物等の所在及び地番並びに所有者の氏名及び住所 現地調査において所有者の氏名及び住所が確認できないときは、必要に応じて登記簿謄本等の閲覧等の方法により調査を行う。 四 その他調査書の作成に必要な事項 <p>(事前調査)</p> <p>1 受注者は、一般的事項調査が完了したときは、当該建物等の既存の損傷箇所の調査を行うものとし、当該調査は、原則として、次の部位別に行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 基礎 二 軸部 三 開口部 四 床 五 天井 六 内壁 七 外壁 八 屋根 九 水回り 十 外構 <p>2 建物の全体又は一部に傾斜又は沈下が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 傾斜又は沈下の状況を把握するため、原則として、当該建物の四方向を水準測量又は傾斜計等で計測する。この場合において、事後調査の基準点とするため、沈下等のおそれのない堅固な物件を定めて併せて計測を行う。 二 コンクリート布基礎に亀裂が生じているときは、建物の外周について、発生箇所及び状況（最大幅、長さ）を計測する。 三 基礎のモルタル塗り部分に剥離又は浮き上がりが生じているときは、発生箇所及び状況（大きさ）を計測する。 四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。 <p>3 軸部（柱及び敷居）に傾斜が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 原則として、当該建物の工事箇所に最も接近する壁面の両端の柱及び建物中央部の柱を全体で3箇所程度計測する。 二 柱の傾斜の計測位置は、直交する二方向の床（敷居）から1メートルの高さの点とする。 三 敷居の傾斜の計測位置は、柱から1メートル離れた点とする。 四 計測の単位は、ミリメートルとする。 <p>4 開口部（建具等）に建付不良が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 原則として、当該建物で建付不良となっている数量調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき1箇所程度とし、全体で5箇所程度を計測する。 二 測定箇所は、柱又は窓枠と建具との隙間との最大値の点とする。 三 建具の開閉が滑らかに行えないもの、又は開閉不能及び施錠不良が生じているものは、その程度と数量を調査する。 四 計測の単位はミリメートルとする。 <p>5 床に傾斜等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 えん甲板張り等の居室（敷居の居室を除く。）について、気泡水準器で直交する二方向の傾斜を計測する。 二 床仕上げ材に亀裂及び縁切れ又は剥離、破損が生じているときは、それらの箇所及び状況（最大幅、長さ又は大きさ）を計測する。 三 束又は大引、根太等床材に緩みが生じているときは、その程度を調査する。 四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さ及び大きさについてはセンチメー

		<p>トルとする。</p> <p>6 天井に亀裂、縁切れ、雨漏等のシミが発生してるときの調査は、内壁の調査に準じて行うものとする。</p> <p>7 内壁にちり切れ（柱及び内法材と壁との分離）が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 居室ごとに発生箇所数の調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき1箇所、全体で6箇所程度計測する。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとする。 <p>8 内壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 原則として、すべて亀裂の計測をする。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。 三 亀裂が一壁面に多数発生している場合にはその状態をスケッチするとともに、壁面に雨漏等のシミが生じているときは、その形状、大きさの調査をする。 <p>9 外壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 四方向の立面に生じている亀裂等の数量、形状等をスケッチするとともに、一方向の最大の亀裂から2箇所程度を計測する。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとし、長さについてはセンチメートルとする。 <p>10 屋根（庇、雨樋を含む。）に亀裂又は損傷などが発生しているときは、当該建物の屋根伏図を作成し、次の調査を行うものとする</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 仕上げ材ごとに、その損傷の程度を計測する。 二 計測の単位は、原則として、センチメートルとする。ただし、亀裂の幅についてはミリメートルとする。 <p>11 水廻り（浴槽、台所、洗面所等）に亀裂、破損、漏水等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 浴槽、台所、洗面所等の床、腰、壁面のタイル張りに亀裂、剥離、目地切れ等が生じているときは、すべての損傷を第8項に準じて行う。 二 給水、排水などの配管に緩み、漏水等が生じているときは、その状況を調査する。 <p>12 外構（テラス、コンクリート叩、ベランダ、犬走り、池、浄化槽、門柱、塀、擁壁等の屋外工作物）に損傷が発生しているときは、前11項に準じて、その状況等の調査を行うものとする。この場合において、必要に応じ、当該工作物の平面図、立面図等を作成し、損傷箇所、状況等を記載する。</p> <p>（写真撮影）</p> <p>1 事前調査に掲げる建物等の各部位の調査に当たっては、計測箇所を次の方法により写真撮影を行うものとする。この場合において、写真撮影が困難な箇所又はスケッチによることが適当と認められる箇所については、スケッチによることができるものとする。</p> <p>撮影対象箇所を指示棒等により指示し、次の事項を明示した黒板等と同時に撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）調査番号、建物番号及び建物所有者の氏名 （2）損傷名及び損傷の程度（計測） （3）撮影年月日、撮影番号及び撮影対象箇所 <p>（事後調査）</p> <p>1 受注者は、事前調査を行った建物等について、損傷箇所等の変化及び工事によって新たに発生した損傷の状態及び程度の調査を行うものとする。</p> <p>2 事前調査の調査対象外であって、事後調査の対象となったものについては、一般的事項調査を行ったうえで損傷箇所の調査を行うものとする。</p> <p>調査書の作成</p> <p>受注者は、次の各号の事前調査書及び図面の作成を行うものとする。</p> <p>（事前調査書及び図面）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 調査区域位置図 二 調査区域平面図 三 建物等調査一覧表 四 建物等調査書（平面図・立面図等） 五 損傷調査書 六 写真集
--	--	--

(事前調査書及び図面の作成)

- 一 調査区域位置図は、工事の工区単位ごとに作成するものとし、調査区域と工事箇所を併せて表示する。この場合の縮尺は、5,000分の1又は10,000分の1程度とする。
- 二 調査区域平面図は、調査区域内の建物の配置を示す平面図で工事の工区単位又は調査単位ごとに次により作成する。
 - (1) 調査を実施した建物については、建物等調査一覧表で付した調査番号及び建物番号を記載し、建物の構造別に色分けし、建物の外枠（外壁）を着色する。この場合の構造別色分けは、木造を赤色、非木造を緑色とする。
 - (2) 縮尺は、500分の1又は、1,000分の1程度とする。
- 三 建物等調査一覧表は、工事の工区単位又は調査単位ごとに調査を実施した建物等について調査番号、建物番号（同一所有者が2棟以上の建物等を所有している場合）の順に建物等の所在及び地番、所有者並びに建物等の概要等必要な事項を記入する。
- 四 建物等調査図（平面図・立面図等）は、一般的事項調査及び事前調査の結果を基に建物等ごとに次により作成するものとする。
 - (1) 建物平面図は、縮尺100分の1で作成し、写真撮影を行った位置を表示するとともに建物延べ面積、各階別面積及びこれらの計算式を記入する。
 - (2) 建物立面図は、縮尺100分の1により、原則として、四面（東西南北）作成し、外壁の亀裂等の損傷位置を記入する。
 - (3) その他調査図（基礎伏図、屋根伏図及び展開図）は、発生している損傷を表示する必要がある場合に作成し、縮尺は100分の1又は10分の1程度とする。
この場合において写真撮影が困難であり、又は詳細（スケッチ）図を作成することが適当であると認めたものについては、スケッチにより調査図を作成する。
 - (4) 工作物の調査図は、損傷の状況及び程度により建物に準じて作成する。
- 五 損傷調査書は一般的事項調査及び事前調査の結果に基づき、建物ごとに建物等の所有者名、建物の概要、名称（室名）、損傷の状況を記載して作成し、損傷の状況については、事前調査欄に損傷名（亀裂、沈下、傾斜等）及び程度（幅、長さ及び箇所数）を記載する。
- 六 写真は、撮影したものをカラーサービス判で印刷し、撮影箇所及び状況の記載を行ったうえでファイルする。

(事後調査書等の作成)

- 1 受注者は、事前調査書及び図面を基に建物等の概要、損傷箇所の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、事前調査に準じて調査書及び図面の作成を行うものとする。

建物等調査一覧表

番号	建物用途（共同住宅戸数）	構造・階数	延べ床面積	調査範囲	備考
1				・外部・内部・外構	
2				・外部・内部・外構	
3				・外部・内部・外構	
4				・外部・内部・外構	

※共同住宅の内部調査については、各戸調査を行う

※「外部」の調査は、足場等を設置せず、地上からの目視により行う

調査区域平面図 ※図示による

課 長	技術総括	課長補佐	課 員	担 当

特 記 仕 様 書 (建築工事)

I 工 事 概 要

1. 工 事 名 騰波ノ江幼稚園園舎解体及び駐車場整備工事
2. 工事場所 下妻市若柳地内
3. 敷地面積 1,045.00 m²
4. 建設工事その他概要 (建物名称、構造、階数、建築面積、延べ面積、各階床面積、等)
 - (1) 工事範囲 ・「(2)建物概要」すべて ・「(2)建物概要」のうち一部
 - (2) 建物概要

(全体)

建物名称			
構 造	造 一 部 造	造 一 部 造	造 一 部 造
階 数	地上 階 地下 階	地上 階 地下 階	地上 階 地下 階
建築面積	m ²	m ²	m ²
延べ面積	m ²	m ²	m ²

(建物毎の各階床面積 m²)

建物名称	地下1階	1階	2階	3階	4階	5階	計

5. 別途工事

・ なし

・

・

(H12.04.01作成)	(H25.05.15改定)	(R07.05.15改定)
(H13.10.01改定)	(H26.05.15改定)	
(H14.05.30改定)	(H27.05.15改定)	
(H15.06.01改定)	(H28.04.25改定)	
(H15.09.01改定)	(H29.04.25改定)	
(H16.05.15改定)	(H30.04.25改定)	
(H17.05.15改定)	(H31.04.25改定)	
(H17.10.01改定)	(R02.04.30改定)	
(H18.05.15改定)	(R03.04.30改定)	
(H19.07.01改定)	(R04.05.15改定)	
(H23.06.01改定)	(R05.05.15改定)	
(H24.06.01改定)	(R06.05.15改定)	

Ⅱ 建築工事仕様

- (1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、
◎を付けたものを適用する。
◎公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）（以下、「標準仕様書」という。）
◎建築工事標準詳細図（令和４年版）（以下、「標準詳細図」という。）
・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事
特記仕様書を適用する。
- (3) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
 - 2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。
◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。
 - 3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図及び当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
1 各章共通事項	1 適用区分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・ 風圧力 風速 ($V_0 =$ m/s) 地表面粗度区分 (・ I ・ II ・ III ・ IV) ・ 積雪荷重 H12 年 5 月 31 日建設省告示第 1455 号における区域 別表 ()
	2 環境への配慮	<p style="text-align: right;">(1.4.1)</p> <p>(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <p>① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</p> <p>② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</p> <p>③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。</p> <p>④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。</p> <p>(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。</p> <p>① 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料</p> <p>② 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>③ 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料</p> <p>④ 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p>

章	項 目	特 記 事 項
	3 材料の品質等	<p style="text-align: right;">(1.4.2)</p> <p>(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。</p> <p>(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥のすべての事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。</p> <p>② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</p> <p>③ 安定的な供給が可能であること。</p> <p>④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。</p> <p>⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</p> <p>⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。</p> <p>(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、乾式保護材、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた</p> <p>(6) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。 また、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「令和5年度茨城県グリーン購入推進方針」に定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。</p> <p>(7) (1) から (6) を満たすものが県産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。県産品とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。 なお、県産品のうち木材については、県内の森林から合法的に産出された木材を使用することとし、「いばらき優良木材証明制度」に基づく証明書など、県産木材であることが確認できる資料を提出して監督員の承諾を受けることとする。</p>

章	項 目	特 記 事 項																									
	4 室内空気中の 化学物質の濃度測定	<div style="text-align: right;">(1.5.9)</div> <p>室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン（学校施設については、パラジクロロベンゼンに対しても対象とする。）の濃度を測定し、測定結果を監督員に報告すること。</p> <p>採取方法及び測定方法は、厚生労働省が示した室内空気中化学物質の標準的な方法とし、ホルムアルデヒドの測定方法は、ジニトロフェニルヒドラジン（DNPH）誘導体化固相吸着／溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ法により、その他の揮発性有機化合物の測定方法は、固相吸着／溶媒抽出法とガスクロマトグラフ／質量分析法の組み合わせにより行い、パッシブ型採取機器により行うこと。</p> <p>測定対象室は、平成 15 年 4 月 1 日通知「官庁営繕部における平成 15 年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ、下表の数を標準とする。（指針値は、付記事項の 7 を参照）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>室の床面積 A (㎡)</td><td>A ≤ 50</td><td>50 < A ≤ 200</td><td>200 < A ≤ 500</td><td>500 < A</td></tr> <tr> <td>測定箇所数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>室内空気中の化学物質の濃度測定対象室箇所数表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>室名（測定対象室）</th><th>床面積</th><th>測定箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A	測定箇所数	1	2	3	4	室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数												
室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A																							
測定箇所数	1	2	3	4																							
室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数																									
	5 リサイクルの 優先順位	<p>(1) 発生抑制の徹底 (2) 現場分別の徹底 (3) 再使用の徹底 (4) 再資源化・再生資材利用の徹底 (5) 適正処理の徹底 (再資源化に係る作成書類は、付記事項の 6 を参照)</p>																									
	6 発生材の処理等	<table style="width: 100%;"> <tr> <td>・発注者に引渡しを要するもの</td> <td>・なし</td> <td>・あり</td> <td>処理方法（</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>・特別管理産業廃棄物</td> <td>・なし</td> <td>・あり</td> <td>処理方法（</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>・現場での再利用を図るもの</td> <td>・なし</td> <td>・あり</td> <td>品 目（</td> <td>）</td> </tr> </table>	・発注者に引渡しを要するもの	・なし	・あり	処理方法（	）	・特別管理産業廃棄物	・なし	・あり	処理方法（	）	・現場での再利用を図るもの	・なし	・あり	品 目（	）										
・発注者に引渡しを要するもの	・なし	・あり	処理方法（	）																							
・特別管理産業廃棄物	・なし	・あり	処理方法（	）																							
・現場での再利用を図るもの	・なし	・あり	品 目（	）																							

章	項 目	特 記 事 項		
	7 技能士	(1.5.2)		
		工事項目	技能検定職種	技能検定作業
		仮設工事	とび	・ とび作業
		土工事	ウェル・イント施工	・ ウェル・イント工事作業
		鉄筋工事	鉄筋施工	・ 鉄筋組立て作業
		コンクリート工事	型枠施工	・ 型枠工事作業
			コンクリート圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業
		鉄骨工事	鉄工	・ 構造物鉄工作業
			とび	・ とび作業
		コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板工事	ブロック建築	・ コンクリートブロック工事作業
			E-エルシーパネル施工	・ E-エルシーパネル工事作業
		防水工事	防水施工	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・ 改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ・ FRP防水工事作業
		石工事	石材施工	・ 石張り作業
		タイル工事	タイル張り	・ タイル張り作業
		木工事	建築大工	・ 大工工事作業
		屋根及びとい工事	建築板金	・ 内外装板金作業
			かわらぶき	・ かわらぶき作業
		金属工事	内装仕上施工	・ 鋼製下地工事作業
			建築板金	・ 内外装板金作業
		左官工事	左官	・ 左官作業
		建具工事	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
			ガラス施工	・ ガラス工事作業
			自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
		カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・ 金属製カーテンウォール工事作業
			サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
			ガラス施工	・ ガラス工事作業
		塗装工事	塗装	・ 建築塗装作業
		内装工事	内装仕上施工	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ カーペット系床仕上げ工事作業 ・ 木質系床仕上げ工事作業 ・ ボード仕上げ工事作業 ・ 化粧フィルム工事作業
			表装	・ 壁装作業
		排水工事	配管	・ 建築配管作業
		舗装工事	路面標示施工	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溶融ペイントハンドマーカース工事作業 ・ 加熱ペイントマシンマーカース工事作業
		植栽工事	造園	・ 造園工事作業
	8 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。		

章	項 目	特 記 事 項
	9 設備工事との取合い	設備機器の位置取り合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。
	10 他工事又は他工種との取合い	工事区分表による。これにより難しい場合は監督員と協議する。
	11 契約直後・施工中の提出書類	<p>契約書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、契約時又は施工中に以下の書類を監督員に提出する。</p> <p>契約直後に提出する書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コリンズへの登録が確認できる書類（付記事項の2を参照） ※火災保険等（法定外の労災保険を含む）に加入したことを証明できる書類 ・建設業退職金共済制度の掛金収納書提出用台紙（様式第033号） ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数 <p>施工中に提出する書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※施工体制台帳の写し ※施工体系図の写し ※規格品証明書（原品証明書、同等品試験証明書、試験成績書等） ・鉄筋圧接部の外観試験報告書 ・鉄筋圧接部の超音波探傷試験報告書又は引張試験報告書 ・機械式継手部の試験結果報告書 ・溶接継手部の試験結果報告書 ・フレッシュコンクリート試験報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ・コンクリート強度試験報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ・構造体コンクリートにおける部材の位置及び断面寸法の許容差出来高管理記録 ・鉄骨工事における建入れ施工管理記録 ・シーリング試験結果報告書（試験成績書） ・タイル工事における接着力試験報告書 ・木材の含水率試験報告書 ・防腐、防蟻処理（証明書等） ・あと施工アンカー引張試験結果報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ・カーテンウォール工事における品質管理記録 ・舗装工事における各種試験結果記録 ・コリンズへの変更・訂正登録が確認できる書類（付記事項の2を参照） ・産業廃棄物処理関係書類（産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し、産業廃棄物処理委託契約書及び許可書の写し等） ・産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写し ・室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書 ※建設副産物実態調査に関する出力調査票 ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数

章	項 目	特 記 事 項																																			
	12 完成時の提出書類	<div>(1.7.1～1.7.3) (表 1.7.1)</div> <div>契約書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、完成時に以下の書類を監督員に提出する。</div> <div>※完成図</div> <div>※作成する</div> <div>提出書類及び部数</div> <table><tr><td>・原図（・A1</td><td>・A2</td><td>・A3)</td><td>部数</td><td>1 部</td></tr><tr><td>※製本（・A1</td><td>・A2</td><td>※A3)</td><td>部数</td><td>1 部</td></tr><tr><td>※CAD データ（JWW 形式）</td><td></td><td></td><td>部数</td><td>CD-R（1 枚）</td></tr></table> <div>・作成しない</div> <div>※写真</div> <table><tr><th>適用</th><th>内容</th><th>枚数</th><th>提出方式</th><th>部数</th></tr><tr><td>※</td><td>工事写真</td><td>適宜</td><td>電子データ（JPEG 形式）</td><td>CD-R（1 枚）</td></tr><tr><td>※</td><td>完成写真（支払用：内外観）</td><td>各 2 枚以上</td><td>A4 版</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・</td><td>完成写真</td><td>適宜</td><td>・カー印画紙キャビネット用綴じ ・電子データ</td><td>・1 部 ・CD-R</td></tr></table> <div>カー印画紙キャビネット用綴じは黒表紙金文字入りでサイズはH320 X W300 程度とする</div> <div>完成写真（カー印画紙キャビネット用綴じ）の撮影業者</div> <div>※建築完成写真の撮影実績のある者で、監督員が承諾する撮影業者</div> <div>※保全に関する資料</div> <div>部数</div> <div>※1 部</div> <div>・防水保証書（9-1、2、3、4 は 10 年）</div> <div>部数</div> <div>※1 部</div> <div>・コリンズへの完成登録が確認できる書類（付記事項の 2 を参照）</div> <div>・建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表（様式第 031 号）</div> <div>※その他</div> <div>監督員が必要と認め、指示した書類及び部数</div>	・原図（・A1	・A2	・A3)	部数	1 部	※製本（・A1	・A2	※A3)	部数	1 部	※CAD データ（JWW 形式）			部数	CD-R（1 枚）	適用	内容	枚数	提出方式	部数	※	工事写真	適宜	電子データ（JPEG 形式）	CD-R（1 枚）	※	完成写真（支払用：内外観）	各 2 枚以上	A4 版	1 部	・	完成写真	適宜	・カー印画紙キャビネット用綴じ ・電子データ	・1 部 ・CD-R
・原図（・A1	・A2	・A3)	部数	1 部																																	
※製本（・A1	・A2	※A3)	部数	1 部																																	
※CAD データ（JWW 形式）			部数	CD-R（1 枚）																																	
適用	内容	枚数	提出方式	部数																																	
※	工事写真	適宜	電子データ（JPEG 形式）	CD-R（1 枚）																																	
※	完成写真（支払用：内外観）	各 2 枚以上	A4 版	1 部																																	
・	完成写真	適宜	・カー印画紙キャビネット用綴じ ・電子データ	・1 部 ・CD-R																																	
	13 引渡物	<div>※鍵は 1 カ所につき、3 個を 1 組とし、プラスチック札に室名を記入して提出する。</div> <div>※マスター鍵は、1 組 3 個とし、木製及び金属製建具共通とする。</div> <div>※スチール製キーボックス</div>																																			
	14 埋蔵文化財	<div>※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</div> <div>※掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、教育庁文化課担当と協議を行うこと。</div> <div>※掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</div>																																			

章	項 目	特 記 事 項
2 仮設工事	1 足場等	(2.2.4) 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	2 監督員事務所	(2.3.1) ・設ける 規模： m ² 程度 仕上げる程度： 程度 備え付ける備品： <div> <div>・机 脚</div> <div>・椅子 脚</div> <div>・ロッカー 台</div> <div>・書棚 台</div> <div>・ホワイトボード</div> <div>・製図板</div> <div>・掛時計</div> <div>・寒暖計</div> <div>・ゴム長靴</div> <div>・雨合羽</div> <div>・保護帽</div> <div>・懐中電灯</div> <div>・安全带</div> <div>・受託者加入電話の子機</div> <div>・暖冷房機</div> <div>・消火器</div> <div>・湯沸器</div> <div>・掃除具</div> <div>・その他（)</div> </div> ※設けない
	3 工事用水	構内既存の施設 ・無し ※有り（※利用できる（有償） ・利用できない）
	4 工事用電力	構内既存の施設 ・無し ※有り（※利用できる（有償） ・利用できない）
	5 工事看板	(2.3.1) ※設置する 設置の場所（・ ） 記載事項（※工事番号 ※工事名称 ※発注者 ※設計者 ※監理者 ※工期 ※施工者） 大きさ（※H900mm×W1800mm 程度 ・ ） ・設置しない

章	項 目	特 記 事 項											
3 土工	1 埋戻し及び盛土	<div>(3.2.3)</div> <div>材料及び工法</div> <div>※標準仕様書表 3.2.1 による</div> <div>種別</div> <div><div>・ A種 適用場所 ()</div><div>・ B種 適用場所 ()</div><div>・ C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 ()</div><div>・ D種 適用場所 ()</div></div> <div>品質 細粒分(75μm 以下)の含有率(重量百分率)の上限を 50%未満とする。</div> <div>六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない</div> <div>・ 材料 () 工法 ()</div>											
	2 建設発生土の処理	<div>(3.2.5)</div> <div>※構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し</div> <div>構外搬出の場合は、原則として 50km 範囲内の他の建設工事へ搬出するものとする。</div> <div>なお、他の工事との受け入れ時期及び土質等の調整が困難である場合は、別の処分場（ストックヤードを含む）に搬出することを妨げない。</div> <div>※建設発生土の再利用</div> <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・ 現場内利用</td><td>仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し</td></tr><tr><td>・ 工事間流用</td><td>相手工事番号及び名称 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ 捨土 (公共用地)</td><td>管理者名 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ スtockヤード</td><td>ストックヤードの名称 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ 未確定</td><td>相手工事番号及び名称 () (予定) 住所 ()</td></tr></table> <div>土質 ・ ローム ・ シルト ・ 砂質土 ・ レキ質土 ・</div> <div>土量 </div>	処理方法	搬出先	・ 現場内利用	仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し	・ 工事間流用	相手工事番号及び名称 () 住所 ()	・ 捨土 (公共用地)	管理者名 () 住所 ()	・ スtockヤード	ストックヤードの名称 () 住所 ()	・ 未確定
処理方法	搬出先												
・ 現場内利用	仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し												
・ 工事間流用	相手工事番号及び名称 () 住所 ()												
・ 捨土 (公共用地)	管理者名 () 住所 ()												
・ スtockヤード	ストックヤードの名称 () 住所 ()												
・ 未確定	相手工事番号及び名称 () (予定) 住所 ()												

章	項 目	特 記 事 項						
	3 建設汚泥	<p>※工事現場から 50m 範囲内に再資源化施設があるときは、原則として再資源化施設に搬出するものとする。</p> <p>なお、工事現場から 50km 以内に再資源化施設がない場合においては、焼却施設、脱水施設や乾燥施設に搬出し減量化を行うものとする。</p> <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・再資源化施設</td><td>施設名称 () 施設住所 ()</td></tr><tr><td>・他工事に搬出 (個別指定制度)</td><td>利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()</td></tr></table> <p>搬出量 m³ (地山換算数量) 片道運搬距離 km 搬出条件 (昼夜間の別、大型車規制、伝票の使用、法令・条例、改良の度合等)</p> <p>・</p> <p>上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。</p> <p>他工事に搬出する場合、処理施設の設置、個別指定制度の指定を受ける手続きが必要となるため、事前に監督員と十分に協議し、環境部局等に関係法令の手続きを行うこと。</p>	処理方法	搬出先	・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()	・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()
	処理方法	搬出先						
・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()							
・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 () 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()							
	4 山留の撤去	(3.3.3) <p>鋼矢板等の抜き後の処理 ※直ちに砂で充填する ・ 山留めの存置 ・行う (存置範囲 ※図示による ・)</p>						
	5 整 地	跡地はブルドーザー等による整地を行う						

章	項 目	特 記 事 項																																																																																			
4 地業工事	1 支持地盤等	<div>(4. 2. 1) (4. 3. 4) (4. 3. 5) (4. 5. 5) (4. 5. 6)</div> <div>・杭基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎ぐいの先端の位置含む） ・図示による（ ）</div> <div>(4. 2. 1)</div> <div>・直接基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む） ・図示による（ ）</div> <div>試験掘り（根切り底の状態の確認等） ・行わない ・行う 位置等 ・図示による（ ）</div> <div>(3. 2. 1)</div> <div>(4. 2. 4)</div> <div>・地盤の載荷試験 載荷試験の方法 ・地盤工学会基準 JGS 1521 による</div> <div>試験の位置、載荷荷重 ・図示による（ ）</div>																																																																																			
	2 既製コンクリート杭地業	<div>(4. 3. 3)</div> <div>種類</div> <div>・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC 杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC 杭） ・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC 杭） SC 杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490</div> <div>・</div> <div>寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）<div>(4. 2. 2) (4. 3. 3)</div><table><tr><th colspan="2"></th><th>種類</th><th>コンクリート強度 (N/mm²)</th><th>厚さ (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>セツト数</th><th>長期設計 支持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">試験杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">本杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table><div>(4. 3. 3)</div><div>杭先端部形状</div><div>・開放形 ・半開放形 ・閉そく形</div><div>(4. 2. 2) (4. 3. 1) (4. 3. 4)</div><div>・セメントミルク工法 試験杭 試験杭の位置 ・図示による（ ）</div><div>掘削深さ ・図示による（ ）</div><div>杭の支持層への根入れ長さ ・図示による（ ）</div><div>杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</div></div>			種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭										中杭										下杭										本杭	上杭										中杭										下杭																			
		種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考																																																																											
試験杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				
本杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				

章	項 目	特 記 事 項																																																																																			
	3 鋼杭地業	(4.2.2) (4.4.3) (4.4.5)																																																																																			
		材料、寸法、継手等																																																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th><th>種類</th><th>板厚 (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>セット数</th><th>長期設計支 持力(kN/本)</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試 験 杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="3">本 杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>										種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セット数	長期設計支 持力(kN/本)	備考	試 験 杭	上杭									中杭									下杭									本 杭	上杭									中杭									下杭																		
		種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セット数	長期設計支 持力(kN/本)	備考																																																																												
試 験 杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				
本 杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				
		(4.2.2) (4.3.5) (4.4.4)																																																																																			
		・ 特定埋込杭工法 ・ H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法 $\alpha=(\quad)$ 、 $\beta=(\quad)$ 、 $\gamma=(\quad)$ 工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ 試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による () 杭の精度 水平方向の位置ずれ ※評定等の評価内容による 杭の傾斜 ※評定等の評価内容による (4.4.3) (4.4.5) (7.2.5)																																																																																			
		杭の継手の工法 ・ アーク溶接継手 形状 ・ JIS A 5525 による 溶接材料 ・ 標準仕様書 7.2.5(1) (2)による ・ ・ 機械式継手 工法 ※評定等を受けた工法 検査 ※評定等より定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による (4.3.8) (4.4.6)																																																																																			
		杭頭の処理等 ・ 処理しない ・ 処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ・ 図示による () (4.3.8)																																																																																			
		杭頭の中詰め材料 ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの																																																																																			

章	項 目	特 記 事 項																																													
4	場所打ち コンクリート杭地業	(4.5.1) (4.5.5)																																													
		工法 ・アースドリル工法（安定液 ・使用する ・使用しない） ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない）																																													
		寸法等 (4.2.2)																																													
		<table><tr><td></td><td>鋼管厚 (mm)</td><td>鋼管径 (mm)</td><td>軸径 (mm)</td><td>拡底径 (mm)</td><td>杭長 (m)</td><td>セツ数</td><td>長期設計支 持力 (kN/本)</td><td>備考</td></tr><tr><td>試験杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>本杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セツ数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考	試験杭									本杭																										
			鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セツ数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考																																					
		試験杭																																													
		本杭																																													
		(4.5.5)																																													
		試験杭 試験杭の位置 ・図示による（ ） ・																																													
		(4.5.5)																																													
		孔壁の保持状況（孔壁測定） 測定箇所 ・試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所 ・ 杭の支持層への根入れ長さ ・図示による（ ） ・																																													
		杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の 1/4 かつ 100 mm以下 ・評定等の評価内容による ・ 杭の傾斜 ・1/100 以内 ・評定等の評価内容による ・																																													
		鉄筋の種類 (4.5.4)																																													
		<table><tr><td>種類の記号</td><td>呼び径 (mm)</td><td>備 考</td></tr><tr><td>・ SD295</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ SD345</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備 考	・ SD295			・ SD345																																						
		種類の記号	呼び径 (mm)	備 考																																											
		・ SD295																																													
		・ SD345																																													
		(4.5.4)																																													
		帯筋の加工及び組立 ・図示による ・																																													
		(4.5.4)																																													
		鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・																																													
		(4.5.4)																																													
		鉄筋かごの補強 ・図示による（ ） ・杭径 1.5m 以下の場合は鋼板 6×50 (mm)、1.5m を超える場合は鋼板 9×50～75 (mm) の補強リングを 3m 以下の間隔で、かつ 1 節につき 3 箇所以上入れ、リングと主筋の接触部を溶接する																																													
(4.5.4) (5.3.4)																																															
組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※重ね継手 重ね継手の長さ ・図示による（ ）																																															
(4.5.4) (5.3.4)																																															
主筋の基礎底盤への定着長さ ・図示による（ ） ・																																															
(4.5.4)																																															
セメントの種類 ※高炉セメントB種 ・																																															
(4.5.4)																																															
コンクリートの設計基準強度 ・図示による（ ） ・																																															
(4.5.4)																																															
コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 ・ 認定等の評価内容による																																															
(4.5.4)																																															
スランプ ・ 18cm ・ 21cm																																															
(4.5.4)																																															
構造体強度補正值 ※3N/mm ² ・ 評定等の評価内容による																																															

章	項 目	特 記 事 項
	5 砂利地業	<p>(4. 6. 2)</p> <p>材料（茨城県の指定工場であること） ※再生クラッシャラン ・ 切込砂利又は切込碎石</p> <p>(4. 6. 3)</p> <p>砂利厚さ ※60mm ・</p> <p>(4. 6. 3)</p> <p>施工範囲 ・ 基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・ 図示による（ ）</p>
	6 捨てコンクリート地業	<p>(4. 6. 4)</p> <p>厚さ ※50mm ・</p> <p>(4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>施工範囲 ・ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・ 図示による（ ）</p> <p>(4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>設計基準強度 ※18N/mm² ・</p> <p>(4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>スランプ ※15cm 又は 18cm ・</p>
	7 床下防湿層	<p>(4. 6. 2)</p> <p>材料 ※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・</p> <p>(4. 6. 5)</p> <p>範囲 ・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）</p>
	8 地盤改良工法	<p>種類及び施工方法等 ・ 図示による（ ） ・</p> <p>六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない</p>

章	項 目	特 記 事 項																			
5 鉄筋工事	1 鉄筋	(5. 2. 1) 鉄筋の種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径 (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ SD295</td><td>※D16 以下</td><td>・</td></tr><tr><td>・ SD345</td><td>※D19 以上</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	・ SD295	※D16 以下	・	・ SD345	※D19 以上	・	・			・						
	種類の記号	呼び径 (mm)	備考																		
	・ SD295	※D16 以下	・																		
	・ SD345	※D19 以上	・																		
	・																				
・																					
2 溶接金網	(5. 2. 2) 鉄線の形状等 <table><tr><th>種類</th><th>種類の記号</th><th>鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr><tr><td>・ 溶接金網</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 鉄筋格子</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・ 溶接金網				・ 鉄筋格子											
種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																		
・ 溶接金網																					
・ 鉄筋格子																					
3 鉄筋の継手	(5. 3. 4) (5. 5. 3) (5. 6. 3) 鉄筋の継手の方法等 <table><tr><th>部位</th><th colspan="2">継手の方法</th><th>呼び径 (mm)</th></tr><tr><td>・ 柱及び梁の主筋</td><td>・ ガス圧接 ・ 溶接継手</td><td>・ 機械式継手 ・ 重ね継手</td><td>※D19 以上</td></tr><tr><td>・ 耐力壁の鉄筋</td><td>・ 重ね継手</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 基礎、耐力スラブ、土圧壁</td><td>・ 重ね継手</td><td>・ ガス圧接</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 上記以外()</td><td>・ 重ね継手</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> (5. 3. 4) 継手位置 ・ 図示による() (5. 3. 4) 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ・ 図示による() (5. 3. 4) 耐力壁の重ね継手の長さ ・ 図示による()	部位	継手の方法		呼び径 (mm)	・ 柱及び梁の主筋	・ ガス圧接 ・ 溶接継手	・ 機械式継手 ・ 重ね継手	※D19 以上	・ 耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手	・	・	・ 基礎、耐力スラブ、土圧壁	・ 重ね継手	・ ガス圧接	・	・ 上記以外()	・ 重ね継手	・	・
部位	継手の方法		呼び径 (mm)																		
・ 柱及び梁の主筋	・ ガス圧接 ・ 溶接継手	・ 機械式継手 ・ 重ね継手	※D19 以上																		
・ 耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手	・	・																		
・ 基礎、耐力スラブ、土圧壁	・ 重ね継手	・ ガス圧接	・																		
・ 上記以外()	・ 重ね継手	・	・																		
4 鉄筋の定着	(5. 3. 4) 鉄筋の定着長さ ・ 図示による() ・ 機械式定着工法 適用場所 ・ 図示による() 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 嵌合グラウト固定 ・ 螺合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による																				

章	項 目	特 記 事 項
	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)	(5.3.5) 最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) ・ 図示による 柱及び梁の主筋に D29 以上の使用 ・ 有り 使用箇所 () 主筋のかぶり厚さを径の 1.5 倍以上確保する 耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・ 適用箇所 () ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm ・
	6 各部配筋	(5.3.7) 各部配筋 ※図示による
	7 圧接完了後の 圧接部の試験	(5.4.10) (5.4.11) 外観試験 ※行う (全ての圧接部) (5.4.10) (5.4.11) 抜取試験 ※超音波探傷試験 試験ロット: 1 組の作業班が 1 日に行った圧接箇所とする。 試験の箇所数: 1 ロットに対して 30 か所とし、ロットから無作為に抜き取る。 ・ 引張試験 試験ロット: 1 組の作業班が 1 日に行った圧接箇所とする。なお、200 か所を超え るときは 200 か所ごととする。 試験の箇所数: 1 ロットに対して (・3 本 ・5 本) とする。
	8 機械式継手	(5.5.3) (5.5.5) 適用箇所 ・ 図示による () H12 建告第 1463 号に適合する性能 ・ A 級 種類 ・ ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・ 無機グラウト方式 ・ 有機グラウト方式 ・ 端部ねじ加工継手 ・ モルタル充填式継手 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による

章	項 目	特 記 事 項
		<p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ※全数 <p>試験項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <p>試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <ul style="list-style-type: none"> ・ 超音波測定試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜取り <p>ロット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1組の作業班が1日で行った継手箇所、最大200箇所程度とする。 <p>試験の箇所数</p> <p>1ロットに対して（ ）箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全数 <p>試験項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ※挿入長さ <p>試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による <p>不合格となった場合の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・
9	溶接継手	<p style="text-align: right;">(5.6.3) (5.6.5)</p> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による（ ） <p>H12 建告第1463号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A級 <p>溶接継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による（ ） <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準仕様書5.3.5(4)による ・ 評定等の評価内容による ・ 図示による（ ） <p>施工完了後の溶接部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ※全数 <p>試験項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <p>試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <ul style="list-style-type: none"> ・ 超音波探傷試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜取り <p>ロット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1組の作業班が1日で行った溶接箇所、最大200箇所程度とする。

章	項 目	特 記 事 項
		<p>試験の箇所数 1ロットに対して（ ）箇所</p> <p>・</p> <p>・全数</p> <p>試験項目 ※内部欠陥の検出</p> <p>試験方法 ※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準）による</p> <p>不合格となった場合の措置</p> <p>・</p>

章	項 目	特 記 事 項																				
6 コンクリート工事	1 コンクリートの種類等	(6.2.1) コンクリートの種別 ※Ⅰ類（茨城県の指定工場であり、JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート） ※普通コンクリート (6.2.1～6.2.4) <table><tr><th>設計基準強度 (N/mm²)</th><th>スランプ (cm)</th><th>気乾単位容積 質量 (t/m³)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・24</td><td>・15 又は 18 ・18</td><td>2.3 程度</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 構造体強度補正值 ※標準仕様書 表 6.3.2 による ・	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	適用箇所	・24	・15 又は 18 ・18	2.3 程度													
	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	適用箇所																		
	・24	・15 又は 18 ・18	2.3 程度																			
2 セメント	(6.3.1) 種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種 適用箇所（※下記以外全て ・ ） 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が 7 日目で 352J/g 以下、かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする ・高炉セメント B 種 適用箇所（・1FL より下部（立上り部含む） ・ ） ・フライアッシュセメント B 種 適用箇所（・ ・ ） ・																					
3 骨材	(6.3.1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・ B（コンクリート中のアルカリ総量が [※] 3.0kg/m ³ 以下）																					
4 混和材料	(6.3.1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(a) による ・ (6.3.1) ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b) による ・																					
5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地	(6.6.4) 打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から 1/4 の付近 ・図示による（ ） ・ 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による（ ） ・ (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3) 目地の寸法 ・標準仕様書 9.7.3(1)(ア) による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による（ ） ・ (6.8.1) (11.1.3)																					

章	項 目	特 記 事 項																
		ひび割れ誘発目地の位置 ・ 図示による ()																
6	構造体 コンクリートの仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6. 2. 5) <table><tr><th>種別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>※図示による ()</td></tr></table> コンクリートの仕上りの平たんさ (6. 2. 5) (6. 8. 2) <table><tr><th>種別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ a 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ b 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ c 種</td><td>※図示による ()</td></tr></table>	種別	適用箇所	・ A 種	※図示による ()	・ B 種	※図示による ()	・ C 種	※図示による ()	種別	適用箇所	・ a 種	※図示による ()	・ b 種	※図示による ()	・ c 種	※図示による ()
種別	適用箇所																	
・ A 種	※図示による ()																	
・ B 種	※図示による ()																	
・ C 種	※図示による ()																	
種別	適用箇所																	
・ a 種	※図示による ()																	
・ b 種	※図示による ()																	
・ c 種	※図示による ()																	
7	打増し厚さ (打放し仕上げ部)	(6. 8. 1) 打増し厚さ ・ 打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・ 20mm ・ ・ 打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm ・ ・ 外装タイル後張り面の打増し処理 ・ 20mm ・ 打増し範囲 ・ 図示による () ・																
8	型枠	(6. 8. 2) せき板の材料及び厚さ ・ 合板 (※12mm ・) ・ 断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・ 図示による () ・ ・ MCR工法用シート (6. 8. 2) 適用箇所 ・ 図示による () ・ 打増し厚さ ・ 20mm ・ 打増し範囲 ・ 図示による () ・ (6. 8. 2) スリーブの材種・規格等 ・ 図示による () ・																

章	項 目	特 記 事 項
	9 無筋コンクリート	<p>(6. 2. 1) (6. 14. 1)</p> <p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート</p> <p>(6. 3. 1)</p> <p>セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種 ・高炉セメント B 種 ・フライアッシュセメント B 種</p> <p>(6. 14. 1)</p> <p>設計基準強度 ※18 (N/mm²)</p> <p>(6. 14. 1)</p> <p>スランブ ※15cm 又は 18cm</p> <p>(6. 14. 1)</p> <p>適用箇所 ・標準仕様書 6. 14. 1 (4) (ア)～(カ)による ・図示による ()</p>
	10 コンクリートの 単位水量測定	<p>・行わない ・行う</p> <p>実施要領</p> <p>(1) 単位水量の測定は、150m³に 1 回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6. 3. 2 (イ) (c) による。</p> <p>(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <p>1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。</p> <p>2) 測定した単位水量が、設計値±15 を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。</p> <p>3) 設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4) 3) の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</p> <p>(4) 単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。</p> <p>(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>

章	項 目	特 記 事 項																		
7 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	(7.1.3) 鉄骨製作工場の加工能力 建築基準法第 68 条の 25 に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※ () グレード ・ グレードの適用はしない																		
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者	(7.1.3) (7.1.4) ※配置する																		
	3 鋼材	種類等 (7.2.1) <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所(主要な部分)</th><th>規格</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS 規格による ・</td></tr></table> 溶融亜鉛めっき工法の適用箇所 ・ ・	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格			※JIS 規格による ・			※JIS 規格による ・			※JIS 規格による ・			※JIS 規格による ・			※JIS 規格による ・
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																	
		※JIS 規格による ・																		
		※JIS 規格による ・																		
		※JIS 規格による ・																		
		※JIS 規格による ・																		
		※JIS 規格による ・																		
4 高力ボルト	(7.2.2) 高力ボルトの種類 ・ トルシア形高力ボルト ・ JIS 形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ・ (7.3.2) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による ・ 摩擦面の処理方法等 溶融亜鉛めっき面以外 (7.4.2) ※標準仕様書 7.4.2(1)による ・ 溶融亜鉛めっき面 (7.12.5) ・ プラスト処理 (表面粗度 50 μ mRz 以上) ・ プラスト処理以外の特別な処理方法 ・ 図示による () ・ ・ すべり試験 (7.4.2) ※すべり係数試験 ・ すべり耐力試験 試験方法等 ・ 図示による () ・																			
5 普通ボルト	(7.2.3) ボルト及びナットの材料 ・ 標準仕様書 表 7.2.3 (JIS 附属書品) 又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180 とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6 又は 4.8 とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナット-C とし、材料は鋼とする。 (7.2.3) 座金 ※JIS B 1256 による ・																			

章	項 目	特 記 事 項																							
		(7.5.2) 戻り止め ※二重ナット ・ (7.3.2) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による ・																							
6	アンカーボルト	(7.2.4) (7.10.3) ・ 構造用アンカーボルト 種類 ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ・ 建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルト 種類 ・ SS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表 7.2.3 による ・ (7.3.2) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による																							
7	溶接材料	(7.2.5) 溶接材料 ※標準仕様書 7.2.5(1) (2) による ・ 標準仕様書 7.2.5(1) (2) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示による（ ） ・																							
8	ターンバックル	(7.2.6) 種類 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・ 建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ・ (7.2.6) ねじの呼び ・ 図示による（ ） ・																							
9	床構造用の デッキプレート	(7.2.7) 材質、形状及び寸法 <table><tr><td></td><td>適用箇所</td><td>材質・形状・寸法</td><td>備考</td></tr><tr><td>・ デッキプレート単独の構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む） ・ 図示による（ ） ・ (7.7.8) 鉄骨部材への溶接方法 ・ 図示による（ ） ・					適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・ デッキプレート単独の構法				・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法											
	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																						
・ デッキプレート単独の構法																									
・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法																									

章	項 目	特 記 事 項												
		耐火認定 ・有り 耐火時間 ・図示による () ・ ・無し												
10	スタッド	(7.2.8) 種類等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び名</th><th>呼び長さ (mm)</th><th>適用箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 16</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・ 19</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・ 22</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	・ 16			・ 19			・ 22		
呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所												
・ 16														
・ 19														
・ 22														
11	柱底均しモルタル	(7.2.9) 無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 ※標準仕様書 7.2.9(2) (ア) から (イ) による ・												
12	製作精度	(7.3.3) 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6[鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12 建告第 1464 号第二号イ (2) による ・ アンダーカットの寸法 ※H12 建告第 1464 号第二号イ (3) による ・ 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・												
13	溶接技能者の 技量付加試験	(7.6.3) 試験の要領 ・図示による () ・												
14	溶接接合	(7.6.4) 開先の形状 ・図示による ・ (7.6.7) ・鋼製エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ・図示による () ・ 切断範囲 ・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5 mm 以下残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。 ・ 切断面の仕上げ ・標準仕様書 7.6.7(1) (カ) (b) ②による ・ (7.6.7) スクラップの形状 ・図示による ・												
15	入熱、パス間温度の 管理	適用箇所 ・図示による () ・												

章	項 目	特 記 事 項										
	16 溶接部の試験	<div>(7.6.12)</div> <div>H12 建告第 1464 号第二号に関する外観試験方法等</div> <div>・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による</div> <div>※抜き取り検査②</div> <div>・抜き取り検査①</div> <div>JASS 6 付則 6[鉄骨精度検査基準]の付表 3「溶接」に関する試験方法等</div> <div>・ JASS 6 10.4[受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13 による補修を行い、再試験する。</div> <div>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</div> <div>・工場溶接の場合</div> <div>AOQL (%) ※4.0 ・2.5</div> <table><tr><td>節</td><td>・全て</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>検査水準</td><td>※第 6 水準</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> <div>・全数</div> <div>・工事現場溶接の場合</div> <div>※全数 ・</div>	節	・全て	・	・	・	検査水準	※第 6 水準	・	・	・
節	・全て	・	・	・								
検査水準	※第 6 水準	・	・	・								
	17 錆止め塗装	<div>(7.8.2)</div> <div>塗装の範囲</div> <div>耐火被覆材の接着する面の塗装範囲</div> <div>・図示による（ ） ・</div> <div>耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲</div> <div>・図示による（ ） ・</div> <div>(7.8.4) (18.3.2)</div> <div>塗料の種別</div> <div>下記以外の鉄鋼面は、18 章[塗装工事]による</div> <div>・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別</div> <div>※A 種 ・</div> <div>・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別</div> <div>・</div>										

章	項 目	特 記 事 項			
	18 耐火被覆	(7.9.2～7.9.8)			
		種類、材料、工法等			
		種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
		・耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール		
			・半乾式吹付け ロックウール		
			・湿式ロック ウール		
			・		
			・		
		・耐火板張り	・繊維混入けい酸 カルシウム板		
			・		
		・耐火材巻付け	・高断熱ロック ウール		
			・		
		・ラス張り モルタル塗り	—		
		・耐火塗料	・		
19 アンカーボルトの 設置等		(7.10.3)			
		構造用アンカーボルトの形状及び寸法			
		・図示による（ ） ・			
		(7.10.3)			
		構造用アンカーフレームの形状及び寸法			
		・図示による（ ） ・			
		(7.10.3)			
		建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの形状及び寸法			
		・図示による（ ） ・			
		(7.10.3)			
建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの保持及び埋込み工法	種別 ・ A 種 ・ B 種	(7.10.3)			
		(7.10.3)			
		(7.10.3)			
		(7.10.3)			
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別	厚さ ・				
		種別 ※A 種 ・ B 種			

章	項 目	特 記 事 項																							
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリート ブロック造	<div>(8.2.2) (8.2.3) (8.2.5) (8.2.7) (8.2.8)</div> <div>ブロックの種類等</div> <table><tr><th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th><th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th><th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th><th rowspan="2">化粧の 有無</th><th rowspan="2">適用箇所</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>長さ</th><th>高さ</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td><td></td></tr></table> <div>モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書表 8.2.1 による ・セメント（ ） : 砂（ ）</div> <div>各部の配筋 ※図示による（ ） ・</div> <div>目地仕上げ ・押し目地仕上げ ・化粧目地仕上げ</div> <div>まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲 ※図示による（ ） ・</div>	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	適用箇所	備考	長さ	高さ	・				・無 ・有			・				・無 ・有		
	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)			モジュール呼び寸法 (mm)					化粧の 有無	適用箇所	備考													
長さ			高さ																						
・				・無 ・有																					
・				・無 ・有																					
2	コンクリート ブロック塀壁及び塀	<div>(8.3.2～8.3.4)</div> <div>ブロックの種類等</div> <table><tr><th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th><th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th><th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th><th rowspan="2">化粧の 有無</th><th rowspan="2">(表 8.3.1) 以外の 適用箇所</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>長さ</th><th>高さ</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・空洞ブロック C(16)</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td><td></td></tr></table> <div>モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書表 8.2.1 による ・セメント（ ） : 砂（ ）</div> <div>塀に用いるブロックの正味厚さ（mm） 塀の高さが 2m 以下 ※120 ・ 塀の高さが 2m 超え ※150 ・</div> <div>壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示による（ ） ・</div> <div>各部の配筋 ※図示による（ ） ・</div>	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	(表 8.3.1) 以外の 適用箇所	備考	長さ	高さ	・				・無 ・有			・空洞ブロック C(16)				・無 ・有		
断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)			化粧の 有無	(表 8.3.1) 以外の 適用箇所				備考															
		長さ	高さ																						
・				・無 ・有																					
・空洞ブロック C(16)				・無 ・有																					

章	項 目	特 記 事 項																																														
	3 ALCパネル	<div>(8.4.2～8.4.5)</div> <div>ALC パネルの区分等</div> <table><tr><th colspan="3" rowspan="2">区分</th><th colspan="2">単位荷重 (N/m²)</th><th rowspan="2">厚さ (mm)</th><th rowspan="2">幅及び 長さ</th><th rowspan="2">耐火性能 (時間)</th><th rowspan="2">構法の 種別</th></tr><tr><th>正 荷 重</th><th>負 荷 重</th></tr><tr><td>・外壁 用</td><td>・一般 ・コーナー</td><td>・平 ・意匠</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>図示に よる</td><td>・なし ・1</td><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>・間仕 切壁 用</td><td>・一般 ・コーナー</td><td>・平 ・意匠</td><td>—</td><td>—</td><td>・</td><td>図示に よる</td><td>・なし ・1</td><td>・C種 ・D種 ・E種</td></tr><tr><td>・屋根 用</td><td>—</td><td>—</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>図示に よる</td><td>・0.5</td><td rowspan="2">※F種</td></tr><tr><td>・床用</td><td>—</td><td>—</td><td>・</td><td>—</td><td>・</td><td>図示に よる</td><td>・1 ・2</td></tr></table> <div>パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材</div> <div>・</div> <div>外壁、屋根パネルの構法</div> <div>1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能</div> <div>外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能</div> <div>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</div> <div>パネル幅の最小限度を 300mm 未満とする場合</div> <div>・ 図示による ・</div> <div>目地幅 (mm)</div> <div>（パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅、入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部）</div> <div>※10～20 ・</div> <div>外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填</div> <div>・ 適用する ・ 適用しない</div>	区分			単位荷重 (N/m ²)		厚さ (mm)	幅及び 長さ	耐火性能 (時間)	構法の 種別	正 荷 重	負 荷 重	・外壁 用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示に よる	・なし ・1	・A種 ・B種	・間仕 切壁 用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示に よる	・なし ・1	・C種 ・D種 ・E種	・屋根 用	—	—	・	・	・	図示に よる	・0.5	※F種	・床用	—	—	・	—	・	図示に よる	・1 ・2
	区分					単位荷重 (N/m ²)						厚さ (mm)	幅及び 長さ	耐火性能 (時間)	構法の 種別																																	
正 荷 重				負 荷 重																																												
・外壁 用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示に よる	・なし ・1	・A種 ・B種																																								
・間仕 切壁 用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示に よる	・なし ・1	・C種 ・D種 ・E種																																								
・屋根 用	—	—	・	・	・	図示に よる	・0.5	※F種																																								
・床用	—	—	・	—	・	図示に よる	・1 ・2																																									
	4 押出成形セメント板 (ECP)	<div>(8.5.2～8.5.5)</div> <div>ECP の種類等</div> <table><tr><th>パネルの種類</th><th>形状</th><th>厚さ (mm)</th><th>幅 (mm)</th><th>工法の 種別</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">・外壁パネル</td><td>・F</td><td>・50 ・60 ・</td><td rowspan="3">※600 ・</td><td rowspan="3">・A種 ・B種</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・D</td><td>・50 ・60</td></tr><tr><td>・T</td><td>60</td></tr><tr><td rowspan="3">・間仕切壁パネル</td><td>・F</td><td>・50 ・60 ・</td><td rowspan="3">※600 ・</td><td rowspan="3">・B種 ・C種</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・D</td><td>・50 ・60</td></tr><tr><td>・T</td><td>60</td></tr></table> <div>注）F：フラットパネル、D：デザインパネル、T：タイルベースパネル</div> <div>外壁パネルの工法における耐風圧性能</div> <div>1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能</div> <div>外壁パネル工法及び間仕切りパネル工法における耐震性能</div> <div>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</div> <div>パネル幅の最小限度を 300 mm未満とする場合</div> <div>・ 図示による ・</div>	パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の 種別	備考	・外壁パネル	・F	・50 ・60 ・	※600 ・	・A種 ・B種		・D	・50 ・60	・T	60	・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60 ・	※600 ・	・B種 ・C種		・D	・50 ・60	・T	60																				
パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の 種別	備考																																											
・外壁パネル	・F	・50 ・60 ・	※600 ・	・A種 ・B種																																												
	・D	・50 ・60																																														
	・T	60																																														
・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60 ・	※600 ・	・B種 ・C種																																												
	・D	・50 ・60																																														
	・T	60																																														

章	項 目	特 記 事 項																			
		<p>パネル相互の目地幅 (mm)</p> <p>・長辺 () ・短辺 ()</p> <p>出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅 (mm)</p> <p>※15 程度 ・</p> <p>耐火構造以外の目地及び隙間の処理</p> <p>※パネル製造所の仕様 ・</p> <p>やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th></th><th>孔あけ及び欠き込みの大きさ</th><th>切断後のパネルの 残り部分の幅</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">パネルに孔あけ を設ける場合</td><td>短辺</td><td>パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下</td><td>150mm 以下</td></tr> <tr> <td>長辺</td><td>500mm 以下</td><td>300mm 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="2">パネルに欠き込 みを設ける場合</td><td>短辺</td><td>パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下</td><td>300mm 以下</td></tr> <tr> <td>長辺</td><td>500mm 以下</td><td>300mm 以下</td></tr> </tbody> </table>				孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のパネルの 残り部分の幅	パネルに孔あけ を設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下	150mm 以下	長辺	500mm 以下	300mm 以下	パネルに欠き込 みを設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下	300mm 以下	長辺	500mm 以下	300mm 以下
		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のパネルの 残り部分の幅																		
パネルに孔あけ を設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下	150mm 以下																		
	長辺	500mm 以下	300mm 以下																		
パネルに欠き込 みを設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、 300mm 以下	300mm 以下																		
	長辺	500mm 以下	300mm 以下																		

章	項 目	特 記 事 項				
9 防水工事	1 アスファルト防水	(9. 2. 2～9. 2. 5) (表 9. 2. 3～9. 2. 9)				
	屋根保護防水					
	防水層の種別					
	種別	施工箇所	断熱材		絶縁用シート	
	・ A-1				※ホ [°] リエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上又はフラットヤ ンクロス 70g/㎡程度 ・	
	・ A-2					
	・ A-3					
	・ B-1					
	・ B-2					
	・ AI-1		(種類) ※JIS A 9521 に基づく押出法 ポリスチレンフォーム断熱 材 3 種 bA (スキン層付き) (厚さ) (mm) ・	※フラットヤンクロス 70g/㎡程 度 ・		
	・ AI-2					
	・ AI-3					
	・ BI-1					
	・ BI-2					
	改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 2. 3 及び表 9. 2. 4 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 2. 5 及び表 9. 2. 6 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上 立上り部への断熱材及び絶縁シート ※設置しない ・設置する 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm 以上 ・ 床タイル張り ※水下 60mm 以上 ・ 立上り部の保護工法 ・乾式保護材 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による) 窯業系パネルⅠ類 厚さ () mm 幅 () mm ・コンクリート押え ・れんが押え (※JIS R 1250 ・) ・モルタル押え (屋内) 屋根露出防水 防水層の種別					
	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率 防水
				種類	使用量	
	・ D-1		標準仕様書 9. 2. 2 (9) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・	・アスファルト ーフィング 類 の製造所 の仕様 ・	※アスファルト ーフィング 類 の製造所 の仕様 ・	・適用する
	・ D-2					・適用する
・ DⅠ-1		・適用する				
・ DⅠ-2					・適用する	

章	項 目	特 記 事 項																																						
		<p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 2. 8 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 2. 7 及び表 9. 2. 8 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上</p> <p>絶縁断熱工法のルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示による .</p> <p>絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 . 設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 . 個</p> <p>屋内防水 防水層の種別</p> <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>種別</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ E-1</td><td></td><td>・ E-2</td><td></td></tr></table> <p>保護層 ・ 設ける (※図示による .) . 設けない</p> <p>E-1 の工程 3 を行う部位 ※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 .</p> <p>防水層の下地の立上り ※コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書 表 6. 2. 4 [打放し仕上げ種別] の B 種 .</p> <p>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2. 0mm 程度 .</p> <p>防水層の下地のモルタル塗り ・ 適用する (施工範囲 ※図示による .) ・ 適用しない</p> <p>屋上排水溝 ・ 図示による .</p>	種別	施工箇所	種別	施工箇所	・ E-1		・ E-2																															
種別	施工箇所	種別	施工箇所																																					
・ E-1		・ E-2																																						
2	改質アスファルトシート防水	<p>(9. 3. 2) (9. 3. 3) (表 9. 3. 1～9. 3. 3)</p> <p>屋根露出防水 防水層の種別</p> <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">断熱材</th><th rowspan="2">防湿用シート</th><th colspan="2">仕上塗料</th><th rowspan="2">高日射 反射率防水</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・ AS-T1</td><td></td><td rowspan="5"><div>標準仕様書 9. 3. 2 (3) (イ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・</div></td><td rowspan="5"><div>・ 設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・ 設けない</div></td><td rowspan="6">※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .</td><td rowspan="6">※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ AS-T2</td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ AS-T3</td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ AS-T4</td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ AS-J1</td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ ASI-T1</td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ ASI-J1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 適用する</td></tr></table> <p>改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 3. 1 から 表 9. 3. 3 による</p>	種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料		高日射 反射率防水	種類	使用量	・ AS-T1		<div>標準仕様書 9. 3. 2 (3) (イ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・</div>	<div>・ 設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・ 設けない</div>	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .	・ 適用する	・ AS-T2		・ 適用する	・ AS-T3		・ 適用する	・ AS-T4		・ 適用する	・ AS-J1		・ 適用する	・ ASI-T1		・ 適用する	・ ASI-J1						・ 適用する
種別	施工箇所	断熱材					防湿用シート	仕上塗料		高日射 反射率防水																														
			種類	使用量																																				
・ AS-T1		<div>標準仕様書 9. 3. 2 (3) (イ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・</div>	<div>・ 設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・ 設けない</div>	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 .	・ 適用する																																		
・ AS-T2						・ 適用する																																		
・ AS-T3						・ 適用する																																		
・ AS-T4						・ 適用する																																		
・ AS-J1						・ 適用する																																		
・ ASI-T1		・ 適用する																																						
・ ASI-J1						・ 適用する																																		

章	項 目	特 記 事 項																																																									
		<div>・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm以上</div> <div>粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 3. 2 及び 表 9. 3. 3 による</div> <div>・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上</div> <div>部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9. 3. 2 及び 表 9. 3. 3 による</div> <div>・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上</div> <div>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2. 0 mm程度</div> <div>・</div> <div>絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量</div> <div>種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定</div> <div>設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 個</div>																																																									
3	合成高分子系 ルーフィングシート防水	<div>(9. 4. 2～9. 4. 4) (表 9. 4. 1～9. 4. 3)</div> <div>防水層の種類別</div> <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">可塑剤移行 防止用シー トの材質</th><th rowspan="2">断熱材</th><th colspan="2">仕上塗料</th><th rowspan="2">高日射 反射率防水</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・ S-F1</td><td></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ S-F2</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ S-M1</td><td></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ S-M2</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ SI-F1</td><td></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (b) (種類) ・ (厚さ) mm</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ SI-F2</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ SI-M1</td><td></td><td rowspan="2">※発泡ポリエチレンシート</td><td rowspan="2">標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (a) (種類) ・ (厚さ) mm</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>※ルーフィングシートの製造所の仕様</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>・ SI-M2</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 適用する</td></tr></table> <div>S-F1、S-M1、S-F2、S-M2 の仕様 ※非歩行仕様 ・ 軽歩行仕様</div> <div>SI-M1 及び SI-M2 における防湿用フィルム ・ 設置する ・ 設置しない</div>	種別	施工箇所	可塑剤移行 防止用シー トの材質	断熱材	仕上塗料		高日射 反射率防水	種類	使用量	・ S-F1				※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する	・ S-F2				・ 適用する	・ S-M1				※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する	・ S-M2				・ 適用する	・ SI-F1			標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (b) (種類) ・ (厚さ) mm	※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する	・ SI-F2				・ 適用する	・ SI-M1		※発泡ポリエチレンシート	標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (a) (種類) ・ (厚さ) mm	※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する	・ SI-M2				・ 適用する
種別	施工箇所	可塑剤移行 防止用シー トの材質					断熱材	仕上塗料		高日射 反射率防水																																																	
			種類	使用量																																																							
・ S-F1				※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する																																																					
・ S-F2						・ 適用する																																																					
・ S-M1				※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する																																																					
・ S-M2						・ 適用する																																																					
・ SI-F1			標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (b) (種類) ・ (厚さ) mm	※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する																																																					
・ SI-F2						・ 適用する																																																					
・ SI-M1		※発泡ポリエチレンシート	標準仕様書 9. 4. 2 (3) (イ) (a) (種類) ・ (厚さ) mm	※ルーフィングシートの製造所の仕様	※ルーフィングシートの製造所の仕様	・ 適用する																																																					
・ SI-M2						・ 適用する																																																					

章	項 目	特 記 事 項																																
		<div>屋内防水</div> <div>防水層の種類</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">保護層</th> </tr> <tr> <th>平場の保護モルタル塗厚</th> <th>立上り部の保護モルタル塗厚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S-C1</td> <td></td> <td>・</td> <td>※7mm 以下 ・</td> </tr> </tbody> </table> <div>平場の保護モルタル床塗りににおける目地の目地割及び種類</div> <div>目地割</div> <div>※目地割り 2 m程度、最大目地間隔 3m 程度</div> <div>目地の種類</div> <div>※押し目地</div> <div>合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ</div> <div>※標準仕様書 表 9. 4. 1 から表 9. 4. 3 による</div> <div>・ JIS A 6008 に基づく種類及び厚さ</div> <div>種類</div> <div>厚さ</div> <div>mm以上</div> <div>固定金具の材質、形状及び寸法</div> <div>※厚さ 0. 4mm 以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの</div> <div>・</div> <div>接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量</div> <div>種類</div> <div>※ルーフィングシートの製造所の仕様</div> <div>・</div> <div>設置数量</div> <div>※ルーフィングシートの製造所の仕様</div> <div>・ () 個</div> <div>接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理</div> <div>・ 行う (・ 図示による)</div> <div>・ 行わない</div> <div>プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り (種別 S-F1、SI-F1 の場合)</div> <div>・ 行う (・ 図示による)</div> <div>・ 行わない</div> <div>機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け</div> <div>1 章 適用区分による風圧力の (・ 1) 倍の風圧力に対応した工法</div>	種別	施工箇所	保護層		平場の保護モルタル塗厚	立上り部の保護モルタル塗厚	・ S-C1		・	※7mm 以下 ・																						
種別	施工箇所	保護層																																
		平場の保護モルタル塗厚	立上り部の保護モルタル塗厚																															
・ S-C1		・	※7mm 以下 ・																															
4	塗膜防水	<div>(9. 5. 3) (表 9. 5. 1) (表 9. 5. 2)</div> <div>防水層の種類</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">保護層</th> <th rowspan="2">高日射 反射率防水</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ X-1</td> <td></td> <td>※主材料の製造所の仕様 ・</td> <td>※主材料の製造所の仕様 ・</td> <td></td> <td>・ 適用する</td> </tr> <tr> <td>・ X-2</td> <td></td> <td>※主材料の製造所の仕様 ・</td> <td>※主材料の製造所の仕様 ・</td> <td></td> <td>・ 適用する</td> </tr> <tr> <td>・ Y-1</td> <td>※地下外壁防水 ・</td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ Y-2</td> <td>※屋内防水 ・</td> <td colspan="2"></td> <td>・ 適用する ・ 適用しない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div>ウレタンゴム系塗膜防水 X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び設置数量</div> <div>種類</div> <div>※主材料の製造所の仕様</div> <div>・</div> <div>設置数量</div> <div>※主材料の製造所の仕様</div> <div>・ () 個</div>	種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	高日射 反射率防水	種類	使用量	・ X-1		※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・ 適用する	・ X-2		※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・ 適用する	・ Y-1	※地下外壁防水 ・					・ Y-2	※屋内防水 ・			・ 適用する ・ 適用しない	
種別	施工箇所	仕上塗料			保護層	高日射 反射率防水																												
		種類	使用量																															
・ X-1		※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・ 適用する																													
・ X-2		※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・ 適用する																													
・ Y-1	※地下外壁防水 ・																																	
・ Y-2	※屋内防水 ・			・ 適用する ・ 適用しない																														

章	項 目	特 記 事 項								
	5 ケイ酸質系塗布防水	<div>(9.6.4) (表 9.6.1)</div> <div>防水層の下地</div> <div>壁 ※コンクリート打放し仕上げ (標準仕様書表 6.2.4 B 種) ・</div> <div>天井部 ※コンクリート打放し仕上げ (標準仕様書表 6.2.4 B 種) ・</div> <div>下地処理</div> <div>コンクリートの打継ぎ箇所の処理</div> <div>※打継ぎ部分に対し、幅 30mm 程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。</div> <div>・ 図示による</div> <div>・</div> <div>標準仕様書 9.6.4 (2) の (イ)、(ウ) 以外の下地処理</div> <div>・ 図示による</div> <div>・</div>								
	6 シーリング	<div>(9.7.2) (9.7.3) (9.7.5) (表 9.7.1)</div> <div>下表以外は、標準仕様書 表 9.7.1 による</div> <div>ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは 11 章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは 17 章による。</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類 (記号)</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> <div>仕上げを行わない施工箇所 (・ 図示による ・)</div> <div>シーリング材の目地寸法</div> <div>※標準仕様書 9.7.3 (1) (ア) ～ (ウ) による</div> <div>・ 図示による</div> <div>・</div> <div>接着性試験</div> <div>※簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験</div>	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)						
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)									

章	項 目	特 記 事 項																																																												
10 石 工 事	1 施工	(10. 1. 3) 石材の割付け ※図示による																																																												
	2 石材等	(10. 2. 1) (10. 2. 3) (表 10. 2. 1) (表 10. 2. 2) 天然石 <table><tr><th>施工箇所</th><th>岩石の種類</th><th>形状及び寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面仕上げ の種類</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 床石</td><td></td><td>・ 図示による ・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ジェットバーナー仕上げの場合のバフ仕上げの有無 ・ あり ・ なし テラゾブロック <table><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の大きさ (mm)</th><th>形状による区分</th><th>仕上げ面による区分</th><th>寸法 (mm)</th><th>表面仕上げの種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・ 花こう岩</td><td>※1. 5～12 ・</td><td>・ 平 も の ・ 役 も の</td><td>・ 片面 ・ 両面</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> テラゾタイル <table><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の大きさ (mm)</th><th>寸法による区分</th><th>表面仕上げの種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・ 花こう岩</td><td>※1. 5～12 ・</td><td>・ 300 型 ・ 400 型</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (10. 2. 3) その他の材料 取付け用モルタル ※専門工事業者の指定する製品 ・ 既調合の目地モルタル ※専門工事業者の指定する製品 ・ 浸透性吸水防水剤 ※専門工事業者の指定する製品 ・ 石裏面処理材 ※専門工事業者の指定する製品 ・ 裏打ち処理材 ※専門工事業者の指定する製品 ・ ドレンパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ ・ 金物の固定に使用する充填材料等 ※専門工事業者の指定する製品 ・	施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ の種類	備考	・ 床石		・ 図示による ・										施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法 (mm)	表面仕上げの種類	備考		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12 ・	・ 平 も の ・ 役 も の	・ 片面 ・ 両面												施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12 ・	・ 300 型 ・ 400 型								
	施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ の種類	備考																																																								
	・ 床石		・ 図示による ・																																																											
	施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法 (mm)	表面仕上げの種類	備考																																																						
		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12 ・	・ 平 も の ・ 役 も の	・ 片面 ・ 両面																																																									
	施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考																																																								
		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12 ・	・ 300 型 ・ 400 型																																																										

章	項 目	特 記 事 項
	3 外壁湿式工法	(10. 2. 2) (10. 2. 3) (10. 3. 2) (10. 3. 3)
		<p>受金物</p> <p>材質</p> <p>※SUS304 ・</p> <p>形状及び寸法</p> <p>・ L-75×75×6 (mm) の加工 長さ 100mm 又は 150mm</p> <p>・</p> <p>アンカーの材質及び寸法</p> <p>材質</p> <p>※SS400 ・</p> <p>寸法</p> <p>・ ・</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等</p> <p>種類 ・</p> <p>材質 ・</p> <p>寸法 ・</p> <p>ドレンパイプ</p> <p>・ 設ける（設置位置：図示による）</p> <p>・ 設けない</p> <p>石裏面処理</p> <p>・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>裏打ち処理</p> <p>・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>下地ごしらえ</p> <p>※あと施工アンカー・横筋流し工法</p> <p>・ あと施工アンカー工法</p> <p>・ 流し筋工法</p> <p>目地</p> <p>一般目地</p> <p>・ 目地モルタル （目地幅 ・ ）</p> <p>・ 既調合の目地モルタル （目地幅 ・ ）</p> <p>※シーリング材 （種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・ ）</p> <p>（目地幅及び深さ ・ ）</p> <p>伸縮調整目地</p> <p>位置</p> <p>・ 図示による</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>※標準仕様書 表 9. 7. 1 による</p> <p>目地寸法</p> <p>※幅・深さともに 10mm 以上</p> <p>・ 図示による</p>

章	項 目	特 記 事 項
	4 内壁空積工法	<p>(10. 2. 2) (10. 4. 2) (10. 4. 3)</p> <p>受金物 材質 ※SUS304 ・</p> <p>形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm) の加工 長さ 100mm 又は 150mm ・</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ・ 材質 ・ 寸法 ・</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋流し工法 ・ あと施工アンカー工法</p> <p>一般目地 ・ 目地モルタル (目地幅 ・) ・ 既調合の目地モルタル (目地幅 ・) ・ シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・) (目地幅及び深さ ・)</p> <p>伸縮調整目地 位置 ・ 6m 程度 ・ 図示による シーリング材の種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による 目地寸法 ・</p>
	5 外壁乾式工法	<p>(10. 2. 2) (10. 5. 2) (10. 5. 3) (表 10. 2. 4)</p> <p>乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等 ※標準仕様書表 10. 2. 4 による (方式 : ・ スライド方式 ・ ロッキング方式) ・ 図示による</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ・ 材質 ・ 寸法 ・</p> <p>だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書 10. 5. 2 (2) (7) による ・ 図示による</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p>

章	項 目	特 記 事 項
		建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法 シーリング材 種類 ※標準仕様書 表 9.7.1 による ・ 目地幅及び深さ ・
	6 床及び階段の石張り	(10.6.2) (10.6.3) 浸透性吸水防止剤 （床石張り） ・適用する ・適用しない 石裏面処理 （床石張り） ・適用する ・適用しない （階段張り） ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 （床石張り） ・適用する ・適用しない 一般目地 ・目地モルタル （目地幅 ・ ） ・既調合の目地モルタル （目地幅 ・ ） ・シーリング材 （種類 ※標準仕様書 表 9.7.1 による ・ ） （目地幅及び深さ ・ ） 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 10.6.2(5) (a) による ・図示による シーリング材の種類 ※標準仕様書 表 9.7.1 による ・ 目地寸法 ※幅・深さともに 10mm 以上 ・図示による
	7 笠木、甲板等の石張り	(10.2.2) (10.7.2) 取付け工法 ・湿式工法 ・乾式工法 特殊部位用金物 材質 ※SUS304 寸法等 引金物 ※標準仕様書表 10.2.3 による ・ だぼ ※標準仕様書表 10.2.3 による ・ かすがい ※標準仕様書表 10.2.3 による ・ 受金物 ※標準仕様書 10.2.2(1) (イ) による

章	項 目	特 記 事 項
		<p>・</p> <p>乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等</p> <p>ファスナー</p> <p>※標準仕様書表 10.2.4 に準ずる</p> <p>(方式： ・ スライド方式 ・ ロッキング方式)</p> <p>・ 図示による</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等</p> <p>種類 ・</p> <p>材質 ・</p> <p>寸法 ・</p> <p>石裏面処理</p> <p>・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>乾式工法の場合の取付け代</p> <p>※70 mm程度 ・</p> <p>石材の裏面の補強用モルタル</p> <p>・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>一般目地</p> <p>・ 目地モルタル (目地幅 ・)</p> <p>・ 既調合の目地モルタル (目地幅 ・)</p> <p>・ シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9.7.1 による ・)</p> <p>(目地幅及び深さ ・)</p> <p>伸縮調整目地</p> <p>位置</p> <p>※標準仕様書 10.6.2(5)(a) による</p> <p>・ 図示による</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>※標準仕様書 表 9.7.1 による</p> <p>・</p> <p>目地寸法</p> <p>・ 図示による</p>

章	項 目	特 記 事 項			
11 タイル工事	1 伸縮調整目地及び ひび割れ誘発目地	(11.1.3) (表 11.1.1)			
		位置 目地寸法	※標準仕様書 表 11.1.1 による ・ 図示による	・ 図示による	
	2 見本焼き・試験施工	(11.1.4)			
		見本焼き ・ 行う (施工箇所 : 試験張り ・ 行う (範囲、仕様等は図示による))	・ 行わない ・ 行わない	
	3 セメントモルタルに よるタイル張り	(11.2.2) (11.2.6)			
		タイルの形状、寸法等			
		施工箇所			
		種類			
		形状/寸法(mm)			
		再生材料 の適用	・ 適用する	・ 適用する	・ 適用する
		吸水率による 区分	・ I ・ II ・ III	・ I ・ II ・ III	・ I ・ II ・ III
		うわぐすり	・ 施ゆう ・ 無ゆう	・ 施ゆう ・ 無ゆう	・ 施ゆう ・ 無ゆう
		役物	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無
		色	・ 標準 ・ 特注	・ 標準 ・ 特注	・ 標準 ・ 特注
		耐凍害性	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無
		耐滑り性	・	・	・
		備考			
		標準的な曲がりの役物は一体成形とする。			
		既調合モルタル (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による) モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨 材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。			
		既調合目地材 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)			
		下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 ※目荒し工法 (高圧水洗処理) ・ MCR 工法 ・			
		壁タイル張りの工法 内外装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り			

章	項 目	特 記 事 項			
	4 有機系接着剤による タイル張り	(11.3.2～11.3.5)			
		タイルの形状、寸法等			
		施工箇所			
		種類			
		形状/寸法(mm)			
		再生材料 の適用	・適用する	・適用する	・適用する
		吸水率による 区分	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		うわぐすり	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう
		役物	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		色	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注
		耐凍害性	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		耐滑り性	・	・	・
		備考			
		標準的な曲がりの役物は一体成形とする			
		内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆			
		目地のシーリング材 打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材			
		ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材			
		伸縮調整目地及びその他の目地 ※変成シリコン系シーリング材			
		下地調整塗材塗りをを行うコンクリート素地面の下地処理 ※目荒し工法(高圧水洗処理) ・MCR 工法			
		外装タイルの目地詰め ※行う ・行わない			

章	項 目	特 記 事 項				
12 木 工 事	1 施工一般	(12. 2. 1) 材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆又は標準仕様書 12. 2. 1 (1) (㏽) (b)による				
	2 製材	(12. 2. 1) (12. 4. 1) (12. 5. 1) (12. 6. 1) (12. 7. 1) (表 12. 2. 2) ・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材				
		施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存 処理
				※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・	間伐材等 の適用
				※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・	
		・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材				
		施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存 処理
		見え掛り面		※上小節 ・	※A 種 ・ B 種 ・	間伐材等 の適用
		見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A 種 ・ B 種 ・	
					※A 種 ・ B 種 ・	
		・ JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材				
		施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存 処理
				※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・	間伐材等 の適用
				※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・	
		・ JAS 1083 (製材) 以外の製材				
		施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
				() 造作材の場合 (※A 種 ・ B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・
				() 造作材の場合 (※A 種 ・ B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・

章	項 目	特 記 事 項							
3	造作用集成材	(12. 2. 1)							
		・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材							
		施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け 材面	見付け材 面の品質	間伐材等 の適用	
							※1 等 ・ 2 等		
							※1 等 ・ 2 等		
		・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材							
		施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄 板の厚 さ (mm)	見付 け材 面	見付け 材面の 品質	間伐 材等 の適 用
				化粧薄板： 芯材：				※1 等 ・ 2 等	
				化粧薄板： 芯材：				※1 等 ・ 2 等	
		・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材							
		施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面の品質		含水率	間伐材等 の適用	
							※15%以下 ・		
							※15%以下 ・		
		・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材							
		施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄 板の厚 さ (mm)	見付け材 面の品質	含水率	間伐材等 の適用	
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・				
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・				

章	項 目	特 記 事 項									
	4 造作用単板積層材	(12. 2. 1)									
		・ JAS 0701 に基づく造作用単板積層材									
		施工箇所		品名	寸法 (mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等 の適用			
							・ 適用する ・ 適用しない				
							・ 適用する ・ 適用しない				
		・ JAS 0701 以外の造作用単板積層材									
		施工箇所		寸法 (mm)	表面の品質		含水率	防虫処理	間伐材等 の適用		
							※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない			
							※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない			
		・ JAS 3079 に基づく直交集成板 (CLT)									
		施工箇所		品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)	間伐材等 の適用	
	5 合板等	(12. 2. 1)									
		・ 「合板の日本農林規格」による普通合板									
		施工箇所		厚さ (mm)	単板の 樹種名	接着の 程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等 の適用		
				※5.5 ・		※1 類 ・ 2 類	広葉樹 ※2 等以上 ・ 1 等 針葉樹 ※C-D 以上 ・	・ 適用する ・ 適用しない			
				・			・				
		・ 「合板の日本農林規格」による構造用合板									
		施工箇所		厚さ (mm)	等級	単板の 樹種名	接着の 程度	板面の 品質	防虫処 理	強度等級	間伐材 等の適用
				※12 ・	・ 1 級 ※2 級 以上		※1 類 ・ 特類	※C-D 以上 ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ 適用する () ・ 適用しない	
				※12 ・	・ 1 級 ※2 級 以上		※1 類 ・ 特類	※C-D 以上 ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ 適用する () ・ 適用しない	
		・ 「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板									
		施工箇所		厚さ (mm)	単板の樹種 名	接着の程度		防虫処理	間伐材等 の適用		
						・ 1 類 ・ 特類		・ 適用する ・ 適用しない			

章	項 目	特 記 事 項																																																																											
		<div>・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>化粧板に使用する 単板の樹種名</th><th>厚さ (mm)</th><th>接着の 程度</th><th>防虫処理</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・ 1 類 ・ 2 類</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>接着の 程度</th><th>単板の 樹脂名</th><th>化粧加工の 方法</th><th>防虫処理</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ 1 類 ・ 2 類</td><td></td><td></td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>・パーティクルボード</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>表裏面の状態 による区分</th><th>曲げ強さに よる区分</th><th>耐水性に よる区分</th><th>難燃性に よる区分</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※13 タイプ ・</td><td>※P 又は M ・</td><td></td><td>※15mm ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>・ JAS 0360 に基づく構造用パネル</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> <div>・ MDF</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表裏面の状態に よる区分</th><th>曲げ強さに よる区分</th><th>接着剤に よる区分</th><th>難燃性に よる区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の 程度	防虫処理				・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ・ 適用しない						施工箇所	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の 樹脂名	化粧加工の 方法	防虫処理			・ 1 類 ・ 2 類			・ 適用する ・ 適用しない							施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さに よる区分	耐水性に よる区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)			※13 タイプ ・	※P 又は M ・		※15mm ・							施工箇所	寸法 (mm)					施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態に よる区分	曲げ強さに よる区分	接着剤に よる区分	難燃性に よる区分												
施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の 程度	防虫処理																																																																									
			・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ・ 適用しない																																																																									
施工箇所	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の 樹脂名	化粧加工の 方法	防虫処理																																																																								
		・ 1 類 ・ 2 類			・ 適用する ・ 適用しない																																																																								
施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さに よる区分	耐水性に よる区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)																																																																								
		※13 タイプ ・	※P 又は M ・		※15mm ・																																																																								
施工箇所	寸法 (mm)																																																																												
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態に よる区分	曲げ強さに よる区分	接着剤に よる区分	難燃性に よる区分																																																																								
6	接合具等	<div>(12. 2. 2)</div> <div>造作材の化粧面の釘打ち</div> <div>※隠し釘打ち</div> <div>・ 釘頭埋め木</div> <div>・ つぶし頭釘打ち</div> <div>・ 釘頭現し</div> <div>諸金物</div> <div>※かすがい、座金、箱金物、短冊金物</div> <div>(標準仕様書 表 12. 2. 3～12. 2. 5 に示す程度の市販品 表 14. 2. 2 の F 種程度)</div> <div>・ (形状： 寸法： 材質：)</div>																																																																											
7	接着剤	<div>(12. 2. 2) (12. 2. 3)</div> <div>接着剤のホルムアルデヒド放散量</div> <div>※F☆☆☆☆</div> <div>・</div>																																																																											

章	項 目	特 記 事 項																				
	8 防腐・防蟻処理	(12. 3. 1) (12. 3. 2) ・ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 <table><tr><th>適用部位</th><th>保存処理性能区分</th></tr><tr><td></td><td>・ K2 ・ K3 ・ K4</td></tr><tr><td></td><td>・ K2 ・ K3 ・ K4</td></tr><tr><td></td><td>・ K2 ・ K3 ・ K4</td></tr></table> ・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 <table><tr><th>適用部材</th><th>処理の方法</th><th>薬剤の種類</th></tr><tr><td></td><td>※薬剤の製造所の仕様による ・</td><td>※JIS K 1571 に適合 又は同等品</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr></table> ・ 薬剤の接着材への混入による防腐・防蟻処理 適用部位（	適用部位	保存処理性能区分		・ K2 ・ K3 ・ K4		・ K2 ・ K3 ・ K4		・ K2 ・ K3 ・ K4	適用部材	処理の方法	薬剤の種類		※薬剤の製造所の仕様による ・	※JIS K 1571 に適合 又は同等品		・			・	
	適用部位	保存処理性能区分																				
		・ K2 ・ K3 ・ K4																				
		・ K2 ・ K3 ・ K4																				
		・ K2 ・ K3 ・ K4																				
	適用部材	処理の方法	薬剤の種類																			
		※薬剤の製造所の仕様による ・	※JIS K 1571 に適合 又は同等品																			
		・																				
		・																				

章	項 目	特 記 事 項																																	
13 屋根及び とい工事	1 長尺金属板葺	(13. 2. 2) (13. 2. 3)																																	
	<table><tr><th>施工箇所</th><th>板及びコイルの 種類</th><th>塗膜の耐久性 の種類、めっ き付着量</th><th>厚さ (mm)</th><th>屋根葺形式</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※JIS G 3322 の屋根用 着色・有 ・</td><td>・5 類 (AZ150) ・</td><td>・0. 4 ・0. 5 ・</td><td>・心木なし瓦棒葺 ・立て平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・</td><td></td></tr></table> <p>下葺材料</p> <ul style="list-style-type: none">・アスファルトルーフィング 940・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ) <p>横葺きの場合のけらば納め</p> <ul style="list-style-type: none">・つかみ込み納め ・けらば包み納め <p>工法</p> <p>1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>雪止め</p> <ul style="list-style-type: none">・設置する (形状及び施工箇所 ・図示による ・)・設置しない						施工箇所	板及びコイルの 種類	塗膜の耐久性 の種類、めっ き付着量	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考		※JIS G 3322 の屋根用 着色・有 ・	・5 類 (AZ150) ・	・0. 4 ・0. 5 ・	・心木なし瓦棒葺 ・立て平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・																		
施工箇所	板及びコイルの 種類	塗膜の耐久性 の種類、めっ き付着量	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考																														
	※JIS G 3322 の屋根用 着色・有 ・	・5 類 (AZ150) ・	・0. 4 ・0. 5 ・	・心木なし瓦棒葺 ・立て平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・																															
	2 折板葺	(13. 2. 2) (13. 3. 2) 表 13. 2. 1)																																	
	<table><tr><th rowspan="2">施工 箇所</th><th rowspan="2">形式</th><th colspan="2">山高、山ピッチ による区分</th><th rowspan="2">耐力 による 区分</th><th rowspan="2">材料 による 区分</th><th rowspan="2">厚さ (mm)</th><th rowspan="2">軒先面 戸板</th><th rowspan="2">耐火 性能</th></tr><tr><th>山高</th><th>山ピッチ</th></tr><tr><td></td><td>・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・</td><td></td><td></td><td>() 種</td><td>※鋼板製 ・アルミウム 合金板製</td><td></td><td>・有り ・無し</td><td>・30 分 ・無し</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>材料</p> <p>鋼板の種類 (※JIS G 3322 の屋根用 (着色 ・有 ・))</p> <p>塗膜の耐久性の種類、めっき付着量 (・5 類 (AZ150) ・)</p> <p>断熱材張り</p> <ul style="list-style-type: none">・行う (断熱材の種類 : 厚さ (mm) : 防火性能 :)・行わない <p>工法</p> <p>1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>耐雪性能に対応した工法の適用</p> <ul style="list-style-type: none">・適用する・適用しない <p>折板のけらば納め</p> <p>※けらば包みによる方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ <p>雪止め</p> <ul style="list-style-type: none">・設置する (形状及び施工箇所 ・図示による ・)・設置しない						施工 箇所	形式	山高、山ピッチ による区分		耐力 による 区分	材料 による 区分	厚さ (mm)	軒先面 戸板	耐火 性能	山高	山ピッチ		・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・			() 種	※鋼板製 ・アルミウム 合金板製		・有り ・無し	・30 分 ・無し		・							
施工 箇所	形式	山高、山ピッチ による区分		耐力 による 区分	材料 による 区分	厚さ (mm)			軒先面 戸板	耐火 性能																									
		山高	山ピッチ																																
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・			() 種	※鋼板製 ・アルミウム 合金板製		・有り ・無し	・30 分 ・無し																											
	・																																		

章	項 目	特 記 事 項																								
	3 粘土瓦葺	<div>(13. 4. 2) (13. 4. 3)</div> <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th colspan="3">種類</th><th rowspan="2">産地</th><th rowspan="2">役物瓦の種類</th><th rowspan="2">雪止め瓦</th></tr><tr><th>製法による区分</th><th>形状による区分</th><th>寸法による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> <p>棧瓦の防災瓦の使用</p> <ul style="list-style-type: none">・適用する・適用しない <p>JIS A 5208 に基づく凍害試験等</p> <ul style="list-style-type: none">・行う・行わない <p>瓦棧木</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">※杉・ <p>寸法</p> <ul style="list-style-type: none">※幅 21×高さ 15 (mm) 以上・ <p>棟補強用心材</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">※杉・ <p>寸法</p> <ul style="list-style-type: none">※幅 40×高さ 30 (mm) 以上・ <p>瓦緊結用釘及びびねじ</p> <p>種類 () 径 () 長さ ()</p> <p>棟補強等に使用する金物等</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">・ステンレス製・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製 <p>形状、寸法及び留付け方法</p> <ul style="list-style-type: none">※図示による・ <p>工法</p> <p>1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等</p> <ul style="list-style-type: none">※図示による・ <p>瓦棧木の留付け工法</p> <ul style="list-style-type: none">※図示による・ <p>棟の工法</p> <ul style="list-style-type: none">・7 寸丸伏せ棟又は F 形用冠瓦伏せ棟・のし積み棟・ <p>面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合</p> <ul style="list-style-type: none">・モルタル・瓦葺き用しっくい	施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦	製法による区分	形状による区分	寸法による区分							・適用する ・適用しない							・適用する ・適用しない
施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦																				
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分																							
						・適用する ・適用しない																				
						・適用する ・適用しない																				

章	項 目	特 記 事 項																																														
	4 とい	<div>(13. 5. 2) (13. 5. 3) (表 13. 5. 4)</div> <div>といその他の材種<ul style="list-style-type: none">・ 配管用鋼管・ 硬質ポリ塩化ビニル管・ ルーフドレン・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類： ）・ </div> <div>とい受金物</div> <div>材種<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 13. 5. 2 による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）・ </div> <div>形状<ul style="list-style-type: none">※市販品（とい径 100 以下）・ 25×4. 5（mm）以上（とい径 100 を超えるもの）・ </div> <div>取付け間隔<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 13. 5. 2 による・ </div> <div>足金物</div> <div>材種<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 13. 5. 2 による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）・ </div> <div>形状<ul style="list-style-type: none">※市販品・ </div> <div>取付け間隔<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 13. 5. 2 による・ </div> <div>多雪地域<ul style="list-style-type: none">・ 適用する ・ 適用しない</div> <div>防露材のホルムアルデヒド放散量<ul style="list-style-type: none">※F☆☆☆☆ ・ </div> <div>鋼管製といの防露巻き<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 13. 5. 4 による・ </div> <div>ルーフトレンの種類及び呼び<table><tr><th colspan="2">種別</th><th colspan="3">呼び</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td rowspan="2">・ ろく屋根用 たて形Ⅰ型</td><td rowspan="2">※ねじ込み式</td><td>・ 80</td><td colspan="2">・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 125</td><td colspan="2">・ 150</td></tr><tr><td rowspan="2">・ ろく屋根用 横形Ⅰ型</td><td rowspan="2">※ねじ込み式</td><td>・ 80</td><td colspan="2">・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 125</td><td colspan="2">・ 150</td></tr><tr><td rowspan="2">・ バルコニー中継用</td><td>・ ねじ込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td></td></tr><tr><td>・ 差し込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 75</td><td>・ 100</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ バルコニー用</td><td>・ ねじ込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td></td></tr><tr><td>・ 差し込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 75</td><td>・ 100</td><td></td></tr></table></div>	種別		呼び			施工箇所	・ ろく屋根用 たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100			・ 125	・ 150		・ ろく屋根用 横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100			・ 125	・ 150		・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100		・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100		・ バルコニー用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100		・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100	
種別		呼び			施工箇所																																											
・ ろく屋根用 たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100																																													
		・ 125	・ 150																																													
・ ろく屋根用 横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100																																													
		・ 125	・ 150																																													
・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100																																												
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100																																												
・ バルコニー用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100																																												
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100																																												

章	項 目	特 記 事 項		
14 金属工事	1 アルミニウム及び アルミニウム合金の 表面処理	(14. 2. 1) (表 14. 2. 1)		
		種別	色合い等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)
		・ AB-1 種		
		・ AB-2 種	・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー	
		・ AC-1 種		
		・ AC-2 種	・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー	
		・ BA-1 種		
		・ BA-2 種	・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー	
		・ BB-1 種		
		・ BB-2 種	・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー	
		・ BC-1 種		
		・ BC-2 種	・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー	
		・ C 種		
		陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・ 三次電解着色		
	2 鉄鋼の亜鉛めっき	(14. 2. 2) (表 14. 2. 2)		
		表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)
		・ 溶融亜鉛めっき	・ A 種	
			・ B 種	
			・ C 種	
		・ 電気亜鉛めっき	・ D 種	
			・ E 種	
			・ F 種	
	3 軽量鉄骨天井下地	(14. 4. 2～14. 4. 4) (表 14. 4. 1)		
		野縁等の種類		
		屋外		
		※25 形 ・ 19 形		
		屋内		
		※19 形 ・ 25 形		
		屋外の形式及び寸法		
		野縁受け、つりボルト及びインサートの間隔	・ 図示による	・
		周辺部の端からの間隔	・ 図示による	・
		野縁の間隔	・ 図示による	・
		・ つりボルトの間隔が 900mm を超える場合 (補強方法 ※図示による ・)		
		・ 天井のふところが 3. 0m を超える場合 (補強方法 ※図示による ・)		
		・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (補強箇所 ・ 図示による ・) (補強方法 ※図示による ・)		
		耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による		
		屋外の軒天井、ピロティ天井の工法		
		1 章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法		

章	項 目	特 記 事 項																									
	4 軽量鉄骨壁下地	(14. 5. 3) (14. 5. 4) (表 14. 5. 1) スタッド、ランナの種類 ※標準仕様書 表 14. 5. 1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示による スタッドの高さが5. 0m を超える場合 ※図示による 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書 14. 5. 4 (5) による																									
	5 金属成形板張り	(14. 6. 2) (14. 6. 3) (表 14. 2. 1) <table><tr><th rowspan="2">種類</th><th rowspan="2">製法</th><th rowspan="2">形状</th><th rowspan="2">板幅 (mm)</th><th rowspan="2">板厚 (mm)</th><th colspan="2">表面処理</th></tr><tr><th>種別</th><th>色合い等</th></tr><tr><td rowspan="2">・アルミニウム</td><td>・押出し ・ロール</td><td>スパンドレル形</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・プレス ・</td><td>パネル形</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 取付け用下地 ※標準仕様書 14. 4 による ・図示による 伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ・図示による ・ ） ・設けない 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1. 15 ・1. 3）倍の風圧力に対応した工法	種類	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理		種別	色合い等	・アルミニウム	・押出し ・ロール	スパンドレル形					・プレス ・	パネル形							
種類	製法	形状						板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理																	
			種別	色合い等																							
・アルミニウム	・押出し ・ロール	スパンドレル形																									
	・プレス ・	パネル形																									
	6 アルミニウム製笠木	(14. 7. 2) (14. 7. 3) (表 14. 2. 1) (表 14. 7. 1) 種類 ・250 形 ・300 形 ・350 形 表面処理 種別（ ）種 色合い等 ・標準色（ ） ・特注色 笠木の固定金具の工法等 1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1. 15 ・1. 3）倍の風圧力に対応した工法																									

章	項 目	特 記 事 項
15 左官工事	1 モルタル塗り	<p>(15. 3. 2) (15. 3. 5)</p> <p>モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ()</p> <p>既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※図示による ・) ・ 設けない</p> <p>床の目地 ・ 設ける 目地割り ※2 m程度 (最大目地間隔 3m 程度) ・ 目地の種類 ※押し目地 ・ ・ 設けない</p> <p>屋外のタイル張り下地及び屋内の吹き抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>防水剤 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)</p>
	2 せっこうボード その他のボード下地	<p>(15. 2. 5)</p> <p>せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ 種類 (・ GB-R ・ GB-L ・) 厚さ (mm)</p> <p>木質系セメント板の種類及び厚さ 種類 (・) 厚さ (mm)</p>

章	項 目	特 記 事 項																										
3	仕上塗材仕上げ	(15. 6. 2)																										
		内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆																										
		仕上塗材の種類 ・薄付け仕上塗材																										
		<table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・外装薄塗材 Si</td><td>・</td><td rowspan="11">仕上げの形状及び工法 ・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する・適用しない</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材 S</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装薄塗材 C</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装薄塗材 L</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装薄塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装薄塗材 W</td><td>・</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・外装薄塗材 Si	・	仕上げの形状及び工法 ・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する・適用しない	・可とう形外装薄塗材 Si	・	・外装薄塗材 E	・	・可とう形外装薄塗材 E	・	・防水形外装薄塗材 E	・	・外装薄塗材 S	・	・内装薄塗材 C	・	・内装薄塗材 L	・	・内装薄塗材 Si	・	・内装薄塗材 E	・	・内装薄塗材 W	・
		種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																								
		・外装薄塗材 Si	・	仕上げの形状及び工法 ・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する・適用しない																								
		・可とう形外装薄塗材 Si	・																									
		・外装薄塗材 E	・																									
		・可とう形外装薄塗材 E	・																									
		・防水形外装薄塗材 E	・																									
・外装薄塗材 S	・																											
・内装薄塗材 C	・																											
・内装薄塗材 L	・																											
・内装薄塗材 Si	・																											
・内装薄塗材 E	・																											
・内装薄塗材 W	・																											
・厚付け仕上塗材																												
<table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・外装厚塗材 C</td><td>・</td><td rowspan="8">仕上げの形状及び工法 ・吹放し・凸部処理・平たん状 ・凹凸状・ひき起こし・かき落とし 吸放湿性 ・適用する・適用しない 上塗材 ・適用する・適用しない</td></tr><tr><td>・外装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装厚塗材 C</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装厚塗材 L</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装厚塗材 G</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・内装厚塗材 E</td><td>・</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・外装厚塗材 C	・	仕上げの形状及び工法 ・吹放し・凸部処理・平たん状 ・凹凸状・ひき起こし・かき落とし 吸放湿性 ・適用する・適用しない 上塗材 ・適用する・適用しない	・外装厚塗材 Si	・	・外装厚塗材 E	・	・内装厚塗材 C	・	・内装厚塗材 L	・	・内装厚塗材 G	・	・内装厚塗材 Si	・	・内装厚塗材 E	・								
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																										
・外装厚塗材 C	・	仕上げの形状及び工法 ・吹放し・凸部処理・平たん状 ・凹凸状・ひき起こし・かき落とし 吸放湿性 ・適用する・適用しない 上塗材 ・適用する・適用しない																										
・外装厚塗材 Si	・																											
・外装厚塗材 E	・																											
・内装厚塗材 C	・																											
・内装厚塗材 L	・																											
・内装厚塗材 G	・																											
・内装厚塗材 Si	・																											
・内装厚塗材 E	・																											
・複層仕上塗材																												
<table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・複層塗材 CE</td><td>・</td><td rowspan="8">仕上げの形状及び工法 ・ゆず肌状・凸部処理・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 上塗材の種類 溶媒 ※水系・溶剤系・弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 外観 ※つやあり・つやなし・メタリック</td></tr><tr><td>・可とう形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr><tr><td>・複層塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・複層塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・複層塗材 RE</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形複層塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形複層塗材 RE</td><td>・</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・複層塗材 CE	・	仕上げの形状及び工法 ・ゆず肌状・凸部処理・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 上塗材の種類 溶媒 ※水系・溶剤系・弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 外観 ※つやあり・つやなし・メタリック	・可とう形複層塗材 CE	・	・複層塗材 Si	・	・複層塗材 E	・	・複層塗材 RE	・	・防水形複層塗材 CE	・	・防水形複層塗材 E	・	・防水形複層塗材 RE	・								
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																										
・複層塗材 CE	・	仕上げの形状及び工法 ・ゆず肌状・凸部処理・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 上塗材の種類 溶媒 ※水系・溶剤系・弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 外観 ※つやあり・つやなし・メタリック																										
・可とう形複層塗材 CE	・																											
・複層塗材 Si	・																											
・複層塗材 E	・																											
・複層塗材 RE	・																											
・防水形複層塗材 CE	・																											
・防水形複層塗材 E	・																											
・防水形複層塗材 RE	・																											
・軽量骨材仕上塗材																												
<table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th></tr><tr><td>・吹付用軽量塗材</td><td>・</td></tr><tr><td>・こて塗用軽量塗材</td><td>・</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	・吹付用軽量塗材	・	・こて塗用軽量塗材	・																						
種類（呼び名）	防火材料																											
・吹付用軽量塗材	・																											
・こて塗用軽量塗材	・																											
4	マスチック塗料塗り	(15. 7. 2)																										
	種別	・A種・B種																										
5	ロックウール吹付け	(15. 12. 2) (15. 12. 3)																										
	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆																											
	接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆																											
	仕上げ吹付け厚さ (mm)	・図示による・25mm																										

章	項 目	特 記 事 項
	6 しっくい塗り	(15. 10. 2～15. 10. 4) しっくい ・既調合材料 色しっくい ・適用する ・適用しない ・現場調合材料 下地 ・せっこうボード ・せっこうラスボード ・モルタル塗り ・木ずり ・こまい ・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合 ・ 既調合しっくいの調合 ・せっこうボード下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 1 ・ ・モルタル塗り下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 2 ・ ・せっこうラスボード下地 ※製造所の仕様による ・ 現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚 ・木ずり下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 3 ・ ・せっこうプラスター下地、こまい下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 4 ・ 既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 ・なで切り仕上げ ・パターン仕上げ

章	項 目	特 記 事 項																									
16 建具工事	1 防火戸	(16. 1. 3) ・ 建具表による ・																									
	2 見本の製作等	(16. 1. 4) 建具見本の製作 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない 建具見本製作の目的等 ・ 特殊な建具の仮組 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない																									
	3 防犯建物部品	(16. 1. 6) ・ 適用する（ ・ 建具表による ・ ） ・ 適用しない																									
	4 アルミニウム製建具	(16. 2. 2～16. 2. 5)（表 14. 2. 1）（表 16. 2. 1）（表 16. 2. 2） 性能値等 耐風圧性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 気密性の等級 （ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 水密性の等級 （ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 外部に面する建具の種別 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>S-4</td><td rowspan="2">A-3</td><td rowspan="2">W-4</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>S-5</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>S-6</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ D 種</td><td>S-2</td><td rowspan="2">A-3</td><td rowspan="2">W-3</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ E 種</td><td>S-3</td><td>※図示による</td></tr></table> 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 枠の見込み寸法 ・ 建具表による 材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種別（標準仕様書 表 14. 2. 1） ・ BB-1 ・ BB-2（着色 ・ 標準色 ・ 特注色） 屋内の建具 種別（標準仕様書 表 14. 2. 1） ・ BC-1 ・ BC-2（着色 ・ 標準色 ・ 特注色） 結露水の処理方法 ・ 水貯め式 ・ 排水式 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による 木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する	種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所	・ A 種	S-4	A-3	W-4	※図示による	・ B 種	S-5	※図示による	・ C 種	S-6	A-4	W-5	※図示による	・ D 種	S-2	A-3	W-3	※図示による	・ E 種	S-3
種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所																							
・ A 種	S-4	A-3	W-4	※図示による																							
・ B 種	S-5			※図示による																							
・ C 種	S-6	A-4	W-5	※図示による																							
・ D 種	S-2	A-3	W-3	※図示による																							
・ E 種	S-3			※図示による																							

章	項 目	特 記 事 項																								
5	網戸等	(16. 2. 3) <table><tr><th>種類</th><th>材質</th><th>線径</th><th>網目</th></tr><tr><td>・ 防虫網</td><td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製</td><td>※0. 25mm 以上 ・</td><td>※16～18 メッシュ ・</td></tr><tr><td>・ 防鳥網</td><td>ステンレス（SUS304）線材</td><td>1. 5mm</td><td>網目寸法 15mm</td></tr></table>	種類	材質	線径	網目	・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・	・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1. 5mm	網目寸法 15mm												
		種類	材質	線径	網目																					
・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・																							
・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1. 5mm	網目寸法 15mm																							
6	樹脂製建具	(16. 2. 5) (16. 3. 2～16. 3. 5) (表 16. 3. 1～16. 3. 3) 性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>S-4</td><td rowspan="4">A-4</td><td>W-4</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>S-5</td><td>W-5</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>S-6</td><td rowspan="3">W-3</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ D 種</td><td>S-2</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ E 種</td><td>S-3</td><td>※図示による</td></tr></table> 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 ・ T-1 ・ T-2 	種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所	・ A 種	S-4	A-4	W-4	※図示による	・ B 種	S-5	W-5	※図示による	・ C 種	S-6	W-3	※図示による	・ D 種	S-2	※図示による	・ E 種	S-3	※図示による
種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所																						
・ A 種	S-4	A-4	W-4	※図示による																						
・ B 種	S-5		W-5	※図示による																						
・ C 種	S-6		W-3	※図示による																						
・ D 種	S-2			※図示による																						
・ E 種	S-3	※図示による																								

章	項 目	特 記 事 項
		<p>鋼板類の厚さ ※標準仕様書 表 16. 4. 2 による ・ (使用箇所 :) 標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※建具表による ・</p>
8	鋼製軽量建具	<p>(16. 2. 2) (16. 5. 2~16. 5. 4) (16. 5. 6) (表 16. 5. 1)</p> <p>性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号 : ・建具表による) ・適用しない 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 (・) (建具符号 : ・建具表による ・) 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 (・) (建具符号 : ・建具表による ・) 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料 鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 (※SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 ・) ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ (mm) ※標準仕様書 表 16. 5. 1 による ・ (使用箇所 :) 標準型鋼製軽量建具の形状及び寸法 ※建具表による ・</p>
9	ステンレス製建具	<p>(16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2~16. 6. 5)</p> <p>性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号 : ・建具表による) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級 (・) (建具符号 : ・建具表による ・) 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 (・) (建具符号 : ・建具表による ・) 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 (・) (建具符号 : ・建具表による ・) 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 ・ ステンレス製のくつずり仕上げ ※HL ・</p> <p>形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ ・</p> <p>工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>

章	項 目	特 記 事 項															
	10 木製建具	<p style="text-align: right;">(16. 7. 2～16. 7. 4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 ※A 種 ・ 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・</p> <p>・フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※標準仕様書 16. 7. 2 (2) (イ) (a) による ・</p> <p>表面材の合板の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th><th>規格等</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td><td> 表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹 1 等 ・) 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類) </td><td></td></tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td><td> 樹種名 () 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類) </td><td></td></tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td><td> 化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類) </td><td></td></tr> <tr> <td>・MDF</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>表面板の厚さ ※標準仕様書 表 16. 7. 6 による ・ 引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ・適用しない ・適用する</p> <p>・かまち戸 かまち樹種 () 鏡板樹種 () 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・</p> <p>・ふすま 張りの種別 (・ I 型 ・ II 型) 上張り (押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 縁仕上げ ・生地縁 (素地) ・塗り縁 ・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) 見込み寸法 ※19. 5mm ・建具表による ・</p> <p>・戸ふすま 表面板の仕上 ・建具表による ・ 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>枠、くつずりの材料 ・建具表による ・</p>	合板の種類	規格等	備考	・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹 1 等 ・) 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)		・天然木化粧合板	樹種名 () 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)		・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)		・MDF		
合板の種類	規格等	備考															
・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹 1 等 ・) 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)																
・天然木化粧合板	樹種名 () 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)																
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度 (・ 1 類 ・ 2 類)																
・MDF																	

章	項 目	特 記 事 項
	11 建具用金物	<p>(16. 8. 2) (16. 8. 3) (表 16. 8. 1～16. 8. 5)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※標準仕様書 表 16. 8. 1 により適用は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16. 8. 2 による ・ 建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16. 8. 3 による ・ 建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16. 8. 4 による ・ 建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書 表 16. 8. 5 による ・ 建具表による 握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・ 建具表による ・</p> <p>シリンダー箱錠及びシリンダー本締り錠 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による) クローザ類 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)</p>
	12 鍵	<p>(16. 8. 4)</p> <p>マスターキー ・ 製作する () ・ 製作しない 鍵の製作本数 ※各室 3 本 1 組 (室名札付き) ・ 鍵箱 ※有 ・ 無</p>
	13 自動ドア開閉装置	<p>(16. 9. 2) (16. 9. 3)</p> <p>戸の開閉方式 ・ 建具表による ・</p> <p>・ 引き戸用駆動装置 性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 1 (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・ 以下による 種類・開閉方式 () 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 ()</p> <p>・ 車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置 性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 2 (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・ 以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 ()</p> <p>・ 引き戸用検出装置 性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 3 (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・ 以下による 耐電圧 () 防錆 () 防滴 () 電源 ()</p> <p>引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目 標準仕様書 表 16. 9. 4 ・ 建具表による ・</p> <p>タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ</p> <p>車椅子使用者用便房スイッチの種類 ・ 大型押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ</p>

章	項 目	特 記 事 項
		凍結防止措置 ・ 行う ・ 行わない
	14 自閉式上吊り引戸装置	(16. 10. 3) (表 16. 10. 1) 性能値等 ※標準仕様書 表 16. 10. 1 ・ 以下による 手動開き力 () 手動閉じ力 () 閉じ速度の調整 () 制動区間 () 開閉繰返し () 耐衝撃性 ()
	15 重量シャッター	(16. 11. 2) (16. 11. 3) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () pa 開閉方式の種類 ※電動式 (手動併用) ・ 手動式 安全装置 電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 (設置箇所 ・ 建具表による ・) 電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による ・) 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 (設置箇所 ・ 建具表による ・) 管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12 又は F12 ・ ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 ・
	16 軽量シャッター	(16. 12. 2~16. 12. 4) 開閉方式の種類 ※手動式 ・ 電動式 (手動併用) 耐風圧強度 ・ () pa 安全装置 電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による ・) スラットの材質の種類

章	項 目	特 記 事 項																												
		<div>・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量（※Z06 又は F06 ）</div> <div>・ JIS G 3322（塗装溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量（※AZ90 ）</div> <div>スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形</div>																												
17	オーバーヘッドドア	<div>(16.13.2) (16.13.3)</div> <table><tr><th>セクション材料 による区分</th><th>風圧力に よる強さ の区分</th><th>開閉方式 による区分</th><th>収納形式 による区分</th><th>ガイドレール の材料</th></tr><tr><td>※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバークラスタ イブ</td><td>・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50</td><td>※バランス式 ・ フェン式 ・ 電動式</td><td>・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ バリフト形 ・ バーチカル形</td><td>※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板</td></tr></table> <div>電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置 （設置箇所 ・ 建具表による ）</div>	セクション材料 による区分	風圧力に よる強さ の区分	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレール の材料	※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバークラスタ イブ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・ フェン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ バリフト形 ・ バーチカル形	※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板																		
セクション材料 による区分	風圧力に よる強さ の区分	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレール の材料																										
※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバークラスタ イブ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・ フェン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ バリフト形 ・ バーチカル形	※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板																										
18	ガラス	<div>(9.7) (16.14.2～16.14.4) (図 16.14.1)</div> <div>適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせは建具表及び図面による。</div> <div>・ フロート板ガラス</div> <table><tr><td>フロート板ガラスの品種及び厚さの呼び による種類</td><td>※建具表による</td></tr></table> <div>・ 型板ガラス</div> <table><tr><td>型板ガラスの厚さによる種類</td><td>※建具表による</td></tr></table> <div>・ 網入板ガラス及び線入板ガラス</div> <table><tr><td>網又は線の形状、板の表面の状態及び厚 さの呼びによる種類</td><td>※建具表による</td></tr></table> <div>・ 合わせガラス</div> <table><tr><td>材料板ガラスの種類及び厚さの 組合せ並びに合わせガラスの合 計厚さ</td><td>※建具表による</td></tr><tr><td>形状による種類</td><td>・ 平面合わせガラス ・ 曲面合わせガラス</td></tr><tr><td>落球衝撃はく離特性及びショッ トバック衝撃特性による種類</td><td>・ I 類 ・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類</td></tr></table> <div>・ 強化ガラス</div> <table><tr><td>形状による種類、材料板ガラスの種類に よる名称</td><td>※建具表による</td></tr><tr><td>破片の状態及びショットバック衝撃特性 による種類</td><td>・ I 類 ・ III 類</td></tr></table> <div>・ 熱線吸収板ガラス</div> <table><tr><td>板ガラスの種類及び厚さによる種類</td><td>※建具表による</td></tr><tr><td>性能による種類</td><td>・ 1 類 ・ 2 類</td></tr></table> <div>・ 複層ガラス</div> <table><tr><td>材料板ガラスの種類及び 厚さの組合せ並びに 複層ガラスの厚さ</td><td>※建具表による</td></tr><tr><td>断熱性による区分</td><td>・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6</td></tr><tr><td>日射取得性及び日射遮 蔽性による区分</td><td>・ G ・ S</td></tr><tr><td>乾燥気体の種類</td><td>・ 空気 ・ アルゴン</td></tr></table>	フロート板ガラスの品種及び厚さの呼び による種類	※建具表による	型板ガラスの厚さによる種類	※建具表による	網又は線の形状、板の表面の状態及び厚 さの呼びによる種類	※建具表による	材料板ガラスの種類及び厚さの 組合せ並びに合わせガラスの合 計厚さ	※建具表による	形状による種類	・ 平面合わせガラス ・ 曲面合わせガラス	落球衝撃はく離特性及びショッ トバック衝撃特性による種類	・ I 類 ・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類	形状による種類、材料板ガラスの種類に よる名称	※建具表による	破片の状態及びショットバック衝撃特性 による種類	・ I 類 ・ III 類	板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による	性能による種類	・ 1 類 ・ 2 類	材料板ガラスの種類及び 厚さの組合せ並びに 複層ガラスの厚さ	※建具表による	断熱性による区分	・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6	日射取得性及び日射遮 蔽性による区分	・ G ・ S	乾燥気体の種類	・ 空気 ・ アルゴン
フロート板ガラスの品種及び厚さの呼び による種類	※建具表による																													
型板ガラスの厚さによる種類	※建具表による																													
網又は線の形状、板の表面の状態及び厚 さの呼びによる種類	※建具表による																													
材料板ガラスの種類及び厚さの 組合せ並びに合わせガラスの合 計厚さ	※建具表による																													
形状による種類	・ 平面合わせガラス ・ 曲面合わせガラス																													
落球衝撃はく離特性及びショッ トバック衝撃特性による種類	・ I 類 ・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類																													
形状による種類、材料板ガラスの種類に よる名称	※建具表による																													
破片の状態及びショットバック衝撃特性 による種類	・ I 類 ・ III 類																													
板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による																													
性能による種類	・ 1 類 ・ 2 類																													
材料板ガラスの種類及び 厚さの組合せ並びに 複層ガラスの厚さ	※建具表による																													
断熱性による区分	・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6																													
日射取得性及び日射遮 蔽性による区分	・ G ・ S																													
乾燥気体の種類	・ 空気 ・ アルゴン																													

章	項 目	特 記 事 項																											
		<div>・ 熱線反射ガラス</div> <table><tr><td>材料板ガラスの種類及び厚さによる種類</td><td>※建具表による</td><td>・</td></tr><tr><td>日射熱遮へい性による区分</td><td>・ 1 種</td><td>・ 2 種 ・ 3 種</td></tr><tr><td>耐久性による区分(日射熱遮へい性が 2 種の場合)</td><td>・ A 種</td><td>・ B 種</td></tr></table> <div>・ 倍強度ガラス</div> <table><tr><td>材料板ガラスの種類及び厚さによる種類</td><td>※建具表による</td><td>・</td></tr></table> <div>(16. 14. 2) (9. 7)</div> <div>ガラスの留め材及び溝の大きさ</div> <table><tr><th>建具の種類</th><th>ガラス留め材の種別</th><th>ガラス溝の大きさ (mm)</th></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>・ シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・</td><td>※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・</td></tr><tr><td>鋼製及び鋼製軽量</td><td>・ シーリング材 ・</td><td>※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>・ シーリング材 ・</td><td>※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・</td></tr><tr><td>樹脂製</td><td>・ グレイジングチャンネル ・</td><td>※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・</td></tr></table> <div>耐震性能</div> <div>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</div>	材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による	・	日射熱遮へい性による区分	・ 1 種	・ 2 種 ・ 3 種	耐久性による区分(日射熱遮へい性が 2 種の場合)	・ A 種	・ B 種	材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による	・	建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ (mm)	アルミニウム製	・ シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・	鋼製及び鋼製軽量	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・	ステンレス製	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・	樹脂製	・ グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による	・																											
日射熱遮へい性による区分	・ 1 種	・ 2 種 ・ 3 種																											
耐久性による区分(日射熱遮へい性が 2 種の場合)	・ A 種	・ B 種																											
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による	・																											
建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ (mm)																											
アルミニウム製	・ シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・																											
鋼製及び鋼製軽量	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・																											
ステンレス製	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・																											
樹脂製	・ グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・																											
19	ガラスブロック積み	<div>(16. 14. 5)</div> <table><tr><th>呼び寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>色調</th><th>目地幅 (mm)</th><th>伸縮調整 目地 (mm)</th><th>防火 性能</th></tr><tr><td>・ 160×160</td><td>・ 95 ・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 200×200</td><td>・ 95 ・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>壁用金属枠及び補強材</div> <div>※図示による</div> <div>力骨</div> <div>材質</div> <div>※ステンレス鋼 (SUS304)</div> <div>・</div> <div>寸法</div> <div>※径 5. 5mm</div> <div>・</div> <div>形状</div> <div>※はしご形状複筋及び単筋</div> <div>・</div> <div>化粧目地モルタルの色 (・ 白 ・ グレー)</div> <div>シーリング材の種類 (・ SR-1 ・ PS-1)</div> <div>金属製化粧カバー</div> <div>材質</div> <div>・ ステンレス製</div> <div>・ アルミニウム製</div> <div>寸法</div> <div>※図示による</div> <div>・</div> <div>形状</div> <div>※図示による</div> <div>・</div> <div>木下地の場合のアンカー等の取り付け間隔</div> <div>・ 図示による</div> <div>・</div> <div>目地部の横力骨の納まり</div> <div>※ガラスブロック製造所の仕様による</div> <div>・ 図示による</div> <div>工法</div> <div>1 章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</div>	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整 目地 (mm)	防火 性能	・ 160×160	・ 95 ・					・ 200×200	・ 95 ・													
呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整 目地 (mm)	防火 性能																								
・ 160×160	・ 95 ・																												
・ 200×200	・ 95 ・																												

章	項 目	特 記 事 項												
17 カーテンウォール工事	1 取付け形態、性能等	(17.1.3)												
		取付け形態による分類												
		・ 層間方式												
		・ 柱、梁方式												
		・ 方立方式												
		・ スパンドレル方式												
		・												
		性能												
		<table><tr><th>水密性</th><th>気密性</th><th>遮音性</th><th>断熱性</th><th>耐火性</th><th>耐温度差性(°C)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 30 分 ・ 1 時間</td><td>・ 80 ・ 70 ・ 60</td></tr></table>	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(°C)					・ 30 分 ・ 1 時間	・ 80 ・ 70 ・ 60
		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(°C)							
				・ 30 分 ・ 1 時間	・ 80 ・ 70 ・ 60									
耐風圧性能														
1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法														
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）														
<table><tr><th>支点間距離(h)</th><th>耐風圧性能</th></tr><tr><td>4m 以下</td><td>・ たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下であること ・</td></tr><tr><td>4m を超える</td><td>・</td></tr></table>	支点間距離(h)	耐風圧性能	4m 以下	・ たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下であること ・	4m を超える	・								
支点間距離(h)	耐風圧性能													
4m 以下	・ たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下であること ・													
4m を超える	・													
耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による														
性能の確認方法及び判定方法														
※性能を確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受ける														

章	項 目	特 記 事 項
	2 メタルカーテン ウォール	<p>(17.2.2) (17.2.3) (17.2.5) (17.2.6)</p> <p>金属系材料の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 <p>シーリング材の種類（目地等）</p> <p>種類及び寸法等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング <p>種類（・SR-2 ・SR-1 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造ガスケット <p>形状、寸法等 ※図示による ・</p> <p>断熱材</p> <p>種類及び範囲 ※図示による ・</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>製品の寸法許容差 ※標準仕様書 表 17.2.1 による ・</p> <p>見え掛かり部の仕上げ</p> <p>（アルミニウム材の場合）</p> <p>規格等 標準仕様書 16.2.3 による</p> <p>種別 ・ （標準仕様書 表 14.2.1）</p> <p>着色 ・ 標準色 ・ 特注色</p> <p>（鋼材及びステンレス鋼板の場合）</p> <p>・</p> <p>ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様 ・</p> <p>取付け</p> <p>躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差</p> <p>鉛直方向 ※±10mm ・</p> <p>水平方向 ※±25mm ・</p> <p>カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差</p> <p>目地の幅 ※±3mm ・</p> <p>目地の心の通り ※0～2mm ・</p> <p>目地両側の段差 ※0～2mm ・</p> <p>各階の基準墨から各部材までの距離 ※±3mm ・</p> <p>耐火処理</p> <p>適用部位、材料等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <p>ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法</p> <p>※4 辺支持 ・</p>

章	項 目	特 記 事 項
	3 PCカーテンウォール	<p>(17.3.2~17.3.6) (表 17.3.1) (表 17.3.2)</p> <p>材料</p> <p>コンクリート 種類 (・普通コンクリート ・軽量コンクリート1種 ・)</p> <p>品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm²</p> <p>スランプ ※12cm</p> <p>気乾単位容積質量</p> <p>・普通コンクリートの場合 2.1t/m³ を超え 2.5t/m³ 以下</p> <p>・軽量コンクリートの場合 1.8t/m³~2.1t/m³</p> <p>・</p> <p>単位水量の最大値 ※185kg/m³ ・</p> <p>鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・</p> <p>補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0</p> <p>網目寸法 ・</p> <p>シーリング材の種類 (目地等)</p> <p>種類及び寸法等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <p>・構造ガスケット</p> <p>形状、寸法等 ・図示による</p> <p>耐火処理</p> <p>適用部位、材料等 ※図示による ・</p> <p>断熱材 種類 ()</p> <p>種類及び範囲 ※図示による ・</p> <p>先付けの材料</p> <p>・表面仕上材 ・セラミックタイル</p> <p>・石材</p> <p>・建具枠</p> <p>・ゴンドラ用ガイドレール</p> <p>・図示による</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>製品の見え掛り部の寸法許容差</p> <p>辺長 ※±3mm ・</p> <p>対角線長の差 ※0~5mm ・</p> <p>版厚 ※±2mm ・</p> <p>開口部内法寸法 ※±2mm ・</p> <p>ねじれ、反り ※0~5mm ・</p> <p>曲がり ※0~3mm ・</p> <p>面の凸凹 ※0~3mm ・</p> <p>先付け金物の位置 ※0~5mm ・</p> <p>PC カーテンウォールの仕上げ ・</p> <p>構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)</p> <p>※図示による ・</p> <p>製作</p> <p>PC 版の配筋 ※図示による</p> <p>取付け</p> <p>躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差</p> <p>鉛直方向 ※±10mm ・</p> <p>水平方向 ※±25mm ・</p> <p>カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差</p> <p>目地の幅 ※±5mm ・</p> <p>目地心の通り ※0~3mm ・</p> <p>目地両側の段差 ※0~4mm ・</p> <p>各階の基準墨から各部材までの距離 ※±5mm ・</p> <p>ガラスの取付け方法</p> <p>・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う</p>

18

塗装工事

章	項 目	特 記 事 項																																		
18	1 材料	<div>(18. 1. 3)</div> <div>屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆</div> <div>防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 以下の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) ・</div>																																		
	2 素地ごしらえ	<div>(18. 2. 2～18. 2. 7)</div> <table><tr><th colspan="2">下地面等</th><th>種別</th></tr><tr><td rowspan="2">木部</td><td>不透明塗料塗りの場合</td><td>※A種 ・ B種</td></tr><tr><td>透明塗料塗りの場合</td><td>※B種 ・ A種</td></tr><tr><td colspan="2">鉄鋼面（DP以外）</td><td>※C種 ・ A種 ・ B種</td></tr><tr><td colspan="2">鉄鋼面（DPのみ）</td><td>※B種 ・ A種 ・ C種</td></tr><tr><td colspan="2">亜鉛めっき鋼面</td><td>・ A種 ・ B種</td></tr><tr><td colspan="2">モルタル面及びせっこうプラスター面</td><td>※B種 ・ A種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面</td><td>※B種 ・ A種</td></tr><tr><td colspan="2">押出成形セメント板面</td><td>※B種 ・ A種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面（DPのみ）</td><td>※A種 ・ B種</td></tr><tr><td rowspan="2">せっこうボード面及び その他ボード面</td><td>目地：継目処理工法</td><td>※A種 ・ B種</td></tr><tr><td>目地：継目処理工法以外</td><td>※B種 ・ A種</td></tr></table>	下地面等		種別	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種	透明塗料塗りの場合	※B種 ・ A種	鉄鋼面（DP以外）		※C種 ・ A種 ・ B種	鉄鋼面（DPのみ）		※B種 ・ A種 ・ C種	亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種	モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種 ・ A種	コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種 ・ A種	押出成形セメント板面		※B種 ・ A種	コンクリート面（DPのみ）		※A種 ・ B種	せっこうボード面及び その他ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種
	下地面等		種別																																	
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種																																		
	透明塗料塗りの場合	※B種 ・ A種																																		
鉄鋼面（DP以外）		※C種 ・ A種 ・ B種																																		
鉄鋼面（DPのみ）		※B種 ・ A種 ・ C種																																		
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種																																		
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種 ・ A種																																		
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種 ・ A種																																		
押出成形セメント板面		※B種 ・ A種																																		
コンクリート面（DPのみ）		※A種 ・ B種																																		
せっこうボード面及び その他ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種																																		
	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種																																		
3 錆止め塗料塗り	<div>(18. 3. 2) (18. 3. 3)</div> <table><tr><th>下地面</th><th>塗料の種別</th><th>錆止め塗料の種別</th><th>錆止め塗料塗りの工程</th></tr><tr><td rowspan="3">鉄鋼面</td><td>SOP</td><td>A種</td><td>見え掛り：A種 見え隠れ：B種</td></tr><tr><td>DP</td><td>C種及びD種</td><td>表 18. 3. 4</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>・ A種 ※B種</td><td>見え掛り：A種 見え隠れ：B種</td></tr><tr><td rowspan="3">亜鉛めっき鋼面</td><td>SOP</td><td>※A種 ・ B種</td><td>鋼製建具等：A種 上記以外：B種</td></tr><tr><td>DP</td><td>B種</td><td>表 18. 3. 6</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>C種</td><td>鋼製建具等：A種 上記以外：B種</td></tr></table>	下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程	鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種	DP	C種及びD種	表 18. 3. 4	EP-G	・ A種 ※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種	亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種 ・ B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種	DP	B種	表 18. 3. 6	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種											
下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程																																	
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種																																	
	DP	C種及びD種	表 18. 3. 4																																	
	EP-G	・ A種 ※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種																																	
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種 ・ B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種																																	
	DP	B種	表 18. 3. 6																																	
	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種																																	

章	項 目	特 記 事 項			
	4 塗装	(18. 4. 1～18. 12. 2)			
		塗装	種別	塗料の種類	高日射反射率塗料
		・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外 木部屋内 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※A 種 ・B 種 ・A 種 ※B 種 ・A 種 ※B 種 -	- - ・適用する ・適用する
		・クリヤラッカー塗り (CL)	・A 種 ※B 種	-	-
		・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)	・A 種 ※B 種	-	-
		・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面 コンクリート面及び押出成形セメント板面	- - ・A 種 ・B 種 ・C 種	上塗り塗料の等級()級 上塗り塗料の等級()級 -
		・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等 屋内の木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面	・A 種 ※B 種 ・A 種 ※B 種	- -
		・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)	・A 種 ※B 種	-	-
		・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	・A 種 ※B 種	-	-
		・ステイン塗り	・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り (OS)	-	-
		・木材保護塗料塗り (WP)	・A 種 ※B 種	-	-
		<p>高日射反射率塗料を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。</p> <p>クリアラッカー塗り A 種の工程 2 の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用しない ・適用する（着色剤： ・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤） <p>ウレタン樹脂ワニス塗りの工程 1 の着色の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用する ・適用しない <p>オイルステイン塗りの工程等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造所の仕様による 			

章	項 目	特 記 事 項																															
19 内装工事	1 接着剤	(19. 2. 2) ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・図示による																															
	2 下地の工法	(19. 2. 3) 標準仕様書 19. 2. 3 (1) ～ (3) 以外の下地の工法 ・図示による																															
	3 ビニル床シート	(19. 2. 2) (19. 2. 3) <table><tr><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>厚さ (mm)</th><th colspan="2">備考</th></tr><tr><td>※FS (複層ビニル床シート) ・ ・</td><td>・無地 ・マーブル柄 ・柄物</td><td>※2. 0 ・</td><td colspan="2"></td></tr></table> 接合部の処理 ※熱溶接工法					種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考		※FS (複層ビニル床シート) ・ ・	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2. 0 ・																			
	種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考																													
	※FS (複層ビニル床シート) ・ ・	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2. 0 ・																														
4 ビニル床タイル	(19. 2. 2) <table><tr><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (複層ビニル床タイル) ・FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)</td><td>・無地 ・柄物</td><td>・300×300 ・450×450 ・500×500</td><td>※2. 0 ・2. 5 ・3. 0 ・</td><td></td></tr></table>					種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考	※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (複層ビニル床タイル) ・FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2. 0 ・2. 5 ・3. 0 ・																			
種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考																													
※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (複層ビニル床タイル) ・FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2. 0 ・2. 5 ・3. 0 ・																														
5 特殊機能床材	(19. 2. 2) <table><tr><th>シート種別</th><th>厚さ、寸法、形状</th><th>性能</th><th>種類</th></tr><tr><td>・帯電防止床シート</td><td>(mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・帯電防止床タイル</td><td>× (mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・視覚障害者用床タイル</td><td>(mm)</td><td>視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による</td><td></td></tr><tr><td>・耐動荷重性床シート</td><td>(mm)</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・防滑性床シート</td><td>(mm)</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・防滑性床タイル</td><td>× (mm)</td><td>—</td><td></td></tr></table>					シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類	・帯電防止床シート	(mm)			・帯電防止床タイル	× (mm)			・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による		・耐動荷重性床シート	(mm)	—		・防滑性床シート	(mm)	—		・防滑性床タイル	× (mm)	—	
シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類																														
・帯電防止床シート	(mm)																																
・帯電防止床タイル	× (mm)																																
・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による																															
・耐動荷重性床シート	(mm)	—																															
・防滑性床シート	(mm)	—																															
・防滑性床タイル	× (mm)	—																															
6 ビニル幅木	(19. 2. 2) 材質の種類 高さ (mm) ※60 厚さ (mm) ※1. 5 以上 ・軟質 ・硬質 ・75 ・100 ・																																
7 ゴム床タイル	(19. 2. 2) 種類 色柄 () 厚さ (mm) ・3. 0 ・4. 5 ・6. 0 ・9. 0 寸法 (mm) (×)																																

章	項 目	特 記 事 項																																										
	8 カーペット敷き	<div>(19.3.2) (19.3.3) (表 19.3.1) (表 19.3.2)</div> <div>・織じゅうたん</div> <table><tr><th>織り方</th><th>パイル形状</th></tr><tr><td>・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット</td><td>・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループ併用</td></tr></table> <div>色柄 ※模様のない無地 ・</div> <div>パイル系の種類等</div> <div>※無地の織じゅうたんの種類（ ・A種 ・B種 ・C種 ）</div> <div>・</div> <div>帯電性 ・適用する ・適用しない</div> <div>織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・つづり縫い</div> <div>下敷き材 ※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm</div> <div>・</div> <div>・タフテッドカーペット</div> <table><tr><th>パイル形状</th><th>パイル長さ (mm)</th><th>工法</th><th>帯電性</th><th>備考</th></tr><tr><td>・カットパイル</td><td>・5～7 ・</td><td rowspan="3">・全面接着工法 ・グリッパ 工法</td><td rowspan="3">・適用する ・適用しない</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・ループパイル</td><td>・4～6 ・</td></tr><tr><td>・カット/ループ併用</td><td>・</td></tr></table> <div>下敷き材（グリッパ工法の場合）</div> <div>※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・</div> <div>タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量</div> <div>※F☆☆☆☆ ・</div> <div>・タイルカーペット</div> <table><tr><th>パイル形状</th><th>種類</th><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th><th>総厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※ループパイル</td><td>※第一種 ・第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6.5 ・</td><td></td></tr><tr><td>・カットパイル</td><td>・第一種 ・第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6.5 ・</td><td></td></tr><tr><td>・カット/ ループ併用</td><td>・第一種 ・第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6.5 ・</td><td></td></tr></table> <div>タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量</div> <div>※F☆☆☆☆ ・</div> <div>タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・</div> <div>階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・</div> <div>見切り、押え金物 材質（ ）</div> <div>種類（ ）</div> <div>形状等 ※図示による ・</div>	織り方	パイル形状	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループ併用	パイル形状	パイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考	・カットパイル	・5～7 ・	・全面接着工法 ・グリッパ 工法	・適用する ・適用しない		・ループパイル	・4～6 ・	・カット/ループ併用	・	パイル形状	種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考	※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・		・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・		・カット/ ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
織り方	パイル形状																																											
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループ併用																																											
パイル形状	パイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考																																								
・カットパイル	・5～7 ・	・全面接着工法 ・グリッパ 工法	・適用する ・適用しない																																									
・ループパイル	・4～6 ・																																											
・カット/ループ併用	・																																											
パイル形状	種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考																																							
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・																																								
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・																																								
・カット/ ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・																																								

章	項 目	特 記 事 項			
9	合成樹脂塗床	(19.4.2) (19.4.3) (表 19.4.4) (表 19.4.5)			
		材料	施工箇所	工法	仕上げの種類
		・厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
		・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)		・薄膜流しのベ工法 ・厚膜流しのベ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
		・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ
		・アクリル樹脂塗床材 (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	工程 塗布量 (kg/m ²) ※0.25kg/m ² 以上 表面仕上げ ※平滑 ・ 防滑 溶剤 ※水性 ・ 溶剤系 ・ 無溶剤系 仕上げ色 ※標準色 ・
		塗床料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆			
10	フローリング張り	(19.5.2～19.5.5) (表 19.5.1～表 19.5.6)			
		フローリングのホルムアルデヒド放散量等 ※標準仕様書 19.5.2(2)による			
		各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆			
		・単層フローリング (フローリングボード 1 等) 工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法 樹種 ※なら 厚さ、大きさ ※標準仕様書 表 19.5.1、表 19.5.3、表 19.5.5 による 仕上塗装 ※塗装品 ・無塗装品 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない ・単層フローリング (フローリングブロック 1 等) 工法 ※接着工法 樹種 ※なら 厚さ、大きさ 仕上塗装 ※塗装品 ・無塗装品 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない ・複合フローリング (天然木化粧複合フローリング) 工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法 樹種 ※なら 種別 (表 19.5.2、表 19.5.4、表 19.5.6) ・A 種 ・B 種 ・C 種 仕上塗装 ※塗装品 ・無塗装品 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない			
		接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート			

章	項 目	特 記 事 項																								
		現場塗装仕上げ ・ 行う（施工箇所 ） ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り																								
11	畳敷き	(19. 6. 2) (表 19. 6. 1) 種別 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種（畳床： ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-Ⅲ ・ KT-K ・ KT-N） 下地の種類 ・ 標準仕様書 表 12. 6. 1 による床組 ・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン） ・ 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、 発生が極めて少ない材料を使用したものとする。 衝撃緩和型畳（畳表： ・ C1 ・ C2）																								
12	せっこうボード その他のボード及び 合板張り	(19. 7. 2) (19. 7. 3) (表 19. 7. 1) MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書 19. 7. 2 (2) (イ) の (a) ～ (d) のいずれか ・ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 木毛セメント板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 硬質 (HW)</td><td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td></tr><tr><td>・ 中質 (MW)</td><td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td></tr><tr><td>・ 普通 (NW)</td><td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td></tr></table> 木片セメント板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 硬質 (HF)</td><td>・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・</td></tr><tr><td>・ 普通 (NF)</td><td>・ 30 ・</td></tr></table> 繊維強化セメント板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ けい酸カルシウム板</td><td>普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8</td></tr><tr><td>・ 化粧けい酸カルシウム板</td><td>普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8 表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け ・</td></tr></table> 火山性ガラス質複層板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 火山性ガラス質複層板</td><td>・ 図示による</td></tr></table>	種類	厚さ (mm)、規格等	・ 硬質 (HW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	・ 中質 (MW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	・ 普通 (NW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	種類	厚さ (mm)、規格等	・ 硬質 (HF)	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・	・ 普通 (NF)	・ 30 ・	種類	厚さ (mm)、規格等	・ けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8	・ 化粧けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8 表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け ・	種類	厚さ (mm)、規格等	・ 火山性ガラス質複層板	・ 図示による
種類	厚さ (mm)、規格等																									
・ 硬質 (HW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																									
・ 中質 (MW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																									
・ 普通 (NW)	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																									
種類	厚さ (mm)、規格等																									
・ 硬質 (HF)	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・																									
・ 普通 (NF)	・ 30 ・																									
種類	厚さ (mm)、規格等																									
・ けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8																									
・ 化粧けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK タイプ 2（無石綿） ・ 6 ・ 8 表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け ・																									
種類	厚さ (mm)、規格等																									
・ 火山性ガラス質複層板	・ 図示による																									

章	項 目	特 記 事 項											
		繊維板											
		種類	厚さ(mm)、規格等	ハードボード ・スタンダードボード (無処理)	・素地ハードボード(・未研磨板(RN) ・研磨板(RS)) ・内装用化粧ハードボード(DI) 厚さ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	ハードボード ・テンパードボード(処理)	・素地ハードボード(・未研磨板(RN) ・研磨板(RS)) ・外装用化粧ハードボード(DE) 厚さ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・ミディアムデンシティ ファイバーボード(MDF)	・3 ・7 ・9 ・12	・インシュレーションボード	A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ ・) ・9 ・12 ・15 ・18		
		種類	厚さ(mm)、規格等										
		ハードボード ・スタンダードボード (無処理)	・素地ハードボード(・未研磨板(RN) ・研磨板(RS)) ・内装用化粧ハードボード(DI) 厚さ・2.5 ・3.5 ・5 ・7										
		ハードボード ・テンパードボード(処理)	・素地ハードボード(・未研磨板(RN) ・研磨板(RS)) ・外装用化粧ハードボード(DE) 厚さ・2.5 ・3.5 ・5 ・7										
		・ミディアムデンシティ ファイバーボード(MDF)	・3 ・7 ・9 ・12										
		・インシュレーションボード	A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ ・) ・9 ・12 ・15 ・18										
		パーティクルボード											
		種類	厚さ(mm)、規格等	・単板張りパーティクルボード	・無研磨板(VN) ・研磨板(VS) ・10 ・12 ・15 ・18 ・	・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ(DV) ・プラスチックオーバーレイ(DO) ・塗装(DC) ・10(難燃) ・12(難燃) ・						
		種類	厚さ(mm)、規格等										
・単板張りパーティクルボード	・無研磨板(VN) ・研磨板(VS) ・10 ・12 ・15 ・18 ・												
・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ(DV) ・プラスチックオーバーレイ(DO) ・塗装(DC) ・10(難燃) ・12(難燃) ・												
吸音材料													
種類	厚さ(mm)、規格等	・ロックウール化粧吸音板(DR)	・フラットタイプ (・9(不燃) ・12(不燃) ・) ・凹凸タイプ (・12(不燃) ・15(不燃) ・)	・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・	・グラスウール吸音ボード 32K	・25(ガラスクロス包) ・						
種類	厚さ(mm)、規格等												
・ロックウール化粧吸音板(DR)	・フラットタイプ (・9(不燃) ・12(不燃) ・) ・凹凸タイプ (・12(不燃) ・15(不燃) ・)												
・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・												
・グラスウール吸音ボード 32K	・25(ガラスクロス包) ・												
せっこうボード製品													
種類	厚さ(mm)、規格等	・せっこうボード(GB-R)	※12.5(不燃) ・15(不燃) ・	・不燃積層せっこうボード (GB-NC)	9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様)	・シージングせっこうボード (GB-S)	12.5(※不燃 ・準不燃)	・強化せっこうボード(GB-F)	・12.5(不燃) ・15(不燃)	・せっこうラスボード(GB-L)	9.5	・化粧せっこうボード(GB-D)	・木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様(・柾目 ・板目)専用下地材有り ・トラバーチン模様 9.5(準不燃)
種類	厚さ(mm)、規格等												
・せっこうボード(GB-R)	※12.5(不燃) ・15(不燃) ・												
・不燃積層せっこうボード (GB-NC)	9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様)												
・シージングせっこうボード (GB-S)	12.5(※不燃 ・準不燃)												
・強化せっこうボード(GB-F)	・12.5(不燃) ・15(不燃)												
・せっこうラスボード(GB-L)	9.5												
・化粧せっこうボード(GB-D)	・木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様(・柾目 ・板目)専用下地材有り ・トラバーチン模様 9.5(準不燃)												

章	項 目	特 記 事 項	
		種類	厚さ(mm)、規格等
		・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな合板程度 ・ ） 板面の品質 ・ 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない
		・天然木化粧合板	化粧板の樹種名 ・ 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない
		・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能 ・（タイプ） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない
		化粧板	
		種類	厚さ(mm)、規格等
		・メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による（※1.2 ・ ）
		・ポリエステル樹脂化粧板	
		天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合 ※図示による ・ 合板類の張付け ・A種 ・B種 ・ せっこうボードの目地工法等 目地工法の種類 ※仕上表による ・	
		・突付け工法のエッジの種類	・ベベルエッジ ・スクエアエッジ
		・目透かし工法のエッジの種類	・ベベルエッジ ・スクエアエッジ
13	壁紙張り	(19. 8. 2) (19. 8. 3) ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・	
		施工箇所	壁紙の種類 ・紙 ・繊維 ・塩化ビニル ・プラスチック ・無機質 ・その他
			防火性能 ・不燃 ・準不燃 ・難燃
			備考
		・紙 ・繊維	・不燃
		・塩化ビニル ・プラスチック	・準不燃
		・無機質 ・その他	・難燃
		・紙 ・繊維	・不燃
		・塩化ビニル ・プラスチック	・準不燃
		・無機質 ・その他	・難燃
		・紙 ・繊維	・不燃
		・塩化ビニル ・プラスチック	・準不燃
		・無機質 ・その他	・難燃
		モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種類別 ※B種 ・A種 コンクリート面の素地ごしらえの種類別 ※B種 ・A種 せっこうボード面の素地ごしらえの種類別 ※B種 ・A種	
		(19. 9. 2～19. 9. 4)	
		フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤のホルムアルデヒド放散量	
		※F☆☆☆☆ ・	
		開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量	
14	断熱材		

章	項 目	特 記 事 項															
		<p>※F☆☆☆☆</p> <p>※断熱材打込み工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (・)</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・ 硬質ウレタンフォーム断熱材</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・ フェノールフォーム断熱材</td><td>・</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> <p>・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・ A 種 1 ・ A 種 1H 吹付け厚さ (mm) ・ 施工箇所 ・ 図示による ・ (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)</p>	種類	厚さ (mm)	施工箇所	・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (・)	・	・	・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)	・	・	・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	・ フェノールフォーム断熱材	・	・
種類	厚さ (mm)	施工箇所															
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (・)	・	・															
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)	・	・															
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・															
・ フェノールフォーム断熱材	・	・															

章	項 目	特 記 事 項																	
20 ユニット及びその他の工事	1 フリーアクセスフロア	(20. 2. 2)																	
	<table><tr><th>施工箇所</th><th>構法</th><th>寸法(mm)</th><th>高さ(mm)</th></tr><tr><td>・ 図示による ・</td><td>・ 置敷式 ・ 支柱調整式</td><td>・ 500×500 ・</td><td></td></tr></table> <table><tr><th>耐震性能</th><th>所定荷重(N)</th><th>表面仕上材</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 1. 0G ・ 0. 6G</td><td>・ 3000 ・ 5000</td><td>・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・</td><td></td></tr></table> <p>寸法精度 ※標準仕様書 20. 2. 2(2) (オ) (a)～(c)による</p> <p>・ 以下による</p> <p> パネルの長さの寸法精度 </p>				施工箇所	構法	寸法(mm)	高さ(mm)	・ 図示による ・	・ 置敷式 ・ 支柱調整式	・ 500×500 ・		耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考	・ 1. 0G ・ 0. 6G	・ 3000 ・ 5000	・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・
施工箇所	構法	寸法(mm)	高さ(mm)																
・ 図示による ・	・ 置敷式 ・ 支柱調整式	・ 500×500 ・																	
耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考																
・ 1. 0G ・ 0. 6G	・ 3000 ・ 5000	・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・																	

章	項 目	特 記 事 項						
3	移動間仕切	(20. 2. 4)						
		走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材		遮音性 (dB/500Hz)
		・ 平行方向移動式 ・ 二方向移動式	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ プッシュ式 ・ ハンドル式 ・		・ 鋼板 ・	・ 焼付塗装 ・ 壁紙張り ・	・ 36 未満 ・ 36 以上
		パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書 19 章による						
		ハンガーレールの取付け下地の補強 ※取付け全重量の 5 倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・ 図示による						
		パネルをランナーに取り付ける部品 ※ランナーに加わる重要の 5 倍以上の荷重に耐えられるもの ・						
		ハンガーレール及びランナー ※パネル重量の 5 倍の荷重を、パネル 1 枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。 ・						
		(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)						
4	トイレブース	(20. 2. 5)						
		表面材の材料		脚部種類	ドアエッジ			
		・ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板		※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材		・ 標準 ・ R タイプ	
(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)								
5	手すり	(20. 2. 6)						
		材料の種類及び仕上げ ・ SUS304 表面処理 ※HL 程度 ・ 鋼板 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書 表 14. 2. 2 による種別 (種)) ・ アルミニウム 表面処理 (※標準仕様書 表 14. 2. 1 による種別 (種)) 色合い等 ・ 標準色 () ・ 特注色 ()						
		手すりの握り部分						
		材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考		
		・ 集成材 (材種：) ・	・ クリアラッカー ・	・ 30 程度 ・ 35 程度 ・ 45 程度				
・ ビニル製ハンドレール	・	・ 30 程度 ・ 35 程度 ・ 45 程度						

章	項 目	特 記 事 項						
12	ブラインド	(20. 2. 14)						
		形式	操作 方法	操作方法の 種類	スラットの 種類	スラット幅 (mm)	ボックス・レール の材種	幅・高さ 取付箇所
		・横形	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
			・電動	—				
		・縦形	・手動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	※アルミニウム合金製 ・	・図示による ・
	・電動		—					
	縦型ブラインドのスラットの材質 ・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ ・クロススラット 消防法で定める防災性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。							
	ロールスクリーン	(20. 2. 15)						
		操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ 取付箇所	品質等		
		・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成 ・天然繊維製	※製造所の仕様	・図示による ・	・		
スクリーンの仕様 消防法で定める防災性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。								

章	項 目	特 記 事 項						
14	カーテン	(20. 2. 16)						
		形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		・図示による ・	
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		・図示による ・	
生地の仕様 消防法で定める防災性能の表示があるもの 暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm 以上 ・ ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和 4 年 2 月 25 日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表 1 中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。								
15	カーテンレール	(20. 2. 16)						
		材料による区分	※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ステンレス製					
		強さによる区分	※10-90 ・					
		仕上げ	※アルマイト ・					
16	ブラインドボックス及びカーテンボックス	形状	※角形 ・					
		溝幅×深さ (mm)	・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示による					
		材種	・ 集成材（仕上げ： ） ・ アルミニウム製 押出し型材（市販品） 標準仕様書 表 14. 2. 1 による種別 ・ BC-1 ・ BC-2 ・ 色合い ・ 標準色（ ） ・ 特注色（ ） ・ 鋼製（仕上げ： ）					
17	天井点検口							
		材種	寸法	形式		外枠	内枠	
		※アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形	・ 屋内外用	・ 額縁タイプ	・ 額縁タイプ	
				・ 気密形		・ 屋内用	・ 目地タイプ	・ 目地タイプ
(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)								
18	床点検口							
		材種	寸法	形式		備考		
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き		
		密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)						

章	項 目	特 記 事 項																																
	19 耐震スリット	<table><tr><th>方向</th><th>幅(mm)</th><th>タイプ</th><th>耐火性能</th><th>防水性能</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 垂直</td><td>・ 25 ・</td><td rowspan="2">・ 完全（全貫通型） ・</td><td rowspan="2">・ 耐火型 ・ 非耐火型</td><td rowspan="2">・ 有り ・ 無し</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 水平</td><td>・ 25 ・</td></tr></table>						方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考	・ 垂直	・ 25 ・	・ 完全（全貫通型） ・	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し		・ 水平	・ 25 ・													
	方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考																												
	・ 垂直	・ 25 ・	・ 完全（全貫通型） ・	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し																													
	・ 水平	・ 25 ・																																
	目地																																	
	目地		内壁		外壁																													
	目地材		・ シーリング 材（見え掛かり部のみ） ・		・ シーリング 材（見え掛かり部のみ） ・ シーリング 材（内外とも）																													
	目地寸法(mm)		・ スリット幅×深さ 10 ・		・ スリット幅×深さ 10 ・																													
	目地材の材質は標準仕様書 表 9. 7. 1 による																																	
	20 止水板	<table><tr><td>形 式</td><td>・ 差込式</td><td>・ 据置式</td><td>・ 壁張り式</td></tr><tr><td>施工箇所</td><td>・ 図示による</td><td>・</td><td></td></tr></table>						形 式	・ 差込式	・ 据置式	・ 壁張り式	施工箇所	・ 図示による	・																				
形 式	・ 差込式	・ 据置式	・ 壁張り式																															
施工箇所	・ 図示による	・																																
21 エキспанション ジョイント金物	建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による																																	
22 くつふきマット	<table><tr><th>材種</th><th>受け枠</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼（SUS304）製 ・</td><td>・ ステンレス鋼（SUS304） ・ 硬質アルミニウム合金 ・</td><td></td></tr></table>						材種	受け枠	備考	・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ ステンレス鋼（SUS304） ・ 硬質アルミニウム合金 ・																							
材種	受け枠	備考																																
・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ ステンレス鋼（SUS304） ・ 硬質アルミニウム合金 ・																																	
23 流し台ユニット	<table><tr><th rowspan="2">材種</th><th colspan="3">寸法(mm)</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>W</th><th>D</th><th>H</th></tr><tr><td>・ 流し台</td><td>・ 1200 ・ 1500 ・ 1800</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 800 ・ 850</td><td>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ コンロ台</td><td>・ 600</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 620 ・ 670</td><td>市販品 バックガード有り 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ つり戸棚</td><td>・ 1200 ・ 900</td><td>・ 450</td><td>・ 500 ・ 700</td><td>市販品</td></tr><tr><td>・ 水切り</td><td>・ 1200 ・ 900 ・ 600</td><td>—</td><td>—</td><td>市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・</td></tr></table> <p>品質・性能 外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の 4. 1 による。 構成材は、JIS A 4420 の 8 により試験を行ったとき、表 1 の規定による。</p> <p>形状 ※図示による ・</p>						材種	寸法(mm)			備考	W	D	H	・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製	・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製	・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品	・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・
材種	寸法(mm)			備考																														
	W	D	H																															
・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製																														
・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製																														
・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品																														
・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・																														

章	項 目	特 記 事 項																			
	24 旗竿	<table><tr><td>材種</td><td>形式</td><td>高さ (mm)</td><td>操作方法</td><td>固定方法</td><td>備考</td></tr><tr><td>・アルミニウム合金製 ・</td><td>・テーパー式 ・同一断面式</td><td></td><td>・ハンドル式 ・ロープ式</td><td>・埋込式 ・ベース式 ・バンド式</td><td></td></tr></table>						材種	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式			
	材種	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考															
	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式																
25 旗竿受金物	材種 ・ ステンレス製 (SUS304) ・																				
26	車止めさく	<table><tr><td colspan="2">形式</td><td>材種</td><td>柱径、肉厚 (mm)</td><td>高さ (mm)</td></tr><tr><td>・ 上下式鎖内蔵式</td><td>・ 標準品 ・ スプリング式</td><td>・ ステンレス製 ・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>※パ ーキングブ ロック</td><td></td><td>※コンクリート製</td><td></td><td></td></tr></table>					形式		材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)	・ 上下式鎖内蔵式	・ 標準品 ・ スプリング式	・ ステンレス製 ・	・	・	※パ ーキングブ ロック		※コンクリート製		
		形式		材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)															
		・ 上下式鎖内蔵式	・ 標準品 ・ スプリング式	・ ステンレス製 ・	・	・															
※パ ーキングブ ロック		※コンクリート製																			
27	フェンス	フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ※樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ・ アルミフェンス ・ 高さ ※図示による ・																			
		(20. 3. 3) (20. 3. 4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比 55%以下、単位セメント量の最小値 300kg/m³ を満足する調合強度 ・ 図示による 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・ 図示による 取付方法 ※図示による ・																			
29	間知石及びコンクリート間知ブロック積み	(20. 4. 2) (20. 4. 3) <table><tr><td colspan="2">材種</td><td>種類</td><td>質量区分</td><td>備考</td></tr><tr><td>・ 間知石</td><td>・ 花こう岩 ・ 凝灰岩</td><td>—</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・ コンクリート間知ブロック</td><td>—</td><td></td><td>・ A ・ B</td><td></td></tr></table> 積み方 ※谷積み ・ 布積み 目塗り ・ 図示による ・ 伸縮調整目地 材種 ・ 図示による ・ 厚さ ・ 図示による ・					材種		種類	質量区分	備考	・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—		・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B	
		材種		種類	質量区分	備考															
		・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—																
・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B																		
30	鋼製書架及び物品棚	<table><tr><td>種類</td><td>規格等</td><td colspan="3">JIS による種類</td></tr><tr><td>・ 鋼製書架</td><td rowspan="2">JIS S 1039 の規格による</td><td>・ 1 種</td><td>・ 2 種</td><td>・ 3 種</td></tr><tr><td>・ 鋼製物品棚</td><td>・ 4 種</td><td>・ 5 種</td><td>・ 6 種</td></tr></table>				種類	規格等	JIS による種類			・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種	・ 2 種	・ 3 種	・ 鋼製物品棚	・ 4 種	・ 5 種	・ 6 種		
		種類	規格等	JIS による種類																	
		・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種	・ 2 種	・ 3 種															
・ 鋼製物品棚	・ 4 種	・ 5 種		・ 6 種																	

章	項 目	特 記 事 項																				
	31 屋内揭示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り																				
	32 洗面カウンター	材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石 奥行き (mm) ・約 450 ・約 600																				
	33 防煙垂れ壁	<div>・ 固定式</div> <table><tr><th>材質</th><th>厚さ (mm)</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス</td><td>※6.8 ・</td><td>※500 ・</td><td>アルミ製枠付き</td></tr></table> <div>・ 可動式</div> <table><tr><th>種類</th><th>材質</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 垂直降下式 （巻取り型）</td><td>※不燃布 （不燃認定品）</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）</td></tr><tr><td>・ 回転降下式</td><td>鋼板製又はアルミ製</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td></tr></table> <div>降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）</div>	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考	※網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種類	材質	高さ (mm)	備考	・ 垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）	・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・
材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考																			
※網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																			
種類	材質	高さ (mm)	備考																			
・ 垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）																			
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																			
	34 屋外揭示板	照明器具 ※有り ・無し 施 錠 ※有り ・無し 製造所 ・																				
	35 収納家具	材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 材質、形状、寸法 ※図示による ・																				

21排水工事

1屋外雨水排水

(21.2.1)(21.2.2)(表21.2.1)(表21.2.2)

材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋 コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示による ・	
・硬質ポリ塩化 ビニル管	・VP		・図示による ・	
	・VU		・図示による ・	
	・RF-VP		・図示による ・	
	・RS-VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
側塊の形状及び寸法
排水桝、ふたの種類
砂地業に用いる材料
砂利事業に用いる材料
現場打ちの場合のコンクリート材料
現場打ちの場合の鉄筋
排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
凍上抑制層の厚さ
凍上抑制層に用いる材料

・図示による
※接着剤
・ゴム輪
・図示による
・図示による
・シルト・山砂・川砂・砕砂
・切込砂利又は切込碎石
・普通コンクリート
※18N/mm²
・15cm又は18cm
種類の記号
※SD295
※標準仕様書 21.2.2(6)(オ)による
(材質・ステンレス製・鋼製・合成樹脂被覆加工されたもの)
・図示による
・
(砂を用いる場合の砂の粒度試験・行う・行わない)

2鋳鉄製ふた

(21.2.1)

鋳鉄製マンホールふた

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
・鋳鉄製 マンホー ルふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパー・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパー・パッキン式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品等とは（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209 による

章	項 目	特 記 事 項																																
	3 グレーチング	<div>(21. 2. 1)</div> <div>・ 鋼製</div> <table><tr><th>形式</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバー ピッチ</th><th>亜鉛めっき (付着量)</th><th>上面 形状</th></tr><tr><td rowspan="2">・ 受枠付き、 ボルト固定 ・</td><td rowspan="2">・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用</td><td>・ 歩行 用</td><td>・ 細目 ・</td><td>・ ()</td><td>・ 凹凸形 ・</td></tr><tr><td>・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用</td><td>・ 普通目 ・ 細目</td><td>・ ()</td><td>・ 平形 ・</td></tr></table> <div>・ ステンレス製</div> <table><tr><th>形式</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバー ピッチ</th><th>亜鉛めっき (付着量)</th><th>上面 形状</th></tr><tr><td rowspan="2">・ 受枠付き、 ボルト固定 ・</td><td rowspan="2">・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用</td><td>・ 歩行用</td><td>・</td><td>—</td><td>・ 凹凸形 ・</td></tr><tr><td>・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用</td><td>・</td><td>—</td><td>・ 平形 ・</td></tr></table> <div>(品質・性能及び荷重試験方法は建築材料等品質性能表による)</div>	形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状	・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行 用	・ 細目 ・	・ ()	・ 凹凸形 ・	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用	・ 普通目 ・ 細目	・ ()	・ 平形 ・	形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状	・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行用	・	—	・ 凹凸形 ・	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用	・	—	・ 平形 ・
	形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状																												
	・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行 用	・ 細目 ・	・ ()	・ 凹凸形 ・																												
・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用			・ 普通目 ・ 細目	・ ()	・ 平形 ・																													
形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状																													
・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行用	・	—	・ 凹凸形 ・																													
		・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用	・	—	・ 平形 ・																													
4	街きよ、縁石及び側溝	<div>(21. 3. 1) (21. 3. 2) (表 21. 3. 1)</div> <div>街きよ、縁石、側溝</div> <table><tr><th>種類</th><th>形状、寸法</th></tr><tr><td>※縁石</td><td>※図示による ・</td></tr><tr><td>・ L 形側溝</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ U 形側溝</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ U 形側溝ふた</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr></table> <div>砂地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂 砂利地業に用いる材料 ※再生クラッシュラン ・切込砂利又は切込碎石 砂利地業の厚さ (mm) ※100 ・図示による</div> <div>・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 種類 ※普通コンクリート ・ 設計基準強度 ※18N/mm² ・ スランプ ※15cm 又は 18cm ・ ・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・</div> <div>凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の砂の粒度試験) ・行う ・行わない</div>	種類	形状、寸法	※縁石	※図示による ・	・ L 形側溝	・ 図示による ・	・ U 形側溝	・ 図示による ・	・ U 形側溝ふた	・ 図示による ・	・																					
種類	形状、寸法																																	
※縁石	※図示による ・																																	
・ L 形側溝	・ 図示による ・																																	
・ U 形側溝	・ 図示による ・																																	
・ U 形側溝ふた	・ 図示による ・																																	
・																																		
5	埋戻し土	<div>(21. 2. 1)</div> <div>・ B 種 ・</div>																																

章	項 目	特 記 事 項												
22 舗装工事	1 路床	<div>(22. 2. 2) (22. 2. 3) (22. 2. 5) (表 22. 2. 1)</div> <div>路床の材料</div> <table><tr><th>種別</th><th>材料</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 盛土</td><td>・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ 凍上抑制層</td><td>・ 再生クラッシャラン ・ クラッシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ フィルター層</td><td>・ 標準仕様書 22. 2. 3. (3) による ・</td><td>・ 図示による ・</td></tr></table> <div>凍上抑制層に用いる材料に砂を使用する場合の粒度試験</div> <div>・ 行う ・ 行わない</div> <div>・ 路床安定処理</div> <div>安定処理の方法</div> <div>・ 置き換え工法 (・) ・ 安定処理工法</div> <div>路床安定化処理用添加材料</div> <div>種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種 ・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号) ・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)</div> <div>添加量 ・ kg/ m³ (CBR ※3 以上 ・)</div> <div>試験</div> <div>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 現場 CBR 試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 安定処理土の CBR 試験 ・ 行う ・ 行わない 路床締固め度の試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない</div>	種別	材料	厚さ (mm)	・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示による ・	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャラン ・ クラッシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・	・ 図示による ・	・ フィルター層	・ 標準仕様書 22. 2. 3. (3) による ・	・ 図示による ・
	種別	材料	厚さ (mm)											
・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示による ・												
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャラン ・ クラッシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・	・ 図示による ・												
・ フィルター層	・ 標準仕様書 22. 2. 3. (3) による ・	・ 図示による ・												
2 路盤	<div>(22. 3. 2) (22. 3. 3) (表 22. 3. 1)</div> <div>路盤及び厚さ ※図示による ・</div> <div>路盤材料 (標準仕様書 表 22. 3. 1 による種別)</div> <table><tr><th colspan="2">種別</th></tr><tr><td rowspan="2">砕石</td><td>・ クラッシャラン ・ 粒度調整砕石</td></tr><tr><td>・ 再生クラッシャラン ・ 再生粒度調整砕石</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄鋼スラグ</td><td>・ クラッシャラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td></tr></table>	種別		砕石	・ クラッシャラン ・ 粒度調整砕石	・ 再生クラッシャラン ・ 再生粒度調整砕石	鉄鋼スラグ	・ クラッシャラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ						
種別														
砕石	・ クラッシャラン ・ 粒度調整砕石													
	・ 再生クラッシャラン ・ 再生粒度調整砕石													
鉄鋼スラグ	・ クラッシャラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ													
	3 アスファルト舗装	<div>(22. 4. 2~22. 4. 6) (表 22. 4. 4)</div> <div>アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示による ・</div> <div>舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・</div> <div>材料</div> <div>アスファルト ・ 再生アスファルト</div>												

章	項 目	特 記 事 項											
		<div>(標準仕様書 表 22. 4. 1 による種類 : ・ 60～80 ・ 80～100)</div> <div>骨材<ul style="list-style-type: none">・ ストレートアスファルト・ 道路用碎石・ アスファルトコンクリート再生骨材</div> <div>加熱アスファルト混合物等の種類<ul style="list-style-type: none">・ 密粒度アスファルト混合物 (13)・ 細粒度アスファルト混合物 (13)・ 密粒度アスファルト混合物 (13F)</div> <div>試験<ul style="list-style-type: none">アスファルト混合物等の抽出試験<ul style="list-style-type: none">・ 行う・ 行わない</div> <div>加熱混合物製造施設<ul style="list-style-type: none">※茨城県指定のアスファルトコンクリート合材混合所</div>											
4	コンクリート舗装	<div>(22. 5. 2～22. 5. 4) (22. 5. 6) (表 22. 5. 1) (表 22. 5. 3)</div> <div>コンクリート舗装の構成及び厚さ<table><tr><th>舗装の種類</th><th>部位</th><th>構成</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2">コンクリート舗装</td><td>・ 車路及び駐車場</td><td>・ 図示による</td><td>・ 図示による</td></tr><tr><td>・ 歩行者用通路</td><td>・ 図示による</td><td>※ 70</td></tr></table></div> <div>材料<div>コンクリート<ul style="list-style-type: none">※普通コンクリート、標準仕様書 表 22. 5. 1 による・ 以下による<div>コンクリートの種類 ()</div><div>設計基準強度 (N/mm²) ()</div><div>所定のスランプ (cm) ※8</div><div>粗骨材の最大寸法 (mm) ()</div></div><div>早強ポルトランドセメント<ul style="list-style-type: none">・ 使用する・ 使用しない</div><div>注入目地材料<ul style="list-style-type: none">※低弾性タイプ・ 高弾性タイプ</div></div> <div>目地<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書 表 22. 5. 3 及び図 22. 5. 1 による・ 以下による<div>種類<ul style="list-style-type: none">・ () m 程度ごと</div><div>間隔<ul style="list-style-type: none">・ 図示による</div><div>構造<ul style="list-style-type: none">・ 図示による</div></div> <div>舗装の平たん性<ul style="list-style-type: none">※通行の支障となる水たまりを生じない程度・</div>	舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)	コンクリート舗装	・ 車路及び駐車場	・ 図示による	・ 図示による	・ 歩行者用通路	・ 図示による	※ 70
舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)										
コンクリート舗装	・ 車路及び駐車場	・ 図示による	・ 図示による										
	・ 歩行者用通路	・ 図示による	※ 70										

章	項 目	特 記 事 項										
	5 カラー舗装	(22. 6. 2～22. 6. 4) ・加熱系カラー舗装 構成及び厚さ 加熱系混合物の結合材 添加材 着色骨材 () 自然石 () ・図示による ・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物（顔料の添加量： %) ・常温系カラー舗装 工法 着色部の下部 ・ニート工法（配合その他：) ・塗布工法（配合その他：) ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・										
	6 透水性舗装	(22. 7. 2) (22. 7. 3) (22. 7. 6) ・透水性アスファルト舗装 舗装の構成 ・図示による 材料 骨材 ・道路用碎石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 (標準仕様書 表 22. 4. 1 による種類： ・60～80 ・80～100) 舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの ・ 試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない (22. 5. 2～22. 5. 4) (22. 5. 6) ・透水性コンクリート舗装 コンクリート舗装に対する基準値 <table><tr><th>項目</th><th>基準値</th></tr><tr><td>最大粒径 (mm)</td><td>13</td></tr><tr><td>空隙率 (%)</td><td>20 以上</td></tr><tr><td>透水係数 (cm/s)</td><td>1×10⁻² 以上</td></tr><tr><td>目地の間隔</td><td>版厚の 20 倍程度</td></tr></table> 構成、厚さはコンクリート舗装による ・不織布（ジオテキスタイル） 敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設 ・図示による 単位面積質量 ・60g/m ² 以上 厚さ (mm) ・0.5～1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5×10 ⁻¹ cm/sec 以上 ・透水性コンクリート平板舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による。 ・透水性インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による。	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20 以上	透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上	目地の間隔	版厚の 20 倍程度
項目	基準値											
最大粒径 (mm)	13											
空隙率 (%)	20 以上											
透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上											
目地の間隔	版厚の 20 倍程度											

章	項 目	特 記 事 項																																																											
	7 半たわみ性舗装	<table><tr><th>区分</th><th>種類</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>表層</td><td>半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)</td><td>40</td></tr><tr><td>基層</td><td>再生粗粒度アスファルト混合物(20)</td><td>40</td></tr></table> <p>試験</p> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>材料</p> <p>浸透用セメントミルクの標準的な性状</p> <table><tr><th>項目</th><th>性状</th><th>試験方法</th></tr><tr><td>フロー値(P ロート) 砂</td><td>10～14</td><td>舗装調査・試験法便覧(C041)</td></tr><tr><td>圧縮強度(7 日養生) MPa</td><td>9.8～29.4</td><td>JIS R 5201</td></tr><tr><td>曲げ強度(7 日養生) MPa</td><td>2.0 以上</td><td>舗装調査・試験法便覧(C042)</td></tr></table> <p>配合</p> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合</p> <table><tr><th>ふるいの呼び名</th><th>ふるい通過質量百分率 (%)</th></tr><tr><td>19 mm</td><td>100</td></tr><tr><td>13.2 mm</td><td>95～100</td></tr><tr><td>4.75 mm</td><td>10～35</td></tr><tr><td>2.36 mm</td><td>5～22</td></tr><tr><td>600 μm</td><td>4～15</td></tr><tr><td>300 μm</td><td>3～12</td></tr><tr><td>75 μm</td><td>1～6</td></tr><tr><td>アスファルト量 (%)</td><td>3.0～4.5</td></tr></table> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値</p> <table><tr><th>項目</th><th>基準値</th></tr><tr><td>密度 (g/cm³)</td><td>1.90 以上</td></tr><tr><td>安定度 (kN)</td><td>2.94 以上</td></tr><tr><td>フロー値 (1/100cm)</td><td>20～40</td></tr><tr><td>空隙率 (%)</td><td>20～28</td></tr><tr><td>突固め回数 (回)</td><td>50</td></tr></table> <p>施工</p> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書 22.4.5 による。</p> <p>浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。</p> <p>(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。</p> <p>(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。</p> <p>(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、珪砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。</p> <p>(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。</p> <table><tr><th>セメントミルクの種類</th><th>養生期間</th></tr><tr><td>普通タイプ</td><td>約3日</td></tr><tr><td>早強タイプ</td><td>約1日</td></tr><tr><td>超速硬タイプ</td><td>約3時間</td></tr></table> <p>(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。</p> <p>締固め度 ※標準仕様書 22.4.2(2)による</p> <p>舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3)による</p> <p>舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・</p>	区分	種類	厚さ (mm)	表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40	基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40	項目	性状	試験方法	フロー値(P ロート) 砂	10～14	舗装調査・試験法便覧(C041)	圧縮強度(7 日養生) MPa	9.8～29.4	JIS R 5201	曲げ強度(7 日養生) MPa	2.0 以上	舗装調査・試験法便覧(C042)	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)	19 mm	100	13.2 mm	95～100	4.75 mm	10～35	2.36 mm	5～22	600 μm	4～15	300 μm	3～12	75 μm	1～6	アスファルト量 (%)	3.0～4.5	項目	基準値	密度 (g/cm ³)	1.90 以上	安定度 (kN)	2.94 以上	フロー値 (1/100cm)	20～40	空隙率 (%)	20～28	突固め回数 (回)	50	セメントミルクの種類	養生期間	普通タイプ	約3日	早強タイプ	約1日	超速硬タイプ	約3時間
区分	種類	厚さ (mm)																																																											
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40																																																											
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40																																																											
項目	性状	試験方法																																																											
フロー値(P ロート) 砂	10～14	舗装調査・試験法便覧(C041)																																																											
圧縮強度(7 日養生) MPa	9.8～29.4	JIS R 5201																																																											
曲げ強度(7 日養生) MPa	2.0 以上	舗装調査・試験法便覧(C042)																																																											
ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)																																																												
19 mm	100																																																												
13.2 mm	95～100																																																												
4.75 mm	10～35																																																												
2.36 mm	5～22																																																												
600 μm	4～15																																																												
300 μm	3～12																																																												
75 μm	1～6																																																												
アスファルト量 (%)	3.0～4.5																																																												
項目	基準値																																																												
密度 (g/cm ³)	1.90 以上																																																												
安定度 (kN)	2.94 以上																																																												
フロー値 (1/100cm)	20～40																																																												
空隙率 (%)	20～28																																																												
突固め回数 (回)	50																																																												
セメントミルクの種類	養生期間																																																												
普通タイプ	約3日																																																												
早強タイプ	約1日																																																												
超速硬タイプ	約3時間																																																												

章	項 目	特 記 事 項																																																										
	8 弾性舗装	<div>弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ※図示による</div> <table><tr><th>区分</th><th>種類</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>表層</td><td>弾性舗装材</td><td>15～20</td></tr><tr><td>基層</td><td>再生密粒度アスファルト混合物(13)</td><td>30</td></tr></table> <div>加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による。</div>	区分	種類	厚さ (mm)	表層	弾性舗装材	15～20	基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30																																																	
区分	種類	厚さ (mm)																																																										
表層	弾性舗装材	15～20																																																										
基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30																																																										
	9 ブロック系舗装	<div>(22. 8. 2) (22. 8. 3)</div> <div>・コンクリート平板舗装</div> <table><tr><th>種類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)</td><td>・ 300 角 ・</td><td>※60 ・</td><td>・ 砂 ・ モルタル</td><td>表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し</td></tr></table> <div>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 普通平板は再生材料を用いた舗装用ブロック、透水平板は透水性コンクリートとする。 仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm 以内とする。</div> <div>・インターロッキングブロック舗装</div> <table><tr><th>種類</th><th>部位</th><th>厚さ (mm)</th><th>形状寸法</th><th>横断面勾配 (%)</th><th>曲げ強度 (N/mm²)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">※普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)</td><td>車路及び駐車場</td><td>※80</td><td>・ 図示による ・</td><td>2</td><td>※5.0</td><td>表面加工</td></tr><tr><td>歩行者用通路</td><td>※60</td><td>・ 図示による ・</td><td>1.5～2</td><td>※3.0</td><td></td></tr></table> <div>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 歩行者用通路に使用する普通ブロックは再生材料を用いた舗装用ブロック、透水性ブロックは透水性コンクリートとする。 仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm 以内とする。</div> <div>・</div> <table><tr><th>区分</th><th>部位</th><th>厚さ (mm)</th><th>種類</th></tr><tr><td rowspan="2">敷砂層</td><td>・ 車路及び駐車場</td><td>20</td><td rowspan="2">砂</td></tr><tr><td>・ 歩行者用通路</td><td>30</td></tr><tr><td>フィルター層</td><td></td><td>100</td><td>川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)</td></tr></table> <div>・不織布（ジオテキスタイル） 敷設位置 ※図示による ・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設 単位面積質量 ・60g/㎡以上 厚さ (mm) ・0.5～1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5 × 10⁻¹cm/sec 以上 舗装の割付（車路及び駐車場） ・ヘリンボンボンド（45°） ・ヘリンボンボンド（90°） 仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm 以内とする。 ・</div> <div>・舗石舗装（歩行者用通路）</div> <table><tr><th>種類</th><th>形状・寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>張り方</th><th>基層</th><th>基層の厚さ (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2">・ 花こう岩 ・</td><td rowspan="2">・ 割石 ・ 図示による ・</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">・ うろこ張り ・</td><td>・ コンクリート版</td><td>※70</td></tr><tr><td>・ アスファルト混合物</td><td>※70</td></tr></table>	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考	・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)	・ 300 角 ・	※60 ・	・ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し	種類	部位	厚さ (mm)	形状寸法	横断面勾配 (%)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考	※普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	車路及び駐車場	※80	・ 図示による ・	2	※5.0	表面加工	歩行者用通路	※60	・ 図示による ・	1.5～2	※3.0		区分	部位	厚さ (mm)	種類	敷砂層	・ 車路及び駐車場	20	砂	・ 歩行者用通路	30	フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)	種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)	・ 花こう岩 ・	・ 割石 ・ 図示による ・	・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート版	※70	・ アスファルト混合物	※70
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考																																																								
・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)	・ 300 角 ・	※60 ・	・ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し																																																								
種類	部位	厚さ (mm)	形状寸法	横断面勾配 (%)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考																																																						
※普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	車路及び駐車場	※80	・ 図示による ・	2	※5.0	表面加工																																																						
	歩行者用通路	※60	・ 図示による ・	1.5～2	※3.0																																																							
区分	部位	厚さ (mm)	種類																																																									
敷砂層	・ 車路及び駐車場	20	砂																																																									
	・ 歩行者用通路	30																																																										
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)																																																									
種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)																																																							
・ 花こう岩 ・	・ 割石 ・ 図示による ・	・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート版	※70																																																							
				・ アスファルト混合物	※70																																																							

章	項 目	特 記 事 項																					
		クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 仕上面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm 以内とする。 ・																					
10	砂利敷き	(22. 9. 2) 種別 ・ A 種（施工範囲： ・図示による ・通路 ・ ） ・ B 種（施工範囲： ・図示による ・建物周囲その他 ・ ）																					
11	路面標示用塗料	路面標示用塗料は JIS K 5665 による <table><tr><th>種類</th><th>施工</th><th>適用</th><th>色</th><th>幅 (mm)</th><th>塗布厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 1 種</td><td>常温</td><td rowspan="2">液状</td><td rowspan="2">※白 ・</td><td rowspan="2">※150 ・ 100</td><td>・ 1. 0</td></tr><tr><td>・ 2 種</td><td>加熱</td><td>・</td></tr><tr><td>※3 種 1 号</td><td>熔融</td><td>粉体状</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	・ 1 種	常温	液状	※白 ・	※150 ・ 100	・ 1. 0	・ 2 種	加熱	・	※3 種 1 号	熔融	粉体状			
種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																		
・ 1 種	常温	液状	※白 ・	※150 ・ 100	・ 1. 0																		
・ 2 種	加熱				・																		
※3 種 1 号	熔融	粉体状																					

章	項 目	特 記 事 項															
23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等	(23. 1. 3) 土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・ 行う ・ 行わない 電気伝導度 (EC) の試験 ・ 行う ・ 行わない															
	2 植栽基盤の整備	(23. 2. 2) (23. 2. 4) 樹木の植栽基盤の整備 ・ 適用する ・ 適用しない <table><tr><th>植栽</th><th>工法</th><th>有効土層の厚さ (cm)</th><th>整備範囲</th><th>土壌改良材</th></tr><tr><td>・ 樹木</td><td>※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種</td><td>樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)</td><td>・ 葉張り部分 ・ 植栽帯部分 ・ 図示による ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td>※芝、地被類</td><td>※B 種 ・</td><td>※20 ・</td><td>・ 植栽部分 ・ 図示による ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table> 植栽基盤の排水整備 ・ 設ける (※図示による ・) ・ 設けない	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材	・ 樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽帯部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない	※芝、地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない
	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材												
	・ 樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽帯部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない												
	※芝、地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない												
	3 植込み用土	(23. 2. 3) ・ 現場発生土の良質土 ・ 客土															
	4 土壌改良材	(23. 2. 3) 種類及び指定量等 ・ バーク堆肥 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示による 使用量 植栽基盤面積 1 m ² あたり (・ 50L ・) ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示による 使用量 植栽基盤面積 1 m ² あたり (・ 10L ・) 材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第 1 の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする															
	5 樹木	(23. 3. 2) 樹種、寸法、株立数等 ※図示による ・															
	6 支柱	(23. 3. 2) (23. 3. 3) 支柱材 ※丸太 (間伐材) ・ 真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・ 形式 ・ 図示による ・															
	7 幹巻き用材料	(23. 3. 2) 材料 ※幹巻き用テープ ・ わら及びこも															
8 芝	(23. 4. 2) (23. 4. 3) 種類 ※コウライシバ ・ ノシバ ・ 芝張りの工法 平地 ※目地張り ・ べた張り 法面 ※べた張り法面 ・ 目地張り																

章	項 目	特 記 事 項												
	9 吹付けは種	(23. 4. 2) <table><tr><th>種子の種類</th><th>発芽率</th><th>種子の量(g/m²)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※洋芝類（採取後 2 年以内）</td><td>※発芽率 80%以上</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種子の種類	発芽率	種子の量(g/m ²)	備考	※洋芝類（採取後 2 年以内）	※発芽率 80%以上			・			
	種子の種類	発芽率	種子の量(g/m ²)	備考										
	※洋芝類（採取後 2 年以内）	※発芽率 80%以上												
・														
	10 地被類	(23. 4. 2) <table><tr><th>樹種</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th><th>芽立数</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・				・			
	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数										
	・													
・														
	11 新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置	(23. 3. 4) (23. 3. 6) (23. 4. 7) (23. 5. 5) 新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間 ※引渡しの日から 1 年 ・無し ・ 移植樹木の枯損処置を行う期間 ※引渡しの日から 1 年 ・無し ・												
	12 屋上緑化	(23. 5. 2～23. 5. 4) 植栽基盤及び材料 ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・図示による ・ 排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成形品 植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土 樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※図示による ・ 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示による ・ （品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による） 支柱 ・設置する ・設置しない 形式 ・図示による ・ かん水装置 ・設置する ・設置しない 種類 ・図示による ・ 工法 「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（H12 年 5 月 31 日 建設省告示第 1458 号）に基づく風圧力に対応した工法 ・図示による ・												

章	項 目	特 記 事 項
24 その他	1 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	<p>施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分 (本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 杭の芯ずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示による ・ 杭の長さの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示による ・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示による

特 記 仕 様 書（電気設備工事）

I 工 事 概 要

1. 工事名 騰波ノ江幼稚園園舎解体及び駐車場整備工事
2. 工事場所 茨城県下妻市若柳地内
3. 敷地面積 1, 045. 00 m²
4. 工事範囲 図示のとおり
5. 建物概要

建物名称	園舎
構 造	RC造 一部 S造
階 数	地上 1階
建築面積	315. 00 m ²
延べ面積	283. 80 m ²

6. 別途工事

- ・
- ・

II 電 気 設 備 工 事 仕 様

1. 共通事項

図面及び本特記仕様書のほか、以下を適用する。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「標準仕様書」という。)

「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)

「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事)(令和4年版)」(以下「建築改修標準仕様書」という。)

及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「標準図」という。)

2. 特記事項

(1) 項目は、番号に□の付いたものを適用する。

(2) 特記仕様で※印、・印の適用は、次による。

※印の付いたものを適用する。

・印の付いたものは適用しない。

(3) 特記仕様に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。

(4) 建築工事、機械設備工事は、別記各工事の特記仕様書による。

Ⅲ 特 記 仕 様

第1章 一 般 共 通 事 項

1. 技術者等

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づき、適切な施工体制が行える現場代理人及び技術者(主任技術者・監理技術者・専門技術者)を配置する。

2. 施工従事者

施工にあたっては、必要な資格保有者を従事させる。

3. 工事実績情報(CORINS)の登録 ※ 適用する (付記事項参照)

4. 設計図書の優先順位 (1)現場説明に対する質問回答書 (2)現場説明書 (3)特記仕様書 (4)図面 (5)標準仕様書、改修標準仕様書及び標準図

5. 機材等

(1)使用する機材等は、標準仕様書、設備機材等評価名簿(最新版)((一社)公共建築協会)によるもの又はこれらと同等以上のものとし、監督員の承諾を受ける。

(2)使用する機材等は、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮し、かつ、石綿を含有しないものとする。

(3)「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材は、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(4)「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12年法律第100号)」に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成29年2月7日閣議決定)」及び茨城県環境保全率先実行計画(県庁エコ・オフィスプラン)に基づき、県が定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。

(5)次に指定する機材は、設計図書に定めがない場合に適用する。

①厚鋼電線管は、付着量内外面 300g/m²以上の溶融亜鉛めっきを施したものを標準とする。

②ケーブルラックの仕上げは、付着量片面 350g/m²以上の溶融亜鉛めっきを施したものの又は同等以上の耐食性能を有する溶融亜鉛-アルミニウム系合金めっき鋼板製を標準とする。

(6)上記の条件を満たすものが県産品で確保できる場合においては、優先使用に努めるものとする。
なお、県産品とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。

6. 機材等の試験

機材等の試験は、標準仕様書、JIS、JEC 及び JEM 等に基づいて行い、試験成績書を提示する。また、設計図書で定めた条件の証明ができない場合、監督員が必要と指示した場合などは試験を行い、監督員が試験に立ち会う。

7. 機材等の検査

機材等は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、設計図書に適合し、一定以上の品質が確認できたものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。

8. 建設発生土の処理等

※ 構内適正処理 (※構内の指示する場所に敷き均し ・ 構内の指示する場所にたい積)

・ 構外搬出適正処理 (付記事項参照)

・ ストックヤードに搬出する場合は、付記事項参照。

9. 発生材の処理等 (1.3.9)

・ 発注者に引き渡しを要するもの()

※ 構外搬出とし、関係法令に準拠し適切に処理し、監督員に報告する。

- ・ 特別管理産業廃棄物(・PCB 機器)
- ※ 産業廃棄物を運搬する際は、車両の両側面に運搬車である旨の表示をし、関係書類を携帯すること。
- ※ 撤去した電気機器や照明器具の安定器は、PCB の含有量が基準値未満であるか、含まないことを確認のうえ、処理すること。なお、含有量が基準値以上である場合は、場内保管とする。
- ※ 再資源化等するもの ※電線、ケーブル ※配電盤類 ・その他()
- ・ 特定家庭用機器再商品化法(平成 10 年法律第 97 号)の対象となるもの()
- は、同法の定めに従って処理すること。

10. 監督員事務所 ※ 設けない ・ 設ける(種別： ・ 1 号 ・ 2 号 ・ 3 号)

11. 官公署その他への届出手続等 (1.1.3)

工事の着手、施工及び完成に当たり、関係官公署その他の関係機関及び電気主任技術者への協議や必要な届出手続等を遅滞なく行う。関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては、その検査に必要な資機材、労務等を提供する。なお、本項に関して生じる経費等は、受注者の負担とする。

12. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物又は工事物件に限る使用权は発注者に委譲するものとする。

13. 提出書類

建設業法(昭和 24 年法律第 100 号)等で規定された関係書類のほか、次の書類を提出する。

適用	書類	備考
※	工事实績情報(CORINS)の登録内容確認書の写し(付記事項参照)	請負代金の額が 500 万円以上となる工事
※	火災保険等に参加したことを証明できる書類	工期末日から 14 日以上の間加入すること。
※	法定外労災保険証券等の写し	
※	建設業退職金共済制度掛金収納書	請負代金の額が 500 万円以上となる工事 建設業退職金共済制度の掛金収納書は掛金収納書提出用台紙(様式第 033 号)にて提出すること。 工事完成時に建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表(様式第 031 号)を提出すること。
※	施工体系図、施工体制台帳、再下請負通知書、建設業許可証の写し、作業員名簿、施工従事者資格証(施工に必要なものに限る)・主任(監理)技術者の雇用契約を証する書面及び注文書・請書の写し	作業員名簿の様式は、茨城県建設工事施工適正化指針様式 2 又はそれに準拠するもの (個人情報情報は黒塗りすること。)
※	施工計画書	請負代金の額が 500 万円未満の場合は監督員の指示による。
※	産業廃棄物処理関係書類(14 項参照)	
※	使用機材メーカー一覧表及び機器・材料納入仕様書承諾願	
※	機器の設計及び施工に対する計算書	耐震、風圧、電圧降下等
※	施工図承諾願	
※	石綿事前調査結果報告	請負代金の額が 100 万円以上となる工事
※	実施工程表(全体工程、月間工程及び 3 週工程)	監督員の指示により省略できる。

※	工事完成通知書及び支払用完成写真(A4 版カラー)	完成写真は黒板を写さない。
※	完成図書 (14 項参照)	
・	管理機器一覧表(指定様式:エクセル形式のデータで提出)	様式は営繕課より提供する。
※	工事物件引渡書	
※	創意工夫・社会性等に関する実施状況 (別紙ー 6) (付記事項参照)	様式は営繕課より提供する。
※	完成書類等引継書(提出書類及び完成図書類を施設に提出 する際に、施設の署名を得たもの)	
※	その他 監督員が必要と認め、指示した書類	

14. 完成図書類

※ CD-R 又は DVD-R 2 枚 (付記事項参照)

完成図面(JWW 形式 CAD データ、PDF 形式)、完成写真及び工事写真(JPEG 形式)、工事帳票(情報共有システムによる処理を行ったもの)を収録したものを 1 枚は施設担当者へ、もう 1 枚は監督員へ提出する。工事写真の撮影方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(令和 5 年版)による工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 令和 5 年版」を参考とする。

※ 完成図

・ 白焼製本(A1) ・ 1 部 ・ 2 部

※ 白焼製本縮小版(A3)

(施設担当者へ提出) ※ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・ 4 部

(監督員へ提出) ・ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・ 4 部

※ 産業廃棄物処理関係書類

処理フロー図(種類、数量)、委託契約書の写し、許可証の写し、運搬車両一覧表及び車検証(使用車両のみ)、写真(積込、場外搬出時、処分場搬入時、荷下状況)、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の写し、PCB 含有試験成績書等、古物商許可証の写し及び計量書(有価処分の場合)、再生資源利用(促進)計画書・実施書(付記事項参照。建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成・提出)

※ 完成図書 A4 ファイルに次の書類を綴じ、目次を付けること。(ただし、情報共有システムによる処理を行った書類については、上記 CD-R 又は DVD-R による提出とする。)

(1) 官公署等届出書の写し

(2) 機器完成図(品目は監督員の指示による)、検査合格証、取扱説明書

(3) 機器の社内検査成績表

(4) 現地試験成績表 (付表参照)

(5) 測定機器の校正証明書の写し

(6) 電気設備工事チェックリスト (一社)茨城県電設業協会

(7) 瑕疵 2 年保証書(保証期間は工事目的物の引渡しの日から 2 年間とする。)

※ 保守点検に必要な工具、予備品および付属品

付表 現地試験成績表

電灯・動力設備工事	※ 電圧測定表(分電盤等)
	※ 絶縁抵抗測定表(②)
	※ 接地抵抗測定表

	・ 照度測定表(③)(④)
	※ コンセント極性試験表 接地極又は端子付きのものは、接地の導通
	・ 相回転測定表
	・ シーケンス試験
	※ 機器締付けチェック表(①)
受変電設備工事	・ 耐電圧試験表
	・ 絶縁抵抗測定表(②)
	・ 接地抵抗測定表
	・ 継電器特性試験表
	・ シーケンス試験
	・ 機器締付けチェック表(①)
発電設備工事	・ 発電設備試験表
	・ 騒音試験表
	・ 振動試験表
構内情報通信網設備工事	・ 構内情報通信網設備試験表
構内交換設備工事	・ 構内交換設備試験表
放送設備工事	・ 拡声設備試験表
テレビ共同受信設備工事	・ テレビ・ラジオ電界強度測定表
	・ 画質評価写真
自動火災報知設備工事	・ 消防設備試験表
自動閉鎖設備工事	・ 防火戸自動閉鎖試験表
その他	※ 監督員の指示

①：電気設備工事監理指針 第2編第2章第1節共通事項2.1.2及び資料5

②：試験電圧を記載すること。

③：平面図に測定場所・測定高さ・測定日時を記載すること。

④：学校施設においては、学校環境衛生基準による測定方法にて実施すること。

15. 工事用電力・水・その他

工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は受注者の負担とする。

16. 他工事との取り扱い

(1)	鉄筋コンクリートの梁、床、壁貫通のスリーブ補強	・ 本工事	・ 別途
(2)	埋込照明器具天井切り込み及び補強	・ 本工事	・ 別途
(3)	開口部補強(分電盤、端子盤等)	・ 本工事	・ 別途
(4)	点検口	・ 本工事	・ 別途
(5)	自動火災報知設備の総合盤箱体 (ただし、消火栓箱組み込みの場合)	・ 本工事	・ 別途
(6)	換気扇	・ 本工事	※ 別途
(7)	防火シャッター自動閉鎖装置	・ 本工事	・ 別途
(8)	防火扉自動閉鎖装置(レリーズ)	・ 本工事	・ 別途
(9)	電気室、発電機室等のピット	・ 本工事	・ 別途
(10)	足場	・ 本工事	・ 別途

17. 埋蔵文化財の調査

本工事場所は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置する。

- (1) 掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、県教育庁文化課担当と協議を行うこと。
- (2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

18. 石綿含有建材の調査

※ 石綿含有建材の事前調査

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令及び建築改修標準仕様書 1.5.1 に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

貸与資料（ ）

- ・分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名	定性分析方法	定量分析方法
	(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)

サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル

採取箇所

- ・図示による

※ 表示及び掲示

建築改修標準仕様書 9.1.2(6)により、必要な表示及び掲示を行うこと。

※ 官公庁への手続き

大気汚染防止法・労働安全衛生法等(昭和 47 年法律第 57 号)に基づき、必要な届出手続等を行うこと。その際、届出等内容について、あらかじめ監督員に報告すること。

※ 作業完了報告

特定粉じん排出等作業が完了した際は、大気汚染防止法に基づき、その結果を監督員に提出すること。

第2章 施 工 共 通 事 項

1. 配管の支持 (2. 2. 3) (2. 3. 3) (2. 4. 3)
配管の支持材は鋼製とし、スラブ等の構造体に取り付ける。配管の支持間隔は、金属管では 2m 以下、1 種金属線びのベースでは 1m 以下、合成樹脂管では 1.5m 以下とする。ただし、合成樹脂管をコンクリート埋設とする場合は 1m 以下とする。また、露出金属管配線で人が容易に触れるおそれのある場所は、支持金物に保護キャップを取り付ける。
2. 管の接続 (2. 2. 5)
管相互の接続は、カップリング又はねじなしカップリングを使用し、ねじ込み、突合せ及び締付けを行う。また、管とボックス、分電盤等との接続がねじ込みによらないものには内外面にロックナットを使用して接続部分を締付け、管端にはブッシングを設ける。
3. 金属管の接地 (2. 2. 5)
配管とボックス、配分電盤の間にボンディングを施し、電氣的に接続する。ただし、ねじ込み接続となる箇所及びねじなし丸形露出ボックス、ねじなし露出スイッチボックス等に接続される箇所は省略することができる。ボンディング線の太さは、配線用遮断器定格電流 100A 以下は 2.0 mm 以上、225A 以下は 5.5mm²以上、600A 以下は 14mm²以上とする。
4. 他配管との離隔
金属管、ダクト、ケーブルは水管、ガス管と接触しないように施設する。
5. 空配管
分電盤及び端子盤から天井裏まで空配管 25mm 相当を 2 本立ち上げる。
6. 呼び線（導入線）
長さ 1m 以上の入線しない電線管には電線太さ 1.2mm 以上の被覆鉄線を挿入する。
7. 配管の養生及び清掃 (2. 2. 6)
管に水気、じんあい等が侵入しがたいようにし、コンクリート埋込となる場合は、管端にパイプキャップ、キャップ付きブッシング等を用いて養生する。
管及びボックスは、据付後速やかに清掃する。また、コンクリートに埋設した場合は、型枠取外し後、速やかに管路の清掃、導通確認を行う。
8. プレート
※新金属 ・ステンレス製 ・樹脂製
9. コンセント
コンセントは盤名、回路番号を表示する。専用コンセントの場合は電圧も表示する。
10. 配管の塗装
金属管露出配管は素地ごしらえ後に指定色塗装とする。（塗装工程を撮影すること。）
合成樹脂調合ペイント (JIS K 5516 合成樹脂調合ペイント) 2 回 (上塗り)
※屋内の施工に使用する塗料は、ホルムアルデヒド等放散量区分 F ☆☆☆☆品とする。
※鉛等の環境汚染物質を含まないものとする。
11. ケーブルのふ設 (2. 10. 4)
(1) ケーブルラック配線
水平部では 3m 以下、垂直部では 1.5m 以下の間隔ごとに固定する。ただし、トレー形ケーブルラック水平部の配線及び二重天井内におけるケーブルラック水平部の配線はこの限りでない。
電力ケーブルは積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤 2 次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(2) 保護管(金属線ぴを含む)へのふ設

垂直にふ設する管路内のケーブルは、支持間隔を 6m 以下として固定する。

(3) 金属トラフへのふ設

ケーブルは、整然と並べ、垂直部では 1.5m 以下の間隔ごとにケーブル支持物に固定する。

電力ケーブルは、積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤 2 次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(4) ちょう架配線

径間は、15m 以下とする。

ちょう架は、ケーブルに適合するハンガ、バインド線、金属テープ等によりちょう架し、支持間隔は 0.5m 以下とする。

(5) 二重天井内配線

ケーブルを支持してふ設する場合は、支持間隔を 2m 以下とする。

ケーブルを集合して束ねる場合は、許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響を与えない範囲で束ねる。

ケーブルを支持せずにくろがし配線とする場合は、天井下地材及び天井材に過度の荷重をかけないものとし、ケーブルの被覆を天井下地材、天井材等で損傷しないように、整然とふ設する。

また、弱電流電線並びに水管、ガス管及びダクト等と接触しないようにふ設する。

(6) 二重床内配線

くろがし配線とする。

ケーブルの接続場所は、上部の二重床が開閉可能な場所とし、床上から接続場所が確認できるようマーキングを施す。

弱電流電線と接触しないようセパレータ等で処置を施す。

(7) 垂直ケーブル配線

つり方式は、プーリングアイ方式又はワイヤグリップ方式とする。

ケーブル及びその支持部分の安全率は、4 以上とする。

各階ごとに振止め支持を施す。

ワイヤグリップ方式の支持間隔は、6m 以下とする。

(8) 造営材沿い配線

ケーブルを造営材に沿わせてふ設する場合の支持間隔は、下表のとおりとし、ケーブル支持材は、ケーブル及びそのふ設場所に適合するサドル、ステーブル等を使用する。

ふ設区分	支持間隔(m)
造営材の側面又は下面において水平方向にふ設するもの	1 以下
人が触れるおそれがあるもの	1 以下
その他の場所	2 以下
ケーブル相互並びにケーブルとボックス及び器具との接続箇所	接続箇所から 0.3 以下

12. 電線・ケーブルの余長 (2.12.5)

高圧・低圧及び弱電配線は、要所、引込口及び引出口近くのマンホール、ハンドホール内で 1 ターン程度の余裕をもたせる。

13. ケーブルラックのふ設 (2.10.1)

ケーブルラックの水平支持間隔は、鋼製では 2m 以下、その他については 1.5m 以下とする。

天井又はスラブより支持をとる場合は、耐震用振止めも併用する。使用電圧が 300V 以下の場合は D 種、300V を超える場合は C 種接地を施す。ケーブルラックの接合部はボンディングを行うこと。

ノンボンド工法を採用する場合は、証明シールを貼り付ける。全ネジボルト、ダクター等の支持材を切断して使用する場合は、保護キャップ又は錆止め塗装(ローバル等)を塗布する。

14. 標識シート(埋設シート) (2.12.4)

地中配線(高圧・低圧・弱電)には折り込み式の標識シートを地表面下 0.3m~0.5m に種別毎に 2 条並行して埋設する。また、おおむね 2m の間隔で用途を表示する。(材質：高密度ポリエチレン平織、文字付)

15. 回路種別の表示 (2.2.10) (2.7.5)

キュービクル式配電盤内、開放型電気室内、ハンドホール内及び設計図書により指定した箇所の表示札はプレートに彫刻し、墨入れ表示とする。また、盤内の外部配線、プルボックス、ハンドホール内、EPS、点検口、ダクト内分岐箇所付近、その他要所の配線には、合成樹脂製、ファイバ製等の表示札(施工者名、回路の種別、電線種類、サイズ、行先、施工年月)を取り付ける。

・表示札の標記例

回路種別	電灯
配線	EM-CET○○sq
発着	キュービクル 電灯盤 No. 1
施工者	1L-1
施工年月	○○(株)
	令和○年○月

回路種別の例

電灯、動力、電話、火報、放送等

施工年月は完成年月とする。

16. ハンドホール (2.12.3) (2.12.4)

建物、配電盤及びボックス類側の通線部にはネオシールを充填し、湿気の浸入を防ぐ。また、保守点検に必要な工具類としてハンドホールキーを 1 組納品する。

17. 貫通部の通線等

配管、配線、ケーブルラック及びダクト類が壁、床等を貫通する箇所は、開口部にネオシールを隙間なく充填する。なお、防火区画を貫通する場合は 27 項を適用する。

18. 電線の色別 (2.1.3)

ビニル電線は、原則として下表により色別する。ただし、これにより難しい場合は端部を色別する。なお、接地線は緑又は緑／色帯、漏電遮断器用接地線は緑／黄とし、盤内の接地線はキャップ、テープ等を取付けること。

電気方式	赤	白	黒	青
三相 3 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	第 3 相
三相 4 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	第 3 相
単相 2 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	—
単相 3 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	—
直流 2 線式	正極	—		負極

19. 絶縁抵抗 (2.18.2)

低圧配線の絶縁抵抗は、下表により測定し、開閉器等で区切ることのできる回路ごとに 5MΩ 以上、機器が接続された状態で 1MΩ 以上とする。ただし、EM-UTP ケーブル、電子機器等の損傷が予想される場合は除く。

電路の使用電圧	定格測定電圧	
	一般の場合	制御機器等が接続されている場合
25V / 50V 級	25V / 50V	
100V 級	500V	125V
200V 級		250V
400V 級		500V

※推奨値がある場合は、それを優先とする。

20. 接地工事 (2. 13. 10) (2. 13. 11)

接地極の上端は、地表面下 0.75m 以上の深さに埋設する。接地線は、地表面下 0.75m から地表上 2.5m までの部分を硬質ビニル管で保護する。(C 種・D 種接地線は金属管を用いることができる。) なお、銅板及び銅棒は地面に対し垂直方向に埋設すること。

21. 接地抵抗測定用補助極

接地抵抗測定用補助極を 10m の間隔を空け直線上に設置し、接地端子盤又は端子台に測定用端子を設ける。補助極の埋設部には、コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。

22. 各接地と雷保護設備、避雷器の接地との離隔 (2. 13. 13)

接地極及びその裸導線の地中部分は、雷保護設備、避雷器の接地極及びその裸導線の地中部分から 2m 以上離す。

23. 接地極埋設標 (2. 13. 14)

接地極の埋設部には、コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。A 種、B 種及び C 種接地極の埋設位置の近くには、接地極埋設標(黄銅板製厚さ 1.0mm 以上、140mm×90mm 以上、文字はエッチング又は打刻)を設け埋設位置、深さ、埋設年月、接地種別、接地抵抗値を刻記する。

24. 接地抵抗値

A 種、B 種及び C 種は電気設備技術基準の解釈第 17 条に従う。D 種接地抵抗値は 50Ω 以下とする。

25. 接地極

A 種、B 種及び C 種は銅板(900mm×900mm×1.5mm 厚)及び補助棒は 14φ×1,500mm を 2 本以上とし、それぞれ規定値以下とする。D 種は 14φ×1,500mm で 2 連結以上とする。

26. 盤類 (1. 7. 3) (1. 1. 3)

(1)分電盤、制御盤、端子盤、キュービクル式配電盤等の標準厚さは、下表に示す値以上とする。

また、各部は必要に応じて補強を施す。

盤の種類	設置場所	標準厚さ(mm)	
		鋼板製	ステンレス製
分電盤、制御盤、端子盤等	屋内、屋外	1.6	1.2
キュービクル式配電盤等	屋内	1.6	1.5
	屋外	2.3	2.0

(2)塗装について、下地処理(りん酸塩処理)を行ったのち、下塗りは電着塗装(SUS 製の場合は不要)、仕上げは指定色(参考 屋内：2.5Y9/1、屋外：5Y7/1、半艶)焼付塗装とする。

(3)製造者、製造年月、受注者名、受注者電話番号を表示した銘板を取り付ける。

(4)盤内でケーブルの固定等に利用する結束バンド等は、耐候性のあるものを使用する。

(5)盤の扉の鍵はタキゲン製造(株)製 No. 200 で開錠可能なものとする。

27. 防火区画等の貫通 (2. 1. 10)

ケーブル、ケーブルラック及びダクトが防火区画を貫通する場合は、関係法令に適合したもので、

貫通部に適合する材料及び工法とする。防火区画貫通の耐火処理工法については、耐火性能を証明するものを監督員に提出する。なお、施工場所の近傍には、必要事項を記載した表示を設けること。

28. プルボックス (1.2.6)

屋外は、防水型ステンレス又はステンレス指定色メラミン焼付塗装を原則とする。また、隠ぺい部のふたの止めねじは、ちょうねじとする。屋外取付の際は、設置面周辺に防水コーキングを施すこと。

29. 機器取付高さ

機器の取付高さは、図面に記載のない場合は次の表による。

	名 称	レベル	取付高さ(mm)
電 灯	分電盤	床上～中心	1,500
	スイッチ(一般)	床上～中心	1,300
	スイッチ(多機能トイレ)	床上～中心	1,100
	コンセント(一般)	床上～中心	300
	コンセント(和室)	床上～中心	150
	コンセント(台上)	台上～中心	150
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100
	ブラケット(踊場)	床上～中心	2,500
	ブラケット(鏡上)	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯(壁付・壁掛)	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動 力	制御盤	床上～中心	1,500
	手元開閉器	床上～中心	1,500
	操作釦	床上～中心	1,300
電 話	端子盤	床上～下端	500
	保安器箱	床上～下端	500
	ボックス(一般)	床上～中心	300
	ボックス(和室)	床上～中心	150
	MD F	床上～上端	500
火 災 報 知	火報受信機(複合盤)、副受信機	床上～操作部	800～1,500
	機器収納盤	床上～操作部	800～1,500
	発信機	床上～操作部	800～1,500
	警報ベル	天井～操作部	(天井高×0.9)
	表示灯	天井～操作部	(天井高×0.8)
そ の 他	呼出ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	900, (400)
	復帰ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	1,300
	廊下表示灯(多機能トイレ)	床上～中心	2,000

注1)ユニバーサルデザインを適用する場合は「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備マニュアル」を参考とする。

注2)(天井高)×0.9 及び(天井高)×0.8 は天井高が 2,500～3,000mm の場合に適用する。天井高 3,000mm 以上の場合及び上記取付高さにおいて、機器の使用に支障が生じる場合は監督員と協議すること。

注3)呼出ボタン(多機能トイレ)の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

30. 配管等の耐震施工 (2.1.13)

横引き配管等は、地震力に耐えるよう下表により標準図(電力 30)の S_A種、A 種又は B 種耐震支持を行う。鉛直震度は水平震度の 1/2 とし同時に働くものとする。ただし、建築の構造体が免震構造、制震構造等である場合は、構造体の特性を考慮し下表の内容を準用する。

なお、呼び径が 82mm 以下の単独配管、周長 800mm 以下の金属ダクト、幅 400mm 未満のケーブルラック、幅 400mm 以下の集合配管、定格電流 600A 以下のバスダクト及びつり材の長さが平均 0.2m 以下の配管等の場合は、耐震支持を省略できる。

設置場所	耐震安全性の分類					
	※特定の施設			・一般の施設		
	水 平 震 度	適用		水 平 震 度	適用	
		電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)	ケーブルラック		電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)	ケーブルラック
上層階 屋上及び塔屋	2.0	12m 以内ごとに S _A 種耐震支持	6m 以内ごとに S _A 種耐震支持	1.5	12m 以内ごとに A 種耐震支持	8m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持
中間階	1.5	12m 以内ごとに A 種耐震支持	8m 以内ごとに A 種耐震支持	1.0	12m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持	12m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持
1 階及び地下階	1.0			0.6		

注) (1) 設置場所の区分は配管等を支持する床部分により適用し、天井面より支持する配管等は直上階を適用する。

(2) 上層階は、2 から 6 階建の場合は最上階、7 から 9 階建の場合は上層 2 階、10 から 12 階建の場合は上層 3 階、13 階建以上の場合は上層 4 階とする。

(3) 中間階は、1 階及び地下階を除く各階で上層階に該当しない階とする。

31. 機器等の耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説(平成 8 年版)」(建設大臣官房官庁営繕部監修)及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

(1) 設計用水平地震力

機器の重量【kN】に、設計用水平震度を乗じたものとする。なお、設計用水平震度は下表による。

設置場所	耐 震 安 全 性 の 分 類			
	※特定の施設		・一般の施設	
	※重要機器	※一般機器	・重要機器	・一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
地下階、1 階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

注) ()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

重要機器 ・ 配電盤等 ・ 発電装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ 直流電源装置
 ・ 自動火災報知受信機 ・ 構内交換装置 ・ 中央監視制御装置
 ・ 通信総合盤

水槽類の設計用水平震度

設置場所	耐 震 安 全 性 の 分 類			
	・ 特定の施設		・ 一般の施設	
	・ 重要水槽	・ 一般水槽	・ 重要水槽	・ 一般水槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
地下階、1 階	1.5	1.0	1.0	0.6

注) 重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す。

また、水槽類にはオイルタンク等を含む。

(2) 設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の 1/2 とし、設備機器の重心に水平地震力と同時に働くものとする。

32. 施工調査

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、全箇所を事前に走査式埋設物調査又はレントゲン撮影を行い、監督員に報告を行うこと。

33. 既存躯体への穿孔

穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。

34. 埋込アンカー、あと施工アンカー

- (1) 基礎を新設し、かつ機器単体で 100kg を超える場合は、埋込アンカーを使用して固定すること。
現場条件により埋込アンカーを使用できない場合は監督員と協議し、機器固定方法を決定する。
- (2) 配管、ダクト、機器等の天井吊り下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しないこと。
- (3) あと施工アンカーの施工に際しては、品質管理上、施工についての指導を行う施工技術管理者の配置や、十分な経験と技能を有する技能者により施工を行うこと。

第3章 電 気 方 式

1. 高圧

※ 三相 3 線式 6,600V 50Hz

2. 低圧

※ 单相 3 線式 100/200V 50Hz

・ 单相 2 線式 ※ 100V ※ 200V 50Hz

※ 三相 3 線式 ※ 200V ・ 415V 50Hz

・ 三相 4 線式 240/415V 50Hz

・ 直流 2 線式 ・ 100V

第4章 電 灯 設 備

1. 照明器具

LED 照明器具

2. 連結器具

照明器具 2 連結以上の電線接続は EM-EEF ケーブル 3 心を使用し、1 線は接地線とする。

3. 照明器具取付 (2.14.3)

原則として照明器具（器具質量 3kg 以下のダウンライト形器具を除く）は、スラブその他構造体に呼び径 9mm 以上のつりボルト 2 本以上で堅固に支持する。ただし、天井下地材より支持する照明器具は脱落防止の措置を施す。また、耐震上必要な場合は、ねじ、ワイヤ等により振れ止めを施す。

4. 照明器具の接地 (2.13.7)

照明器具の金属製部分及び LED 制御装置を別置とする場合の金属製外箱には、D 種接地工事を施す。ただし、次の場合は、接地工事を省略することができる。

- (1) 器具が二重絶縁構造の場合、直流 300V 以下又は対地電圧が交流 150V 以下の器具を乾燥した場所に施設する場合、又は器具外郭が合成樹脂等耐水性のある絶縁物製のものである場合。
- (2) LED 制御装置を別置とする場合において、器具と制御装置の間の回路の対地電圧が 150V 以下のものを乾燥した場所に施設する場合、又は簡易接触防護措置を施し、かつ器具と制御装置の外箱の金属製部分が、金属製の造営材と電気的に接続しないように施設する場合。

第5章 動 力 設 備

1. 漏電遮断器

電動機の定格電流が 50A 以下は定格感度電流 30mA 以下、動作時間は 0.1 秒以内とする。50A を超えるものは定格感度電流 100mA～200mA、動作時間は 0.1 秒以内とする。（動力について、15kW 以上は定格感度電流 100mA～200mA とする。）

2. 電流計

電動機用は、延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。

第6章 受 変 電 設 備

1. 形 式
 - ・ 開放形 ・ 屋内キュービクル式 ※ 屋外キュービクル式

キュービクル式の場合

 - ※ 高圧部が露出する部分は、透明保護カバーを設ける。
 - ※ 盤内には、内部照明(LED)を盤ごとに設け、点灯・消灯はドアの開閉による。
 - ※ 点検用のコンセントは、同一列盤で1箇所以上設ける。
2. 交流遮断器
 - ※ 真空遮断器(12.5kA) ・ ガス遮断器
3. 断路器
 - ※ 手動ばね式 ・ 電動ばね式 ・ 電磁操作方式
3. 断路器
 - ※ 三極単投断路器(避雷器用は除く。)
 - ・ 単極断路器
4. 高圧負荷開閉器
 - ※ 手動操作式 ・ 遠方手動操作式 ・ 電動操作式

相間及び側面に絶縁バリアを設ける。
5. 高圧引込開閉器
 - ※ 過電流蓄勢トリップ付地絡トリップ形で制御電源用変圧器を内蔵とする。
 - ※ 柱上用気中開閉器(VT、LA 内蔵) ・ 地中線用気中開閉器(VT 内蔵)
 - ※ SOG 制御箱の材質はSUS 製とし、容易に点検ができる高さに、開閉ひもはGL+2, 500mm の位置に取り付ける。
6. 変圧器
 - ※ 連続定格自冷式 (※ 油入式 ・ モールド式 ・ H 種乾式)

付属機器(※ ダイアル式温度計 ※ 防振ゴム)

 - ・ 振止め

※ 見やすい位置にタップ値を明示する(設定値、年月日)。

※ 変圧器ごとに漏洩電流を容易に測定できるように接地線を配置すること。
7. 高圧進相コンデンサ
 - ※ 油入式 ・ モールド式
8. 直列リアクトル
 - ※ 油入式 ・ モールド式
 - ※ 6% ・ 13%
9. 避雷器
 - ※ 酸化亜鉛型 ・ 弁抵抗型
10. 計器類
 - 高圧盤 ※ 電圧計 ※ 電流計 ※ 力率計 ・ 電力計
 - 低圧盤 ※ 最大需要電流計(※2 分デマンド ・ 5 分デマンド ・ 10 分デマンド)
 - ※ 電流計は多機能型デジタル(階級 1.5 級以上)とし、警報接点付、需要指示値、最大需要指示値の機能を有する。
 - ※ 計器類高さは中心でFL+1, 600 mm程度とする。
11. デマンド警報装置
 - ※ 無線通信方式 ・ 有線通信方式
12. 標識・表示
 - ※ 立入り禁止 ※ 高圧危険 ※ 主要機器銘板
13. 接地
 - ※ 接地線は、漏洩電流を容易に測定できる位置に設置し、接地種別をプレートに彫刻し、墨入れ表示すること。
 - ※ 施工前に接地抵抗値を測定し、基準値未満であることを確認すること。

第7章 電 力 貯 蔵 設 備

第1節 直流電源装置

防災電源(消防法(昭和23年法律第186号)による非常電源、建築基準法(昭和25年法律第201号)による予備電源)となる直流電源装置は、消防法及び建築基準法に適合したもの又は、蓄電池設備認定委員会((一社)日本電気協会)の認定証票が貼付されたものとする。

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方式 ※ 自然換気 ・ 機械換気
3. 蓄電池

据置鉛蓄電池

(2.1.6)

	構 造	極板構造	シールの種類	適 用 規 格	
・	ベント形	クラッド式	—	JIS C 8704-1 据置鉛蓄電池	
・		ペースト式			
・	シール形	クラッド式	触媒栓式	JIS C 8704-1 据置鉛蓄電池	
・		ペースト式			
・		ペースト式	制御弁式	JIS C 8704-2	MSE
・				制御弁式据置鉛蓄電池	長寿命MSE

注)長寿命 MSE は JIS C 8704-2 によるほか、JIS C 8702-1 附属書 1(参考)「高温加速寿命試験」を行い、期待寿命を 13 年以上有するものとする。

また、蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

アルカリ蓄電池

	構 造	極板構造	シールの種類	適 用 規 格	
・	シール形	ポケット式	触媒栓式	JIS C 8706	据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
・		焼 結 式			
・		焼 結 式	陰極吸収式	JIS C 8709	シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池

注)蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

第 2 節 交流無停電電源装置(UPS)

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方法 ・ 自然換気 ※ 機械換気
3. 蓄電池

「第 1 節 直流電源装置 3. 蓄電池」による他 簡易形は下表による。

呼称	適 用 規 格
蓄電池	JIS C 8702-1 小形制御弁式鉛蓄電池-第 1 部
	JIS C 8702-2 小形制御弁式鉛蓄電池-第 2 部
	JIS C 8702-3 小形制御弁式鉛蓄電池-第 3 部

注)蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

4. 逆変換装置(インバータ) ・ トランジスタ式 ※ サイリスタ式
5. 回路方式
 - ・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式
 - ・ 常時商用給電方式

第8章 発電設備

第1節 燃料系発電装置

1. 形式 ※ キュービクル式 ・ 簡易形 ・ オープン式
2. 時間定格 ・ 連続 ※ 1時間 ・ 10時間
3. 原動機 ※ ディーゼル ・ ガスエンジン ・ ガスタービン
4. 始動方式 ・ 10秒以内電圧確立 ※ 40秒以内電圧確立
5. 冷却方式 ※ ラジエータ式 ・ 循環放流式 ・ 貯水槽循環方式
6. 始動方式 ※ 電気始動 ・ 空気始動
7. 直流電源装置 ※ 鉛蓄電池 ・ アルカリ蓄電池
8. 燃料 ・ 灯油 ※ 軽油 ・ A重油
9. 認定 ※ 消防法及び建築基準法に適合したもの又は、(社)日本内燃力発電設備協会認定票が貼付されたものとする。
10. 電圧 ・ 高圧 ※ 低圧
11. 騒音 ・ 超低騒音形 ※ 低騒音形 ・ 一般形
12. 保護形式 ※ 保護形とする。
13. 絶縁 ・ 耐熱クラスは低圧においてはE以上、高圧においてはB以上とする。
14. 燃料小出槽 ※ 鋼板製、外面はさび止めペイント2回塗りのうえ調合ペイント2回塗りとする。
・ ステンレス製
15. 標識・表示 ※ 立入り禁止 ※ 発電設備 ・ 高圧危険 ※ 機器銘板
※ 内蔵蓄電池推奨更新時期・期間

第2節 太陽光発電装置

(1.7.2) (1.7.3)

太陽電池アレイ及び接続箱の据付けは、建築基準法施行令(昭和25年政令第338号)第87条又はJIS C8955「太陽電池アレイ用支持物の設計用荷重算出方法」に定めるところによる風圧力に耐えるものとし、自重、積雪及び地震その他の振動及び衝撃に対して、耐える構造とする。

1. 太陽電池モジュール ・ シリコン系(・ 結晶型 ・ 薄膜型) ・ 化合物系
2. パワーコンディショナ 太陽電池出力の監視制御等により、全自動運転可能なものとする。
・ 逆潮流あり ・ 逆潮流なし
・ 単独運転検出機能あり ・ 単独運転検出機能なし
3. 系統連系保護装置 製造者標準とする。

第9章 通信・情報設備

第1節 構内情報通信網設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法(昭和59年法律第86号)及び電波法(昭和25年法律第131号)に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

第2節 構内交換設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
3. 局線応答方式
 - ※ ダイヤルイン方式 ・ ダイレクトインダイヤル方式
 - ・ ダイレクトインライン方式 ・ 中継台方式
4. 電話機等
 - ※一般電話機 ※多機能電話機 ・ IP電話機 ・ PHS
5. 蓄電池
 - ※更新推奨時期・期間を表示すること。

第3節 拡声設備

1. スピーカ 壁面付型は2点で強固に取付ける。
非常放送設備兼用スピーカは日本消防検定協会の認定に合格したものとする。
2. 配線等 非常放送設備用の配線は消防法等に適合したものとする。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
3. 蓄電池
 - ※更新推奨時期・期間を表示すること。

第4節 テレビ共同受信設備

1. 機材 アンテナ等は各地域の状況に合わせた機材を使用する。
2. 配線等 原則として、途中接続は行わないこと。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

第5節 自動火災報知設備

1. 機材 受信機、中継器、発信機、感知器については日本消防検定協会又は登録検定機関の行う検定に合格したものとする。
2. 配線等 消防法等に適合したものとする。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
3. 蓄電池
 - ※更新推奨時期・期間を表示すること。